

九州歴史資料館年報

令和5年度



九州歴史資料館

はじめに

古くから中国大陸、朝鮮半島などとの対外交流の窓口として重要な役割を果たしてきた九州・福岡県には、先人たちの足跡をたどることができる多彩な文化財が各地に残されています。

当館は、九州全域を視野に入れつつ福岡県ゆかりの文化財の調査・研究・活用等を行う博物館としての機能と、大宰府史跡等の発掘調査・研究及び出土品の管理等を行う埋蔵文化財センターとしての機能を併せ持っています。また、令和3年3月に策定された「福岡県文化財保護大綱」では、県内地域の文化財保護の充実のため、文化財保護課と一体となって、市町村の文化財保護の取り組みへの助言や支援の役割強化を担うことが求められています。

当館は、昭和48年に福岡県太宰府市に開館し、平成22年に弥生時代の集落遺跡である三沢遺跡に隣接する現在の地（小郡市三沢）へ移転しました。

令和5年2月には開館50周年の節目を迎え、同年8月に、国際日本文化研究センター教授 磯田道史氏をお招きし、開館50周年記念講演会を開催しました。

5年度は、新型コロナウイルスによる行動制限が解除され、緩やかに平常な生活に戻る中、各地で対面式のイベントが開催されました。当館でも、新しい取り組みとして、夜間営業（ミュージアムナイト）を開催し、多くの方に御参加いただきました。

また、4年度から着手している古代史研究では、太古よりアジアの玄関口として機能し続けている福岡を視座に据えた新たな古代史像の構築を目指し、その研究対象を弥生時代や古墳時代にも広げ、特別展「船原古墳とかがやく馬具の精華」や九歴講座「福岡県の古墳時代」を開催し、映像コンテンツ「筑紫君磐井の乱の実像に迫る」を制作しました。

この年報では、当館が5年度に実施した調査・研究活動、各種事業の概要を報告します。

今後も当館に求められる役割を全うすべく、職員一丸となって、魅力ある施設づくりを進めてまいります。引き続き、御理解と御支援を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、この年報が多くの方々に御活用いただければ幸いに存じます。

令和6年7月

九州歴史資料館長

吉田法稔

目 次

1 事業概要	
（1）調査・研究	4
（2）展 示	17
（3）資料利用	26
（4）学習支援・博学連携	37
（5）ボランティア	44
（6）普及・活用事業	47
（7）重点施策	62
（8）広報活動	64
（9）実習・研修	68
（10）市町村支援	72
（11）刊行物一覧	78
（12）交流事業	79
（13）協議会等	79
2 九州歴史資料館概要	
（1）沿 革	80
（2）施設概要	82
（3）予 算	82
（4）組織・職員	83
（5）関係法規	84
3 諸 統 計	
（1）入館者状況	90
（2）収蔵資料・図書	90
4 日 誌 抄	91

1 事業概要

(1) 調査・研究

[学芸調査室学芸研究班]

◎美術工芸資料に関する調査研究

造形遺品を対象として調査研究を進めている。対象としては、古代から中世にかけての仏像や仏画などのいわゆる仏教美術と、近世絵画を主として据えながら、その他の彫刻、絵画、工芸も広く意識して扱うように努めている。このような調査研究を通して、九州や現在の福岡県域が、わが国の歴史の中で、また東アジアの歴史の中で、どのような特色をもち、どのような役割を果たしてきたのか、その一面を明らかにするべく意識している。令和5年度は以下の通りの活動を行った。

○寺社所蔵資料の調査研究

造形遺品が集中する場として、寺社が挙げられる。当館では、地域の歴史において中核的な役割を果たしてきた寺社をとり上げて、そこに伝わる造形遺品を中心とした文化財を悉皆的に調査して、当該寺社を考えることを通して地域の特色を把握しようという調査研究を核としながら、特定地域の造形遺品について集中的に調査を行うことで、その地域の特色を浮かび上がらせようとする調査研究を進めている。その他にも地誌をはじめとする各種史資料や、市町村の文化財担当者から得られた情報に基づく調査などを、臨機的に組み込みながら調査研究活動を行っている。

5年度は、近年取り組んでいる九州北部を中心とする山岳霊場とそこに所在する尊像の調査を継続した。精査を行った目立った存在を例示すると、宗像市鎮国寺奥の院の平安時代後期の石造不動明王立像、熊本県山鹿市康平寺の平安時代前期の地蔵菩薩立像、山口県山陽小野田市菩提寺山の奈良時代の可能性がある磨崖聖観音立像等がある。また、浮嶽神社所蔵文書の調査も始めた。同文書は幕末から近代にかけてのものであるが、浮嶽周辺における神仏分離前後の様相について、具体的に検討してゆく上で重要な資料となるものである。

3年度に開始し、その後継続している、高良山ゆかりの仏教美術作品の調査も継続している。高良山には高良大社が存在していて、今は神の山の印象があるが、ここも神仏分離以前は仏教が共生して繁栄を見せていた。神仏分離の後も仏教的な遺品は、多くが山麓やゆかりの地で命脈を保っており、それらを悉皆的に調査することで、ありし日のあり方を蘇らせようと試みているところである。5年度は久留米市宮ノ陣の国分寺の調査をおえ、その成果を当館の研究論集にて報告した。14世紀頃の制作と考えられる作例をはじめこの寺に集中して遺る元三大師（慈恵大師良源）像の一群や、平安時代後期に遡る毘沙門天立像、元龜3年（1572）にいわゆる博多仏師の一人である猪熊与次郎によって造像された不動明王坐像など、これまで知られていなかった注目すべき作例を確認できた意義は大きい。



その他、諫早市と共に継続し 国分寺木造慈恵大師坐像（左） 木造不動明王坐像（右）（久留米市）

ている市内の寺社における文化財の確認調査等も行っている。

○九州に偏在する大陸系彫刻の調査研究

九州に偏在している、中国の明時代以前の彫刻、朝鮮半島渡来の彫刻について、調査と研究を進めている。中国の明時代以前の彫刻については、奈良時代以降の日本の彫刻への影響を考える上で重要な存在でありながら、これまで必ずしも調査が進んでいなかったところを前進させ、より具体的に九州の彫刻への大陸からの影響や、日本彫刻史における大陸からの影響を考える上での有用な基盤を形成するために、調査と研究を進めているものである。調査は木彫像や塑像等にとどまらず、そのほとんどが九州西側に存在する中国渡来石塔である薩摩塔に刻まれた5軀の尊像、またその他の中国渡来石造物までを対象としている。薩摩塔については、福岡市西区今津から新たに見出された須弥壇断片と、長崎県大村市寶圓寺から新たに見出された塔身について調査を行い、当館研究論集にて報告した。

○福岡県内の絵画調査と研究

4年度までに引き続き、福岡県内の絵画について、近世の作例を中心に調査をおこなっている。5年度は、福岡県の近世絵画史を語る上での重要人物の一人である、斎藤秋圃が描いた、朝倉市秋月博物館所蔵の島原陣図屏風を調査した。斎藤秋圃は大坂新町の幫間から秋月藩のお抱え絵師となり、隠居後は太宰府に住んで町絵師として活躍した人物である。その秋圃の秋月藩お抱え絵師時代の代表作と言える島原陣図屏風について、あらためて調査して基礎資料を調べた。

またここでは、2年にわたって修理が行われていた、当館保管でみやこ町曼陀羅寺所蔵の当麻曼茶羅図が修理をおえたことも報告しておきたい。鎌倉時代の13世紀前半に遡る当麻曼茶羅の優品たる同作例については、従来は損傷のために公開が憚られる状態であったものの、この度の修理によって面目を一新した。今後はまずは地元にて公開の後に、定期的に当館にて公開してゆく予定である。

○文化財の保護活動

当館では、現地での保管が困難ないしは危険であり、かつ当面所在地を離れても、地域の信仰文化に深刻な影響を与えることはないと判断される、文化財としての意義をもった仏像や神像、仏画等々をはじめとする文化財について、受け入れを行っている。この際は、緊急避難を受け入れた上で、地元の環境を整えることに協力し、整えば再び地元で保管するということを、理想の形として心がけている。5年度は、しばし燻蒸や調査のために保管していた大川市浄福寺の阿弥陀如来坐像と如来形坐像をお返しした。両像ともに中世に遡る作例で、後者には天正18年（1590）の紀年銘がある。今後浄福寺や当地周辺の中世について考える上で、大切な存在になると思われる。また当館では、県指定文化財等を安置する堂宇や収蔵庫の建て替えに伴う一時保管を行うこともある。

◎考古基準資料調査

○福岡県内近世陶磁器研究

飯塚市白旗山窯の現地確認および出土陶片、窯道具の悉皆調査を行った。白旗山窯は高取焼の窯跡で、小堀遠州の「きれいさび」という茶風にあった陶器を作ったといわれる。実際には青磁や白磁なども作っており、その窯業の実態は複雑なさまがうかがい知れた。

また、昨年度と同様に久留米市が行っている福聚寺の本堂改修・収蔵庫新設に伴う文化財確認調査に参加し、近世後期の陶磁器群についての所見を得た。

○中世北部九州出土の喫茶関係遺物の研究

館内等に収蔵している中世の遺跡から出土した喫茶関係遺物についての研究を行った。一般的な

喫茶の歴史では、古代の団茶、中世の抹茶、近世の煎茶といわれてきた。しかし、発掘事例の増加や歴史学・美術史の研究が進み、近年、喫茶の実相に多様性があることが分かってきた。本研究は中世北部九州、特に福岡で喫茶の実相を考えるうえで重要な遺跡について、遺構や出土遺物から喫茶の様相を考えるものである。5年度は朝倉市黒川院関連遺跡群の出土品の調査を行った。

◎文書・典籍資料の調査研究

当館では、古代から近現代におよぶ各時代の古文書・典籍資料のほか、出土文字資料や写真・映像資料など、広く記録資料を対象として、福岡県域そして九州の歴史的な役割・特質を明らかにすべく、調査研究活動を行っている。

○出土文字資料の調査研究

5年度は、大宰府政庁周辺官衙跡蔵司地区の発掘調査の正式報告書が刊行された。当該報告書に「文献史料からみた蔵司地区」として、蔵司西地区出土木簡をはじめとする出土文字資料や、『類聚三代格』など伝世史料にもとづき、発掘調査成果と合わせながら、蔵司地区の機能や歴史の変遷を検討した。

○福岡県史編纂史料等の調査研究

福岡県史編纂史料は、平成22年度の当館の移転開館に伴い、新たに収蔵した約15万点の史料群である。移管後は、閲覧・レファレンスのほか、未整理史料の整理を引き続き実施し、一方で展示への活用や調査研究も積極的に行っている。このほか、筑豊工業高校資料、太田静六資料等の館蔵資料についても、引き続き調査研究・整理作業に努めている。県史編纂史料に含まれる永江文書のうち、未受領であった書状・書類等5箱、アルバム1箱等を、当館に搬入し、燻蒸を行った。3年度と4年度に搬入された史料とあわせて、6年度以降に、目録の作成と公開に向けた整理を行う予定である。

さらに、後述の戦時内政に関する調査の一環として、九州地方行政協議会に関する伊東尾四郎文書を調査し、その成果は5年度特集展示「昭和の大宰府再置～九州地方行政協議会と九州地方総監府～」などで発表している。

○県内・県外所在資料の調査研究

5年度は、まず『日本書紀』にみえる馬に関する記事を検討し、とくに6世紀以降、日本列島で馬の飼育がさかんに行われ、朝鮮半島へも輸出されていたことを確認した。その成果は、特別展「船原古墳とかがやく馬具の精華」において、展示されている古墳時代の馬具の実物に関する歴史的背景を説明するものとして公開した。加えて、6年度特別展「筑紫君一族史」の準備のため、『古事記』や『日本書紀』、『風土記』等にみえる筑紫君に関する史料、筑紫君と同時代にあって、時に敵対的でもあった胸肩君や水沼君に関する史料を検討し、磐井の乱の前後における筑紫君の地域支配の実態について解明を試みた。

ついで、八女市指定文化財（一部）の木屋家文書（南北朝時代～近代）について、福岡県教育庁文化財保護課、八女市教育委員会と協力し、目録と照合しつつ全体の状態を確認し、記録写真を撮影した。

また、福岡県の近世地誌の研究資源化による地域史研究基盤の創設に関する研究の一環として、九州国立博物館の協力を得ながら、貝原益軒とともに『筑前国続風土記』の編纂に従事した竹田定直による校正本の大野城心のふるさと館所蔵の30巻本をはじめ、益軒全集所収本（30巻本）、九州歴史資料館（28巻本）、九州国立博物館（30巻本）、国立公文書館（28巻本5件）、宮内庁書陵部（28巻本1件、30巻本3件）、西尾市岩瀬文庫（28巻本）、松浦史料博物館（30巻本）、筑波大学附属図書館（28巻本）、大和文華館（28巻本）、徳島県立図書館（28巻本）、国文学研究資料館

(28巻本)、早稲田大学図書館(28巻本1件、30巻本1件)の写本を調査し、比較分析を進めた。

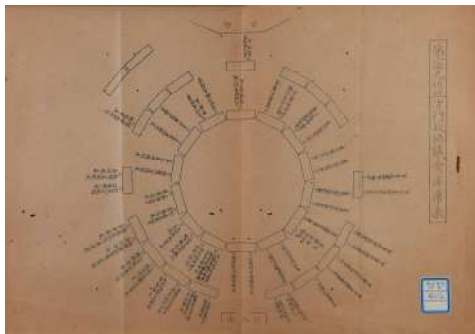
さらに、引き続き戦時期の内政・軍政に関する文書調査を行った。特に、昭和20年に福岡県に設置された九州の陸軍統括司令部である西部軍管区・第十六方面軍司令部に関する史料を、防衛省防衛研究所、靖国偕行文庫、国立国会図書館等で調査した。調査成果は、5年度の『九州歴史資料館研究論集』等で発表している。また内政面での九州統括機関であった九州地方行政協議会と九州地方総監府に関する調査も、福岡共同公文書館や福岡県立図書館で継続して実施した。その成果は前述の特集展示で紹介したほか、学会発表として10月22日に開催された九州史学研究会大会でも発表している。



大宰府史跡第4次調査(蔵司西地区)
出土木簡



『日本書紀』第8冊、継体天皇6年(512)
4月丙寅(6日)条



第一回九州地方行政協議会関係資料



第一回九州地方行政協議会顛末概要

[学芸調査室文化財科学班]

◎文化財の保存処置

○木製遺物の保存処理

木製遺物の保存処理は、含水率測定や樹種同定などの事前調査、トレハロースによる含浸処置、含浸処置後の余分なトレハロースを除去する表面処理といった工程で行っている。5年度は、2遺跡13点の保存処理を行った。

○金属製遺物の保存処理

金属製遺物の保存処理は、X線CTスキャナや蛍光X線分析装置などの事前調査、土砂や錆を除去するクリーニング、腐食促進因子を除去する脱塩処理、合成樹脂含浸による強化処置といった工程で行っている。5年度は11遺跡109点の保存処理を行った。

○美術工芸・古文書・典籍・歴史資料に対する保存処理

美術工芸・古文書等の保存処置について、現状では文化財の有害生物を対象に、資料への被害状況、劣化状況等の保存状態調査を経て、資料に対して適切な処置を行っている。

5年度は、有害生物の被害がみられたとして、柳川古文書館、県立図書館、太宰府市公文書館、北九州大学附属図書館および当館寄贈・借用資料について、処置を行った。

○館内の保存環境整備に関する取り組み

年間をつうじて、第一展示室、特別収蔵庫各室の温湿度測定や空調設備の制御状況の確認、特別収蔵庫周辺の有害生物監視を継続的に行った。今後も、文化財に対する有害生物をできる限り軽減させ、適切な環境のもと、保存できるよう測定や監視等の取り組みを継続する。

○各種文化財の保存対策

資料の保存環境を整備するため、平成22年度から関係部署と共に、温湿度等の保存環境調査を行っている。今年度、作業を行ったのは、宗像大社神宝館であり、展示室、収蔵庫内に測定地点を定めデータログを設置、数カ月おきにデータ収集と定期点検を行った。そのほか宗像大社へは、国宝沖ノ島出土品保存活用計画策定の支援を行った。

また、4年度から、装飾古墳石室内環境に関する支援を開始し、5年度も王塚古墳（桂川町）、五郎山古墳（筑紫野市）、屋形古墳群（うきは市）の保存環境整備に対応した。調査、支援により、適切な保存環境整備に向けた取り組みの計画・立案に寄与している。

○各種文化財の科学的調査

5年度の外部機関に基づく科学的調査は以下のとおりである。上記のほか、館蔵資料については随時、科学的調査を実施している。

	依頼機関	調査資料	使用機器	依頼日
1	那珂川市教育委員会	大万寺遺跡群出土鉄製品	X線CTスキャナ	R5. 5. 15
2	長崎県松浦市教育委員会	鷹島海底遺跡出土元寇沈没船部材	X線CTスキャナ	R5. 5. 30
3	山口市教育委員会	周防鑄銭司遺跡出土金属器	X線CTスキャナ	R5. 5. 31
4	嘉麻市教育委員会	旧嘉穂町内遺跡出土瓦器椀	X線CTスキャナ	R5. 6. 1
5	春日市教育委員会	門田遺跡出土鉄製品	X線CTスキャナ	R5. 6. 7
6	佐賀県文化課文化財保護・活用室	吉野ヶ里遺跡出土青銅製品	X線CTスキャナ	R5. 6. 22
7	北九州市教育委員会	水町遺跡出土鉄製品	X線CTスキャナ	R5. 6. 27
8	東北芸術工科大学	大学所蔵木製資料	X線CTスキャナ	R5. 10. 16

	依頼機関	調査資料	使用機器	依頼日
9	那珂川市教育委員会	大万寺遺跡群出土鉄製品	X線CTスキャナ	R5. 10. 24
10	うきは市教育委員会	吉井中学校遺跡出土品	蛍光X線分析	R5. 11. 15
11	那珂川市教育委員会	大万寺遺跡群出土鉄製品	X線CTスキャナ	R5. 11. 29
12	那珂川市教育委員会	大万寺遺跡群出土鉄製品	X線CTスキャナ	R5. 12. 8
13	飯塚市教育委員会	ホーケントウ遺跡出土鉄製品	X線CTスキャナ	R5. 12. 26
14	飯塚市教育委員会	人形遺跡出土ガラス製品	蛍光X線分析	R5. 12. 26
15	飯塚市教育委員会	目尾遺跡出土鉄製品	X線CTスキャナ	R6. 1. 9
16	久山町教育委員会	片見鳥遺跡出土土製品	X線CTスキャナ	R6. 1. 11
17	久山町教育委員会	久山町所蔵歴史資料	赤外線撮影	R6. 1. 11
18	小郡市教育委員会	小郡中尾遺跡出土鉄製品	X線CTスキャナ	R6. 1. 24
19	福岡県立糸島高等学校	荒牟田古墳出土鉄製品	X線CTスキャナ	R6. 1. 30
20	岡山理科大学	曲り田・広田遺跡出土土器	X線CTスキャナ	R6. 2. 28
21	長崎県松浦市教育委員会	鷹島海底遺跡出土元寇沈没船部材	X線CTスキャナ	R6. 3. 4

○外部機関への協力・研修など

博物館等の保存施設新築、改築をはじめ、遺物の保存処置、保存環境をはじめとする文化財保存に関する外部機関からの相談・支援依頼に随時対応している。今年度、対応した外部機関は以下のとおりである。甘木歴史資料館、福岡県新県立美術館建設室、大野城市、宮若市教育委員会、長崎県松浦市教育委員会、国立アイヌ民族博物館、モンゴル国立博物館。

また、（一社）文化財保存修復学会理事会に理事として出席した。

◎船原古墳出土資料に関する共同研究

平成24年度に発見され、その後、遺物の取り上げ作業やX線CT調査等の支援を行った古賀市船原古墳遺物埋納坑出土遺物について、平成26年度より、古賀市教育委員会と当館との間で協定を締結し、科学的調査や保存処置に関する共同研究を開始している。

5年度も引き続き、これまで撮影したCTデータの解析を進め、現状における遺物の形状や数量等を抽出し、出土位置との照合を行い、全容を把握する作業を行った。遺物のクリーニング作業は、小札甲、冑など合計365点について実施した。



5年度クリーニング前の小札甲



5年度クリーニングを終えた小札甲

◎災害による被災文化財救援への対応

令和2年7月豪雨、令和5年7月豪雨により水損した文書の応急的保存処置を行った。

内容は、冷凍保存によるカビ繁殖防止、真空凍結乾燥法による乾燥処置、付着した土砂、カビのクリーニング、折れ、シワ等を伸ばすフラットニングやカビ、虫害が発生している資料への燻蒸処置である。

5年度は、個人蔵文書群（熊本県）と久留米緋関連資料2件について作業を実施した。



処置作業風景

[埋蔵文化財調査室文化財調査班]

文化財調査班の主たる業務は、国の機関や県及び外郭団体の開発事業に関わる発掘調査及び報告書作成等である。また、県内市町村の実施する発掘調査の支援も適宜行っている。加えて、2年度より4ヵ年（当初3ヵ年の予定を新型コロナウイルス感染症の影響により1年延長）をかけ、基礎的な調査として「福岡県近世窯業関係遺跡調査」を行った。また、4年度より3ヵ年の予定で、「福岡県装飾古墳総合調査」も行っている。県内市町村の埋蔵文化財担当者を対象とした「福岡県埋蔵文化財発掘調査基礎研修」については、5年度は全7回の講座として企画した。

◎発掘調査及び報告書作成

5年度の発掘調査は、道路改良事業に係る発掘調査を実施した。報告書作成に関しては受託事業及び執行委任事業に係る事前の整理作業を行った。

発掘調査は、福岡県県土整備部の執行委任を受け、主要地方道久留米筑紫野線道路改良道路事業（十郎丸長谷古遺跡第3次調査）及び都市計画道路三橋筑紫橋道路線道路改良事業（坂本町遺跡）の計2件を実施した。整理作業は、受託事業として令和3年度に発掘調査を実施した一般国道210号浮羽バイパス（国土交通省九州地方整備局福岡国道事務所・関戸遺跡）及び執行委任事業として主要地方道久留米筑紫野線（十郎丸長谷古遺跡第2次調査）、都市計画道路三橋筑紫橋道路線道路改良事業（坂本町遺跡）の計3件を実施した。

以下、5年度に実施した発掘調査の概要を掲載するが、現在整理中のものも含まれており、詳細については、刊行予定の報告書に拠りたい。

○主要地方道久留米筑紫野線道路改良事業

- ・十郎丸長谷古遺跡第3次調査（久留米市）

本遺跡は久留米市北野町十郎丸・今山に所在する。筑後川の支流である大刀洗川右岸にあり、周知の埋蔵文化財包蔵地「古町遺跡」の北西側に位置する。3年度からの発掘調査の継続事業である。調査の結果、弥生時代の堅穴住居跡3棟、古墳～奈良時代の堅穴住居跡1棟、掘立柱建物4棟、中世の墓1基、近世の大溝他を検出している。

近世の大溝は物資運搬用の運河の可能性が考えられる。



十郎丸長谷古遺跡第3次調査（左：空中写真 右：I区2号堅穴住居跡）

○都市計画道路三橋筑紫橋線道路改良事業

- ・坂本町遺跡（柳川市）

本遺跡は柳川市坂本町に所在し、柳川城址の北側に位置する。寛政3（1791）年の絵図によると、武家屋敷があった場所に該当する。発掘調査の結果、盛土等の嵩上げにより、2面の遺構面が重なっていることがわかった。遺構は主に江戸時代の建物跡1棟、井戸8基、柵列6列以上、土坑93基、溝49条を検出している。



坂本町遺跡（左：空中写真 右：井戸）

5年度文化財調査班実施の発掘調査及び作成報告書一覧

発掘調査

遺跡名	所在地	調査面積（㎡）	調査期間	調査内容	調査原因
十郎丸長谷古遺跡 第3次調査	久留米市北野町 今山	2,560㎡	2023.10.26～ 2024.03.28	集落	道路改良
坂本町遺跡	柳川市坂本町	1,400㎡	2023.05.09～ 2024.03.25	集落	道路改良

◎福岡県近世窯業関係遺跡調査

福岡県内では高取焼、上野焼を始め、近世以降多くの陶磁器が生産されている。また、近年では小石原焼が重要無形文化財に指定されるなど、県内の窯業に対する関心が高まっている。

そのような中で福岡県では、県内に所在する近世以降の窯業関係の生産遺跡を対象に、総合的な緊急分布調査を行うこととし、2年度から基礎調査を開始した。

4ヵ年目となる5年度は、4年度より継続して現地調査を行った他、得られた情報の最終的な取りまとめを行った。有識者3名からなる「福岡県近世窯業関係遺跡調査指導委員会」は11月10日、須恵町にて実施した。5年度は重点調査のさらなる充実を図り、報告書としてとりまとめた。



福岡県近世窯業関係遺跡調査指導委員会 11月10日（左：須恵焼展示調査 右：委員会）

福岡県近世窯業関係遺跡調査指導委員会委員名簿（令和6年3月31日現在）

	氏名	所属等	専門
委員長	大橋 康二	佐賀県立九州陶磁文化館名誉顧問	陶磁史
委員	辻田 淳一郎	九州大学人文科学研究院研究院准教授	考古学
	宮地 英敏	九州大学附属図書館記録資料館准教授	日本経済史

◎福岡県装飾古墳総合調査

本県では、全国でも2番目に多い80基余の装飾古墳が所在しており、装飾古墳は本県の古墳時代の象徴的存在として知られている。本館では、装飾古墳の歴史的な位置付けや評価と適切な保存管理を行うために必要なアーカイブ化を目的として、4年度から県内装飾古墳の総合調査を実施している。



益生田12号墳調査

2年目である5年度は、4年度に引き続き、所在調査と既存情報の把握、整理を行った。また、最新のデジタル機器を駆使して三次元計測を行った。調査の計画や実施内容については、有識者3名からなる「福岡県装飾古墳総合調査指導委員」を5月26日に第3回を飯塚市、桂川町において、第4回を1月26日に久留米市において開催した。6年度は収集した情報を取りまとめ、報告書を作成する予定である。

福岡県装飾古墳総合調査指導委員会委員名簿 (令和6年3月31日現在)

氏名	専門	所属等
重藤 輝行	考古学	佐賀大学芸術地域デザイン学部教授 福岡県文化財保護審議会専門委員
辻田 淳一郎	考古学	九州大学人文科学研究院准教授
河野 一隆	考古学	東京国立博物館学芸研究部長

◎福岡県内における軍事に関する遺構の基礎的研究～飛行場を中心に～

本研究は、北部九州地域における昭和期の飛行場及び関連施設（主として「航空機用掩体」）を研究の主となる素材として取り上げ、分布と現状について文献及び現地踏査により資料を収集し、現存状況等を把握した上で基礎的な考察を行うものである。5年度は現地調査を再開するとともに、12月には九州歴史資料館において調査成果の一部をまとめたパネル展（25頁参照）を実施したが、新型コロナウイルス感染症による調査遅延の影響が大きく、本来の予定の一部に留まったため、研究を再延長することとなり、6年度に研究の成果をまとめる予定である。（科学研究費研究課題：研究代表者 森井啓次）



陸軍調布飛行場掩体

【埋蔵文化財調査室大宰府調査班】

大宰府調査班では、大宰府史跡と関連遺跡の調査研究を主な業務として取り組んでいる。5年度は、開発に伴う事前確認調査を1件、7月に発生した豪雨災害の復旧に係る事前確認調査を2件実施した。

◎大宰府史跡の発掘調査および報告書作成

5年度は、大野城跡や政庁周辺官衙跡の月山・月山東地区にて、開発に伴う事前確認調査や災害復旧に係る調査を行った。

報告書は『大宰府政庁周辺官衙跡XIV－蔵司地区 丘陵部編－』と『大宰府史跡発掘調査報告書XII－令和2～4年度－』を刊行した。

そのほか、大野城跡については、今後総合的な調査を行っていくことにしており、過去の調査の整理作業や基礎資料を得るための踏査及び地形図作成を行った。

詳細は下記のとおりである。

5年度大宰府史跡調査一覧

調査回数	面積 (㎡)	調査期間	調査地区
大野城跡第59次調査	6.3	2023. 6. 26	鮎返り地区
大宰府史跡第253次調査	14.8	2023. 11. 20～21	政庁周辺官衙跡・月山及び月山東地区
大野城跡第60次調査	11.2	2024. 3. 7～21	増長天地区
大野城跡踏査	約30,000	2023. 4～2024. 3	全域

○大野城跡第59次調査（鮎返り地区）

第59次調査は、福岡県のワンヘルスの森施設整備事業の一環で、バイオトイレを設置するのに先立って行った確認調査である。

調査はトレンチを設定して行い、その結果、地表下0.5m程で新しい時代の攪乱や造成土を確認し、地表下0.8～0.9mで地山に到達した。遺構・遺物は確認できず、付近は近代以降に造成されたことが想定された。



大野城跡第59次調査

○大宰府史跡第253次調査（政庁周辺官衙跡・月山及び月山東地区）

第253次調査は、災害復旧に係り、月山地区の丘陵東斜面崩落個所の天端、及び丘陵下の月山東地区にて行った確認調査である。

調査はそれぞれトレンチを設定して行った。丘陵上は、かなりの造成をうけており遺構は確認できなかったが、瓦片が少量出土したことから、かつては建物が存在したと考えられる。また、丘陵下は、地表化0.2～0.3mで地山を確認したが、遺構・遺物は確認できなかった。当該箇所は元々丘陵の裾部であった箇所は造成して平坦面を形成したと想定された。



大宰府史跡第253次調査

○大野城跡第60次調査（増長天地区）

第60次調査は、災害復旧の一環で、増長天地区の土塁線推定地にて行った確認調査である。

調査は崩落個所にトレンチを設定して行った。遺物は確認できなかったが、古代の土塁の版築及び基礎盛土を確認でき、土塁の一部が残存していることが明らかとなった。



大野城跡第60次調査

○大野城跡踏査（全域）

今後の調査に向け、全域を対象に踏査を行った。主に土塁線や建物群および平坦面等の現状把握を行い、課題を抽出していった。

また、これまでの測量データも利用して全体の1/2,500地形図を作成した。

◎大宰府史跡調査研究指導委員会

大宰府史跡の調査研究にあたっては、遺跡の性格上、あらゆる分野から総合的に取り組む必要があるため、考古学・歴史学・建築史学・造園学・土木工学などの専門家で構成する「大宰府史跡調査研究指導委員会」を設置し、その指導のもと、計画的に調査研究を進めている。5年度からは、調査研究と史跡整備の連動をはかるべく、これまでの「大宰府史跡整備指導委員会」を統合し、その中に「調査研究部会」と「史跡整備部会」を置くこととした。

5年度の大宰府史跡調査研究指導委員会は、令和5年6月20日（火）・21日（水）に開催し、大野城跡の現地視察、及び4年度の事業報告や5年度の事業計画の審議が行われた。

調査研究部会は令和6年1月16日（火）に開催し、大野城跡の既往の調査研究成果について報告したほか、今後の大野城跡の調査研究計画についての審議が行われた。

大宰府史跡調査研究指導委員会委員名簿（令和6年3月31日現在）

	氏名	所属	専門
委員長	佐藤 信	東京大学名誉教授	歴史学
副委員長	山中 章	三重大学名誉教授	考古学
委員	坂上 康俊	九州大学名誉教授	歴史学
	森 公章	東洋大学文学部教授	歴史学
	増渕 徹	元京都橘大学教授	歴史学
	本中 眞	独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所長	造園学
	亀田 修一	岡山理科大学名誉教授	考古学
	箱崎 和久	独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所	建築史学
	尼崎 博正	京都芸術大学名誉教授	造園学
	包清 博之	九州大学名誉教授	造園学
	末次 大輔	宮崎大学教授	土木工学
	森 弘子	元公益財団法人古都大宰府保存協会理事	地元有識者
	重藤 輝行	佐賀大学教授	考古学



大宰府史跡調査研究指導委員会（左：大野城跡現地視察 右：九州歴史資料館）

◎大宰府史跡調査研究検討会

大宰府史跡は複数の市町にまたがることから、その調査研究に際しては関係する市町等と情報を共有し、連携して行う必要があるため、5年度から大宰府史跡調査研究検討会を新たに立ち上げた。関係自治体は、福岡市、久留米市、小郡市、筑紫野市、春日市、大野城市、太宰府市、那珂川市、宇美町、佐賀県、佐賀県基山町であり、第1回目の検討会を令和5年12月25日（月）に当館にて開催し、大野城跡の調査研究についての検討及び情報交換を行った。

◎大宰府史跡蔵司地区の発掘調査報告会

期日：令和6年2月17日（土）13：30～16：50

共催：太宰府市教育委員会・（公財）古都大宰府保存協会

九州歴史資料館開館50周年と大宰府跡蔵司地区の発掘調査報告書が5年度末に刊行されることを記念して、プラム・カルコア太宰府（太宰府市中央公民館）で報告会を実施した。当館4名の職員から蔵司地区の発掘調査や出土品の成果を報告するとともに、5年度に国指定重要文化財となった「大宰府跡出土品」についての解説も実施した。203名の参加を得、当館が調査を行った蔵司地区の発掘調査成果について、多くの方々に知っていただく機会となった。



大宰府史跡蔵司地区の発掘調査報告会

また、大宰府展示館にて九州歴史資料館・（公財）古都大宰府保存協会の主催で、企画展「蔵司地区発掘調査成果展」（会期：令和6年2月6日（火）～3月24日（日））を開催した。会期中の見学者は2,586名にもおよび、報告会と合わせて盛況を博した。

◎大宰府史跡出土品の重要文化財指定に向けた保存と活用の為の三次元データベースの構築

本研究は、重要文化財大宰府史跡出土品の保存と活用のための三次元データベース作成を目的としたものである。研究の対象となる出土品に関しては軒丸瓦、軒平瓦などの瓦当を中心に写真データの取得に努め、三次元化の作業を行った。撮影したデータはAGISOFT社製のMetaShapeを用いて、三次元化を行っている。

（科学研究費研究課題：研究代表者 進村真之）



大宰府史跡出土軒平瓦635A型式三次元画像

(2) 展 示

◎常設展示

第1展示室では、「歴史(とき)の宝石箱」をテーマに、旧石器時代から近現代に至る福岡県の歴史を、遺跡からの出土品の他、仏像、古文書、古地図、古絵図等の実物を、概ね時系列に沿って展示することにより、通史的に紹介している。象徴的な資料と向き合うことを通して、福岡県さらには九州の歴史を体感できるよう意図している。文書や絵画資料については、資料の保全のため、また資料の調査研究の活性化やリピーター獲得のために、約2ヵ月ごとに展示替えを行っている。

第2展示室では、大宰府政庁中門の10分の1復元模型を展示する他、九州の大きさや地形、位置や距離を学ぶことができるように、床面の中央に縮尺10万分の1の九州の衛星写真を設置している。

第3展示室では、縦横に棚を連ねたロッカー式のケースに、福岡県内出土の弥生土器や須恵器、軒先瓦などを基本的に時系列に沿って並べ、形や文様、調整等制作技術の移り変わりが理解できる展示を行っている。また引き出し式のケースには、貿易陶磁や国産陶器等の破片資料を展示しており、それら資料の多彩な色や文様、胎土等の様子を観察することができる。

第4展示室では、旧石器時代や縄文時代の集石遺構、弥生時代の小児甕棺墓や銅矛銅戈埋納土坑、古墳時代の編み籠に入った須恵器、奈良時代の地盤強化のための筏状遺構、平安時代の製銅炉他の、現地で保存することができなかった遺構を切り取ってきて保存処理を施して床下のケースに収め、地中の遺跡を覗き込むような形での展示を行っている。

第1展示室、第2展示室においては、常設展示の内容を掘り下げたり、より平易に入門編的に紹介したり、学校の授業と連動させるなどした、特集展示と銘打った展示も行っている。特別展や企画展に比べると小規模で手作りのものではあれ、その分必要に応じ調査研究の進捗に応じて臨機的に織り込むことができ、展示に変化をもたらしている。

また当館では、展示内容や展示資料の歴史的な背景をより深く理解してもらうために、ギャラリートークを定期的に行い、YouTubeなどを通じて展示の紹介を行うなどもしている。

<常設展示「歴史の宝石箱」展示構成>

- 第1章 旧石器・縄文時代 狩猟と採集
- 第2章 弥生時代 稲作とクニ
- 第3章 古墳時代 北部九州の古墳文化
- 第4章 古代Ⅰ 大宰府史跡
 - 古代Ⅱ 西海道大宰府
 - 古代Ⅲ 仏教美術
- 第5章 中世Ⅰ その後の大宰府
 - 中世Ⅱ 武士と戦乱の世
- 第6章 近世 「太平の世」の福岡
- 第7章 近代Ⅰ 「福岡県」の誕生とあゆみ
 - 近代Ⅱ 絵図の世界



第1・3展示室

◎特集展示

○特集展示「きゅうおにとタイムトラベル ―大昔のくらしと国づくり―」

会期：令和5年3月28日(火)～7月17日(祝・日)

会場：第2展示室

主催：九州歴史資料館

内容：例年の企画展である。福岡の大昔の人たちはどのような服を着ていたのか、食べ物は何を食べて暮らしていたのか、また日本の国はどのように形作られてきたのか。そのような大昔の歴史の疑問を、九州歴史資料館のイメージキャラクターである「きゅうおに」とともに縄文・弥生・古墳・奈良の各時代をタイムトラベルしながら探っていく小学生、特に歴史をはじめて学ぶ高学年の子供たちを対象とした展示である。教育普及の観点を重視し、歴史学習をより楽しくできるように、わかりやすくするために実物資料だけではなくレプリカやイラストパネルを多用した。第1展示室では実践しにくかった、子供たちへ向けての展示を実践でき、さらに親や先生、同級生などと一緒に楽しめる企画でもある。



特集展示「きゅうおにタイムトラベル」展示風景（古墳時代～古代）

○特集展示「やきもの はじめの一步② やきものの種類と器の形」

会期：令和5年7月19日（水）～10月1日（日）

会場：第2展示室

主催：九州歴史資料館

内容：「やきもの」は私たちの毎日の生活で使用される身近な道具の一つである。特に食器の中で、陶器や磁器の色とりどりの「やきもの」を用いたり、各自がそれぞれの食器があるのは、日本人ならではの文化ともいえる。博物館においても「やきもの」は多く展示しており、当館では縄文、弥生土器、土師器、須恵器、三彩、青磁、黒釉陶、白磁、褐釉陶、青白磁など多くの「やきもの」がある。その産地は中国、朝鮮、イスラムなど海外などを含め、九州島内外の国産陶器も多岐にわたる。このように身近に感じることでできる「やきもの」だが、その詳細について知っている人は多くない。そこで、本特集展示は「やきもの」の基礎的な知識を当館の資料を使って、分かりやすく解説することを目的としている。昨年の第1回目は、「やきものの種類」をとりあげ、土器、陶器、磁器の違い、器の形とその各部位名称などについて解説した。第2回目の今回は「やきものの色」をテーマに釉薬や絵付けなどについて特集した。



特集展示「やきもののはじめの一步」展示風景
青磁の解説部分

○特集展示「昭和の大宰府再置～九州地方行政協議会と九州地方総監府～」

会期：令和5年8月1日（火）～9月24日（日）

会場：第1展示室（一部）

主催：九州歴史資料館

内容：昭和18年（1943）に福岡県庁に設置された九州地方行政協議会と、同協議会が昭和20年に改組された九州地方総監府は、近代において唯一、法令で定められた九州統括機関である。両機関とも地

元紙では古代の大宰府と結び付ける評価が論じられ、特に総監府の設置は「『太宰府政庁』茲に再現」の見出しで報じられた。両機関の設置はわずか2年程度ではあったが、その存在は九州における官民機関の福岡集積を促進し、後の福岡県と福岡市の発展にも大きな影響を残している。

本展では協議会の設置80年に合わせ“昭和の大宰府”ともいえる二つの九州統括機関について、文書資料で紹介した。主な展示資料として、九州地方行政協議会の座席表などを含んだ「第一回九州地方行政協議会関係資料」（当館蔵）、九州地方行政協議会の主催会議一覧等を記した「県政重要事項」（福岡共同公文書館所蔵）、九州地方総監府の府令や告示を収録した「福岡県公報」（福岡県立図書館所蔵）などがある。また両機関に古代の大宰府を投影した地元紙「西日本新聞」の拡大複写紙面も、パネルで展示した。

また会期中の8月25日（金）にはギャラリートークを行い、25名の参加があった。なお本展は科学研究費「アジア太平洋戦争末期における地方内政・軍政機関の一元的研究」（研究代表者：渡部邦昭）の成果展である。



特集展示「昭和の大宰府再置～九州地方行政協議会と九州地方総監府～」 展示風景

◎特別展「九州歴史資料館開館50周年記念特別展 船原古墳とかがやく馬具の精華」

会期：令和5年10月7日（土）～12月3日（日）※第2展示室は10月3日（火）から

会場：第1・2展示室

主催：九州歴史資料館

共催：古賀市、古賀市教育委員会

内容：平成25年3月、古賀市に所在する船原古墳（古墳時代後期：6世紀後半～7世紀前半）の墳丘に隣接した土坑から、大量の馬具が埋納状態で発見された。なかでも朝鮮半島の影響を色濃く受けた、金色に輝く豪華で国際色豊かな馬具は、多くの注目を得ており、古墳時代史や国際交流史上、重要な知見を与えてくれる。

この船原古墳が所在する玄界灘沿岸地域は、古来、国際交流の要として、海を隔てた中国や朝鮮半島より多くの文化を受容してきており、いわば文化の多様性をもつ地域といえる。現在まで続く長い交流の歴史の中で、古墳時代は特に多くの対外的影響を受けた時代であった。中でも船原古墳が築造された古墳時代後期は、鍍金技術の受容により、これまでの武器、武具類を大量に副葬する時代から、金色にかがやく、きらびやかな装飾を施した馬具を副葬するようになり、その輝き、精緻な文様、彫刻を生み出す、高度な金属工芸技術が施された馬具は、まさに古墳副葬品の精華といえよう。

本展は、筑紫における馬との関わりを皮切りに、船原古墳から出土した遺物のうち、国際性や国内での交流を示す特徴的馬具を中心として、船原古墳の時代に進められていた朝鮮半島、日本列島各地域との交流について、鍍金をはじめとする高度な金属工芸技術が施された同時代の馬具を列島規模で俯瞰した。そして、船原古墳が所在する玄界灘沿岸と遠賀川流域にある馬具を比較検討することによって、古墳時代後期の金属工芸技術を実感していただくことに主眼を置き、船原古墳をつ

うじて、当時の対外交流や文化の多様性を考える機会になるように企画した。主な展示資料は以下のとおり。

【序章 三国丘陵から船原古墳への道】

『日本書紀』六 田中幸夫氏寄贈 九州歴史資料館/馬歯 小郡市三沢古墳群 小郡市教育委員会/
馬歯、環状鏡板付轡 筑紫野市諸田仮塚遺跡 九州歴史資料館/
騎馬人物線刻須恵器提瓶、金銅製雲珠等金馬具 宇美町観音浦古墳群 宇美町教育委員会

【第1章 船原古墳の世界】

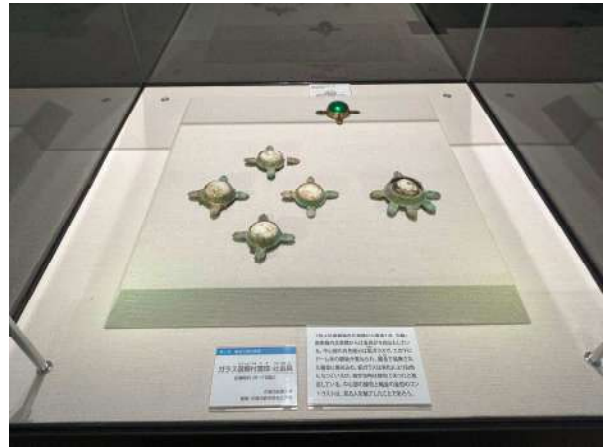
忍冬唐草文心葉形鏡板付轡等金銅製馬具、馬冑、蛇行状鉄器 古賀市船原古墳 古賀市教育委員会

【第2章 装飾された馬具の至宝】

心葉形十字文鏡板付轡 熊本県才園古墳 熊本県あさぎり町（熊本博物館寄託）重要文化財/金銅製亀形飾金具 長崎県笹塚古墳 壱岐市教育委員会 重要文化財/金銅製心葉形鏡板付轡 奈良県藤ノ木古墳 文化庁（奈良県立橿原考古学研究所附属博物館）国宝/馬冑 和歌山県大谷古墳 和歌山市立博物館 重要文化財/馬冑、蛇行状鉄器 埼玉県将軍山古墳 埼玉県立史跡の博物館/鉄地金銅張心葉形鏡板 千葉県金鈴塚古墳 木更津市郷土博物館金のすず 重要文化財/金銅製歩揺付飾金具 群馬県綿貫観音山古墳 群馬県立歴史博物館 国宝

【第3章 渡来と在来の展開】

金銅装f字形鏡板付轡等馬具 糸島市西堂古賀崎古墳 糸島市立伊都国歴史博物館 市指定文化財/
銅鈴 福岡市元岡G6号墳 福岡市埋蔵文化財センター 重要文化財/金銅製心葉形杏葉、金銅製歩揺



特別展「九州歴史資料館開館50周年記念特別展 船原古墳とかがやく馬具の精華」展示風景

付雲珠、金銅製帯金具 宗像市沖ノ島祭祀遺跡 宗像大社 国宝/金銅製雲珠、辻金具 北九州市日明一本松塚古墳 北九州市立自然史・歴史博物館 市指定文化財

【第4章 古墳に馬を描く文化】

金銅製鏡板付轡 桂川町王塚古墳 桂川町教育委員会（京博寄託）重要文化財/金銅製十字文心葉形杏葉 宮若市竹原古墳 宮若市教育委員会

【終章 古墳を探る科学】

保存科学関係機器類

総点数：116件315点（国宝3件27点、重要文化財6件121点、市指定文化財3件10点）

特別展に関連する当館主催イベントは以下のとおりである。

- ・古代史研究フォーラム「船原古墳の馬を語る」：日時：11月3日（祝）講師：桃崎祐輔氏（福岡大学教授）、諫早直人氏（京都府立大学准教授）
- ・夕べのギャラリートーク：日時：10月27日（金）講師：進村真之（考古）、11月24日（金）講師：加藤和歳（保存科学）
- ・九歴講座：10月14日（土）加藤和歳（当館学芸員）「科学で切り開く船原古墳の世界」、11月11日（土）岩橋由季氏（古賀市教育委員会）「周辺諸地域との関係からみた船原古墳」
- ・その他：10月29日（日）特別展開催記念茶会、11月12日（日）アクロス福岡ミュージアムコンサート in 九州歴史資料館、10月21日（土）文化財めぐり「むなかた古墳日和」見学地：福津市新原・奴山古墳群、宗像市平等寺瀬戸1号墳石室、船原古墳 講師：吉村靖徳（当館副館長）

◎企画展

○第68回企画展「西新町遺跡～古墳時代初頭、日本列島最大級の国際貿易拠点～」

会期：令和5年12月6日（火）～6年3月17日（日）

会場：第2展示室

主催：九州歴史資料館

内容：当館では県内各地に所在する遺跡の発掘調査を継続的に実施しており、郷土の歴史を知る上で多くの成果を挙げている。平成23年度からは毎年、前年度に行った発掘調査の成果を公開する企画展示「発掘速報展」を開催しており、5年度は再整理事業を実施している西新町遺跡について、その最新の成果を紹介する展示を行った。紹介したのは、朝鮮半島系土器、日本列島各地（畿内、



企画展「西新町遺跡～古墳時代初頭、日本列島最大級の国際貿易拠点～」展示の様子
（左：展示風景 右：朝鮮半島系土器甑）

瀬戸内、山陰)の特徴のある土器、集落の交易活動を示す玉製作関連資料や金属製品、漁労具などである。

関連事業として、会期中の12月15日(金)、夕べのギャラリートーク(展示資料解説)を実施した。

○第69回企画展「重要文化財が語る古代大宰府」

会期：令和5年12月16日(木)～令和6年3月17日(日)

会場：第1展示室(一部)

主催：九州歴史資料館

内容：大宰府政庁跡とその周辺官衙、観世音寺や筑前国分寺等の古代寺院、水城跡や大野城跡、基肆城跡など関連する遺跡から出土した考古資料1,770点が、国の重要文化財に指定されたことを記念した企画展である。

これら考古資料には、新羅と畿内、九州の文化が融合して創造されたとみられる、大宰府式鬼瓦をはじめ、飛鳥・奈良の都城の瓦の影響のもとに作られた老司式や鴻臚館式と呼ばれる軒瓦、官衙の活動を物語る青磁や白磁などの陶磁器、須恵器、土師器、硯、墨書土器や刻書土器、木器の生活用品や農具、祭祀具、銅や鉄などの金属、武具、墓地の副葬品、漆製品、石製品など多様な考古資料が含まれる。

さらに、これらの数多くの考古資料とあわせて、令和元年に重要文化財に指定された大宰府跡出土木簡も展示し、重要文化財を通してみる事ができる、古代大宰府を紹介した。大宰府跡出土考古資料の重要文化財指定を広く周知するとともに、大宰府史跡の顕彰と、古代大宰府に対する一般県民の理解および文化財愛護思想の普及促進など大きな成果を得た。



企画展「重要文化財が語る古代大宰府」展示風景

○特別公開「稲吉老松神社菅公縁起絵展」

会期：令和6年2月6日(火)～3月17日(日)

会場：第1展示室(一部)

主催：小郡市教育委員会

共催：九州歴史資料館、稲吉老松神社天神信仰資料保存会

内容：小郡市指定有形文化財(歴史)「稲吉老松神社天神信仰」のうち、稲吉老松神社菅公縁起絵の修理が完成したことを記念し、当館において特別公開を行った。稲吉老松神社菅公縁起絵は、平成29年4月に小郡市稲吉区の区長が代々受け継ぐ箆笥の中から発見され、新聞などにも取り上げられた。菅公縁起絵は、菅公こと菅原道真の生涯と死後に天神となったのちの靈験について描いたものであり、詞書がない掛幅装の天神縁起絵である。発見後、当館も調査に協力し、元年に小郡市指定有形文化



特別公開「稲吉老松神社菅公縁起絵展」ミュージアムトークの様子

財となった。縁起絵は二幅からなり、制作は江戸時代末期から明治時代にかけてのものとされる。縁起絵には、祭事の折に両脇に配されたと思われる「松図」と「梅図」のほか、字縁起も1巻と1冊をとまなっている。会期中には、小郡市教育委員会の大城麻未氏によるミュージアムトークも行わ

れ、2月12日・3月2日の両日で42名の参加者があった。また、開催を記念して小郡市総合保険福祉センターあすてらすにおいて、本資料の調査にも関わられた太宰府天満宮前権宮司の味酒安則氏による記念講演会「菅公縁起絵の世界」も開催された。

◎パネル展

県内各地の多様な文化財を紹介し、また、これまで福岡県が行ってきた調査研究の成果を公開することを目的に、写真や図版によるパネル展を開催した。

2階の文化情報広場では、当館主催のパネル展を4回開催した。その内訳は、当館職員の研究成果を紹介する展示3回、名誉館長講座の内容と連動した展示1回である。また、筑紫地区社会教育振興協議会文化財部会主催・当館共催で、地域の文化財を紹介する展示を1回開催した。

玄関右側の回廊では、昨年度から継続して、三沢遺跡を紹介するパネル展示を行った。

○パネル展「筑紫・豊（前）の四つの窓（後編）」

会期：令和5年6月6日（火）～9月3日（日）

会場：文化情報広場

主催：九州歴史資料館

内容：西谷正名誉館長による名誉館長講座と連動した展示。かつて筑紫・豊（前）の国と称されていた福岡県は、玄界灘・響灘・周防灘・有明海の四つの海に面している。この四つの海は、古代から福岡県域と外部との文化交流の窓口としての機能も果たし、いわば「四つの窓」ともいえる。この四つの窓に面した地域の遺跡については、当館の西谷正名誉館長が長年研究を行い、数多くの写真も撮影してきた。



パネル展「筑紫・豊（前）の四つの窓（後編）」展示風景

本展では、4年度より開催されている名誉館長講座「筑紫・豊（前）の四つの窓」にあわせ、四つの窓に関連する遺跡について、西谷名誉館長撮影の写真パネルで取り上げた。名誉館長講座が当初2年間での開催を予定していたため、4年度に前編を開催した上で、5年度には後編として主に周防灘と有明海に面した地域の遺跡を紹介した。

○パネル展「福岡鉄道遺産ものがたり9～筑前・筑後・車両編～」

会期：令和5年9月5日（火）～12月3日（日）

会場：文化情報広場

主催：九州歴史資料館

内容：福岡県内の鉄道史に関する調査研究の成果を紹介する展示。近代の福岡県では、濃密な鉄道網が形成され、戦前から多くの鉄道施設も建設されてきた。これらの鉄道施設には、今なお「鉄道遺産」として現存しているものもある。これらは、近代福岡県の交通を物語る貴重な文化遺産であり、当館ではこれまで「福岡鉄道遺産ものがたり」シリーズとして、8回に渡り県内各地の鉄道遺産を紹介してきた。

シリーズ9回目の本展では、筑肥線、甘木鉄道など、筑前・筑後地域の各地に残る戦前の駅舎や廃線遺構を紹介した。さらに、かつて炭鉱で使用された蒸気機関車などの保存車両も取り上げ、近代の福岡県が日本の近代化に果たした役割を交通の観点から振り返った。



パネル展「福岡鉄道遺産ものがたり9～筑前・筑後・車両編～」ポスター

○パネル展「九州の航空機用掩体」

会期：令和5年12月5日（火）～令和6年3月10日（日）

会場：文化情報広場

主催：九州歴史資料館

内容：九州内に現存する旧日本陸海軍の航空機用掩体に関するパネル展。航空機用掩体は第二次世界大戦末期、本土に來襲する連合軍機の空襲から航空機を守るため、また来るべき本土決戦に備えて戦力を温存・秘匿するために全国で作られた。本展では特に九州に現存する例を中心に、有蓋・無蓋などの掩体の構造や陸海軍での掩体の違いなどを解説し、陸軍飛行場、海軍航空基地での現存例をパネルで分かりやすく紹介した。なお、本展は科学研究費「福岡県内における軍事に関する遺構の基礎的研究～飛行場を中心に～」（研究代表者：森井啓次）助成の成果報告展示である。



パネル展「九州の航空機用掩体」展示風景

○パネル展「筑紫地区文化財写真展 ちくしまいり～江戸時代の暮らしと信仰～」

会期：令和6年3月12日（火）～3月24日（日）

会場：文化情報広場

主催：筑紫地区社会教育振興協議会文化財部会

共催：九州歴史資料館・九州国立博物館

内容：筑紫地区社会教育振興協議会文化財部会が主催し、当館などが共催する展示。筑紫地区（筑紫野市・太宰府市・大野城市・春日市・那珂川市）の文化財担当者が自治体の枠を超えて文化財を紹介する取り組みで、例年、共同で企画を立ててパネルを作成し、各自自治体と九州国立博物館、当館で巡回展示する。5年度のテーマは「筑紫の近世」。古文書や石碑、道標や燈籠、生産道具などを通じて近世の人々の生活の様子を紹介し、また、鳥居や狛犬、絵馬、民俗行事などを紹介し、様々な局面での祈りの心をよみといた。



パネル展「筑紫地区文化財写真展 ちくしまいり～江戸時代の暮らしと信仰～」展示風景

○パネル展「古賀市船原古墳遺物埋納坑調査の最前線2023-2024」

会期：令和6年3月26日（火）～6月30日（日）

会場：文化情報広場

主催：九州歴史資料館

内容：当館が平成25年から継続する古賀市・船原古墳遺物埋納坑の科学的調査の成果展示。今回は

発見から10年間の科学的調査の中から、国内初の発見となった金銅製歩揺付雲珠・ガラス装飾付雲珠・辻金具・二連三葉文心葉形杏葉（玉虫杏葉）や国内3例目、九州では唯一の発見となる馬冑など代表的な成果について紹介している。この他、本展示では、遺物埋納坑から見つかった馬6頭分の馬具について、6通りの馬装復元をイラストにより分かりやすく紹介した。



パネル展「古賀市船原古墳遺物埋納坑調査の最前線2023-2024」展示風景

(3) 資料利用

当館では、他機関の展示のため所蔵資料の貸出を行っている。考古資料のほか、文書資料、写真資料も貸出しており、令和5年度においては以下のとおり利用があった。また、他機関や学生による資料調査などの一時利用を受け入れており、平日以外にも、日曜日の閲覧希望も基本的に対応している。5年度の実績は考古資料貸出139件、同一次利用48件、写真資料貸出・掲載許可91件である。

考古資料の短期貸出一覧

番号	貸出先	点数	貸出資料名	貸出目的	貸出期間
1	春日市奴国の丘 歴史資料館	9	塔原廃寺出土瓦 他	トピック展「瓦から見る春日の歴史」	R5. 4. 中旬～7. 中旬
2	豊前市埋蔵文化 財センター	5	荒堀雨窪遺跡出土須恵器 他	企画展「地の記憶～「国家の誕生」～飛鳥・奈良時代の豊前～」	R5. 5. 下旬～7. 中旬
3	甘木歴史資料館	16	大宰府政庁跡出土鬼瓦 他	企画展「井出野遺跡と古代の役所」	R5. 6. 中旬～9. 中旬
4	太宰府市文化ふ れあい館	3	筑前国分寺跡出土土製如来形仏像頭部 他	「まるごと太宰府歴史館2023」	R5. 8. 1～11. 7
5	兵庫県立考古博 物館	18	大宰府政庁跡出土品 他	特別展「駅家発掘！一播磨から見えた古代日本の交通史一」	R5. 9. 1～12. 24
6	鳥取県立博物館	5	上唐原了清遺跡出土勾玉 他	企画展「勾玉の世界」	R5. 8. 下旬～12. 上旬
7	飯塚市歴史資料 館	9	汐井掛遺跡出土青銅鏡 他	企画展「立岩王墓の誕生展」	R5. 10. 10～12. 15
8	上毛町教育委員 会	85	金居塚遺跡出土品	上毛町歴史民俗資料館特別展	R5. 10. 中旬～11. 上旬
9	中津市歴史博物 館	4	井上薬師堂遺跡出土木簡	企画展「開発！KAIHOTSUー中津の古代から中世ー」	R6. 3. 上旬～5. 中旬
10	伊都国歴史博物 館	4	石崎曲り田遺跡出土土器	特別展「東西日本の弥生文化～東京国立博物館コレクションより～」	R4. 11. 上旬～R5. 3. 末
11	島根県立古代出 雲歴史博物館	4	大野城跡出土鬼瓦 他	企画展「誕生、隠岐国」	R6. 3. 上旬～6. 下旬
12	熊本県立図書館 くまもと文学・ 歴史館	17	大宰府史跡出土木簡	特別展「文字が語る古代のくまもと」	R6. 2. 19～5. 24
13	行橋市教育委員 会	12	延永ヤヨミ園遺跡出土木製品 他	企画展「『源氏物語』と末松謙澄」	R6. 1. 中旬～3. 下旬

考古資料の長期貸出一覧 (1)

番号	貸出先	点数	貸出資料名	貸出目的	貸出期間
1	京都国立博物館	4	永岡遺跡出土甕棺 他	展示等利活用	R5. 4. 7. 1～R7. 6. 30
2	京都国立博物館	1	筑後石人山石棺石膏製模型	展示等利活用	R5. 4. 7. 1～R7. 6. 30
3	大韓民国国立羅 州文化財研究所	1	道場山遺跡甕棺	常設展示	R5. 5. 2. 1～R8. 1. 31

考古資料の長期貸出一覧（2）

番号	貸出先	点数	貸出資料名	貸出目的	貸出期間
4	九州国立博物館	176件	門田遺跡出土細石刃 他	文化交流展示室展示 等	R6. 4. 1～ R7. 3. 31
5	九州国立博物館	4件	山田古墳群出土玉類 他	文化交流展示室展示 等	R6. 5. 15～ R7. 3. 31
6	国立歴史民俗博物館	9	広田遺跡出土浅鉢・深 鉢 他	総合展示	R6. 4. 1～ R7. 3. 31
7	岩手県立博物館	4	永岡遺跡出土弥生土 器、甕棺	展示及び調査研究	R6. 4. 1～ R7. 3. 31
8	甘木歴史資料館	51件	楠田遺跡出土縄文土器 他	常設展示	R6. 4. 1～ R7. 3. 31
9	求菩提資料館	10	銅製経筒・草花双鳥 鏡・蓬莱鏡	常設展示	R5. 4. 1～ R6. 3. 31
10	老司公民館	6	大宰府史跡出土瓦	展示ケース展示	R6. 4. 1～ R7. 3. 31
11	古都大宰府保存協 会	33	大宰府史跡出土資料	常設展示	R6. 4. 1～ R7. 3. 31
12	大野城市牛頸ダム 記念館	112	牛頸須恵器窯跡出土須 恵器、写真パネル	牛頸ダム記念館展示	R6. 4. 1～ R7. 3. 31
13	筑紫野市歴史博物 館	108	剣塚遺跡出土資料 他	筑紫野市歴史博物館 展示	R5. 4. 1～ R6. 3. 31
14	直方市教育委員会	72	内ヶ磯窯跡出土陶器	直方谷尾美術館展示	R6. 4. 1～ R7. 3. 31
15	古賀市教育委員会	21	水上A遺跡出土縄文土 器 他	古賀市歴史資料館展 示	R6. 4. 1～ R7. 3. 31
16	春日市教育委員会	5	伯玄社遺跡出土磨製石 鏃 他	奴国の丘歴史資料館 展示	R6. 4. 1～ R7. 3. 31
17	伊都国歴史博物館	246	三雲南小路遺跡出土資 料 他	常設展示	R6. 4. 1～ R7. 3. 31
18	八女市教育委員会	1	真浄寺古墳出土短甲2 号	岩戸山歴史資料館展 示	R6. 4. 1～ R7. 3. 31
19	小郡市埋蔵文化財 調査センター	一式	津古内畑遺跡出土資 料、記録	報告書作成	R6. 4. 1～ R7. 3. 31
20	筑前町教育委員会	178 箱	依井遺跡出土資料 他	筑前町歴史民俗資料 館等で展示、報告書 作成	R6. 4. 1～ R7. 3. 31
21	粕屋町歴史資料館	76箱	駕与丁池遺跡出土資料 他	粕屋町歴史資料館展 示	R6. 4. 1～ R7. 3. 31

考古資料の長期貸出一覧（3）

番号	貸出先	点数	貸出資料名	貸出目的	貸出期間
22	香春町教育委員会	84	陣山屋敷遺跡出土資料 他	香春町歴史資料館展 示	R6. 4. 1～ R7. 3. 31
23	みやこ町教育委員 会	23	徳永川ノ上遺跡出土資 料 他	みやこ町歴史民俗博 物館展示	R6. 4. 1～ R7. 3. 31
24	鞍手町教育委員会	10件	銀冠塚古墳出土資料 他	鞍手町歴史民俗資料 館展示	R6. 4. 1～ R7. 3. 31
25	篠栗町教育委員会	117	高田遺跡出土資料 他	篠栗町中央公民館展 示	R6. 4. 1～ R7. 3. 31
26	須恵町教育委員会	419	乙植木古墳群出土資料	須恵町立歴史民俗資 料館展示	R6. 4. 1～ R7. 3. 31
27	福津市教育委員会	一括	津屋崎古墳群出土資料 等	福津市歴史資料館展 示	R6. 4. 1～ R7. 3. 31
28	筑波大学	一括	立明寺古墳群出土資料	大学における教育等 の活用	R6. 4. 1～ R7. 3. 31
29	太宰府館	9	大宰府史跡出土瓦	展示	R6. 4. 1～ R7. 3. 31
30	宮城県多賀城跡調 査研究所	25	大宰府政庁跡出土磁器	磁器の産地・年代同 定の参考資料	R6. 4. 1～ R7. 3. 31
31	埼玉県立歴史と民 俗の博物館	2	永岡遺跡出土甕棺	常設展示	R5. 9. 1～ R6. 8. 31
32	栃木県立博物館	2	門田遺跡出土甕棺	常設展示	R5. 10. 1～ R6. 9. 30
33	田川市教育委員会	1	伝田川市楠上ノ原遺跡 細形銅剣	常設展示	R6. 4. 1～ R7. 3. 31
34	粕屋総合庁舎管理 事務所、福岡県土 整備事務所	20	箱崎遺跡出土資料	庁舎での展示	R6. 4. 1～ R7. 3. 31
35	宮若市教育員会	17	犬鳴遺跡出土資料	宮若市文化財収集・ 展示・交流センター 展示	R6. 4. 1～ R7. 3. 31

考古資料の一時利用（資料見学等）一覧（1）

番号	利用者(機関)	点数	利用資料名	利用目的	利用日
1	個人	14	野間窯跡群出土土器 他	調査研究	R5. 5. 15
2	個人	21	勝浦峯ノ畑古墳出土金 銅製冠帽	調査研究	R5. 5. 9
3	個人	2	門田遺跡出土鉄剣	調査研究	R5. 6. 1

考古資料の一時利用（資料見学等）一覧（2）

番号	利用者(機関)	点数	利用資料名	利用目的	利用日
4	個人	1	須恵器革袋形瓶	調査研究	R6. 1～2
5	個人	17	西新町遺跡出土石製品	調査研究	R5. 6. 12
6	個人	7	遠園遺跡出土土器	調査研究	R5. 6. 8
7	個人	4	延永ヤヨミ園遺跡出土木製品	調査研究	R5. 6. 28
8	高麗大学校 他	34	大宰府史跡出土磁器	調査研究	R5. 7. 10
9	島根県立古代出雲歴史博物館	4	大野城跡出土鬼瓦 他	展示のための資料調査	R5. 6. 16
10	兵庫県立博物館	37	大宰府史跡出土品	展示のための資料調査	R5. 6. 13
11	個人	1	高崎2号墳出土単鳳環頭大刀	調査研究	R5. 6. 21
12	熊本県立図書館	19	大宰府史跡出土木簡 他	展示のための資料調査	R5. 6. 30
13	鳥取県立博物館	6	西新町遺跡出土石製品	展示のための資料調査	R5. 8. 9
14	個人	2	三雲遺跡出土辰砂	調査研究	R5. 7. 16
15	個人	31	西新町遺跡出土土器 他	調査研究	R5. 8. 30～31
16	飯塚市歴史資料館	1	汐井掛遺跡出土青銅鏡	展示のための資料調査	R5. 8. 16
17	個人	7	貝元遺跡出土鉄器	調査研究	R5. 8. 28
18	個人	1	浜山遺跡B地点出土鋳型	調査研究	R5. 8. 29
19	個人	1	川原庵山8号墳出土U字形鋤先	調査研究	R5. 8. 29
20	個人	14	大宰府史跡出土須恵器 他	調査研究	R5. 8. 23～
21	個人	175	原遺跡出土縄文土器 他	調査研究	R5. 8. 25
22	個人	44	内ヶ磯窯跡出土資料	調査研究	R5. 9. 17
23	個人	65	中村石丸遺跡出土縄文土器	調査研究	R5. 9. 14
24	個人	11	八尋旭古墳群旭1号墳出土鉄製品	調査研究	R5. 10. 3～4
25	愛媛県埋蔵文化財センター	20	安武深田遺跡出土石器 他	報告書作成	R5. 10. 16～17
26	伊都国歴史博物館	4	石崎曲り田遺跡出土土器	展示のための資料調査	R5. 10. 16
27	中津市歴史博物館	1	井上薬師堂遺跡出土木簡	展示のための資料調査	R5. 10. 12
28	黒川INN美術館	1	竹林庵遺跡出土縄文土器	施設活動への活用	R5. 10. 24
29	個人	23	大宰府史跡出土陶磁器	調査研究	R5. 10. 30～31

考古資料の一時利用（資料見学等）一覧（3）

番号	利用者(機関)	点数	利用資料名	利用目的	利用日
30	個人	4	汐井掛遺跡出土銅銭	調査研究	R5. 10. 24
31	個人	72	辻垣ヲサマル遺跡出土石器 他	調査研究	R5. 10. 27
32	個人	30	延永ヤヨミ園遺跡出土子持勾玉・土器 他	調査研究	R5. 10. 31
33	個人	58	古門窯跡出土須恵器他	調査研究	R5. 11. 27
34	個人	111	西新町遺跡出土土器	調査研究	R6. 1. 14
35	個人	24	徳永川ノ上遺跡出土土器 他	調査研究	R6. 2. 13～16
36	個人	5	剣塚遺跡出土甕棺 他	調査研究	R6. 2. 22
37	大野城心のふるさと館	9	吉塚本町出土陶器 他	展示のための資料調査	R6. 2. 8
38	個人	10	井出ヶ浦窯跡群出土須恵器	調査研究	R6. 2. 7
39	個人	1	宮ノ上遺跡出土有鉤銅釧鑄型	調査研究	R6. 2. 15
40	個人	41	西新町遺跡出土土器	調査研究	R6. 2. 28～29
41	大野城心のふるさと館	1	御供田遺跡出土獣脚円面硯	展示のための資料調査	R6. 2. 26
42	個人	76	京ヶ辻遺跡出土土器	調査研究	R6. 3. 5～6
43	個人	39	石崎曲り田遺跡出土土器 他	調査研究	R6. 2. 27～28
44	個人	3	箱崎遺跡出土瓦	調査研究	R6. 3. 24

文書・典籍資料等の短期貸出一覧（1）

番号	貸出先	点数	貸出資料名	貸出目的	利用期間
1	鹿児島県歴史・美術センター黎明館	2	金烏の御旗、五條家文書 第一巻	特別展「南北朝の動乱と南九州の武士たち」	R5. 9. 24～12. 1
2	田川市石炭・歴史博物館	15	鉦山学校関連資料	企画展「炭鉦と学校～もう一度会いたい、あの日の思い出～」	R5. 10. 19～11. 30

文書・典籍資料等の長期貸出一覧（1）

番号	貸出先	点数	貸出資料名	貸出目的	利用期間
1	筑豊高等学校	223	筑豊工業高校資料	資料室における展示	R6. 4. 1～R7. 3. 31
2	福岡県青少年科学館	90	筑豊工業高校資料	常設展示	R6. 4. 1～R7. 3. 31
3	九州国立博物館	1	筑豊工業高校資料	常設展示	R6. 4. 1～R7. 3. 31

文書・典籍資料等の長期貸出一覧（２）

番号	貸出先	点数	貸出資料名	貸出目的	利用期間
4	福岡県教育庁筑豊教育事務所	7	筑豊工業高校資料	展示	6・4・1～7・3・31
5	五條元滋氏	1	金烏の御旗（複製）	展示	6・4・1～7・3・31

文書・典籍資料等の一時利用（資料見学等）一覧（１）

番号	利用者(機関)	点数	利用資料名	利用目的	利用日
1	舞鶴古文書会	2	黒田家文書	調査研究	R5. 4. 21～ R6. 2. 24
2	九州産業大学商学部	5	門司鉄道管理局所蔵資料	調査研究	R5. 5. 2～9. 13
3	新修宗像市史編集委員会	75	九州日報（紙焼）・日本歴史904・鎮西町市・江原幸六関係史料目録	市史編纂	R5. 5. 7～ R6. 3. 20
4	立命館大学	81	柳川古文書館目録28・永江文書	調査研究	R5. 5. 25～
5	國學院大學大學院	9	福岡藩関係史料	調査研究	R5. 6. 6
6	韓国慶尚国立大学校人文大学・国史編纂委員会	6	山北村庄屋文書・野田大塊文書	調査研究	R5. 7. 25
7	エール（イェール）大学	67	九州日報・福陵日報・福岡日日新聞	調査研究	R5. 7. 29～8. 1
8	個人	4	地図・絵図資料	調査研究	R5. 8. 3
9	九州産業大学地域共創学部	32	中尾文書・羽野文書・山北村庄屋文書・石村文書・永江文書	調査研究	R5. 8. 6～9. 10
10	大正大学	32	永江文書・野田大塊文書	調査研究	R5. 8. 8
11	福岡市博物館市史編さん室	1	日本林制史調査資料	市史編纂	R5. 8. 23
12	九州大学文学部	83	野田大塊文書・永江文書	卒業論文	R5. 8. 25～9. 1
13	九州大学附属図書館記録資料館	39	永江文書・野田大塊文書・鎌田（恒）文書	調査研究	R5. 9. 7～9. 28
14	神奈川県立歴史博物館	100	永江文書・野田大塊文書	調査研究	R5. 9. 16～ 5. 9. 17

文書・典籍資料等の一時利用（資料見学等）一覧（２）

番号	利用者(機関)	点数	利用資料名	利用目的	利用日
15	九州大学大学院人文科学府	21	甲斐文書	博士論文	R5. 9. 22
16	福山大学	45	黒田家文書・福岡藩関係史料	調査研究	R5. 9. 30～10. 1
17	個人	1	糟屋郡史編纂史料	調査研究	R5. 10. 7
18	同志社大学名誉教授	766	王丸文書（紙焼）	調査研究	R5. 10. 26～6. 2. 8
19	日本学術振興会	21	永江文書	調査研究	R5. 10. 27
20	福岡市博物館市史編さん室	182	本田（誠）文書・中尾文書・伊東尾四郎文書	市史編纂	R5. 11. 9～ R6. 1. 18
21	埼玉大学人文社会科学部	70	筑豊工業高校資料	調査研究	R5. 11. 29
22	九州大学文学部	5	安高文書	調査研究	R6. 1. 7
23	個人	8	地図・絵図資料・図書	調査研究	R6. 1. 21
24	個人	2	野田大塊文書	調査研究	R6. 2. 14
25	筑紫女学園大学	18	福岡日日新聞	調査研究	R6. 2. 14～3. 22
26	福岡市博物館市史編さん室	1	戸川（博）文書	市史編纂	R6. 2. 22
27	エール（イェール）大学	47	地図・絵図資料・永江文書・野田大塊文書	調査研究	R6. 2. 29
28	筑紫女学園大学	11	福岡日日新聞・西日本新聞	調査研究	R6. 3. 1～3. 8
29	近畿大学文芸学部	7	絵葉書	調査研究	R6. 3. 5
30	福岡鉄道史料保存会	8	野田大塊文書・永江文書・御笠郡土木資料	調査研究	R6. 3. 19
31	小郡市教育委員会	4	野田大塊文書・永江文書・福岡日日新聞	調査研究	R6. 3. 21
32	株式会社修復技術システム	2	林（美）文書	調査研究	R6. 3. 23
33	大正大学	17	栃木商事資料	調査研究	R6. 3. 24

写真資料等の貸出・掲載許可一覧（１）

番号	貸出先	点数	貸出・掲載資料名	貸出・掲載目的
1	国立金海博物館	6	西新町遺跡遺構・遺物写真	特別展『海を渡った加耶人』で使用
2	NHK佐賀放送局	1	観世音寺絵図	テレビ番組『月刊発見佐賀！食べごろギョッとくん』で

写真資料等の貸出・掲載許可一覧（2）

番号	貸出先	点数	貸出・掲載資料名	貸出・掲載目的
3	桂川町教育委員会	1	王塚古墳前室壁画	王塚古墳特別公開記念品の 絵葉書で使用
4	株式会社中央公論 新社	1	大宰府跡出土「大神部」木簡	『六国史ー日本書紀に始まる 古代の「正史」』で使用
5	公益財団法人古都 大宰府保存協会	4	蔵司地区官衙域の発掘調査他	「大宰府アカデミー・令和 編」第1講の配布資料で使用
6	株式会社明石書店	1	大宰府式鬼瓦 I 式A	『古代に真実を求めて 古 田史学論集第二十六集』で 使用
7	貝島化学工業株式 会社	4	絵葉書資料95：三池炭礦他	貝島百合野本家調査報告書 への掲載
8	個人	2	西新町遺跡出土砥石	日本考古学協会第89回総会 ポスター発表で使用
9	株式会社九州企画	7	西新町遺跡出土土器	韓国MBCドキュメンタリー 『馬韓 マハン』で使用
10	豊前市教育委員会	7	荒堀雨久保遺跡他	第8回まいぶん企画展展示資 料の解説用画像で使用
11	合同会社花乱社	1	岸田文書頭山翁米寿祝賀会案内 状	書籍で使用
12	鹿児島県歴史・美 術センター黎明館	5	五條家文書他	黎明館開館40周年記念企画 特別展図録等への掲載
13	IVSテレビ制作株 式会社	1	王塚装飾古墳 石室	テレビ番組『超無敵クラ ス』で使用
14	一般財団法人西日 本文化協会	1	中尾文書 佐田文蔵「註文之 覚」	『西日本文化』夏季号(第 507号)で使用
15	個人	3	石崎曲り田遺跡出土土器他	『日本における覆い焼きの 成立と展開』で使用
16	株式会社小学館	3	観世音寺「舞楽面」	『隔週刊 古寺行こう』第 38巻で使用
17	対馬市	1	王塚古墳石室 玄門部装飾	特別展示『対州馬展』展示 パネル、図録等で使用
18	個人	3	三雲南小路遺跡出土連弧文清白 鏡他	『日本の原点 至宝の外交 官 栗田真人』で使用
19	甘木歴史資料館	11	大宰府跡 政庁跡全景他	企画展に係る印刷物・広報 等で使用
20	公益財団法人土木 学会	3	水城跡 空中写真・敷粗朶出土 状況・土塁断面	土木学会誌 2023年8月号で 使用
21	株式会社小学館	1	観世音寺「塑像片」	『隔週刊 古寺行こう』第 38巻で使用
22	有限会社海鳥社	1	最新版 福岡市全図 観光案内	『九州の百年企業Ⅱ』で使 用

写真資料等の貸出・掲載許可一覧（3）

番号	貸出先	点数	貸出・掲載資料名	貸出・掲載目的
23	株式会社新泉社	1	三雲南小路遺跡出土連弧文清白鏡	『ビジュアル版 弥生時代ガイドブック』で使用
24	太宰府市文化ふれあい館	2	大野城跡増長天礎石群イラスト復元図	「まるごと太宰府歴史展2023」における展示で使用
25	兵庫県立考古博物館	12	大宰府政庁跡出土大宰府式鬼瓦他	特別展で使用
26	九州テレ・コミュニケーションズ株式会社	7	大宰府政庁跡出土文字瓦	テレビ番組『2755』で使用
27	東京文化財研究所	48	鵜殿石仏35mmフィルム他	科研費研究に基づく調査
28	株式会社小学館	2	王塚古墳装飾壁画	隔月刊誌『和楽』10・11月号で使用
29	新修宗像市史編集委員会	7	新延貝塚出土土製品実測図他	『新修宗像市史 祈りとまつり』で使用
30	桂川郵便局	3	王塚古墳装飾壁画	桂川町の紹介を兼ねたフレーム切手
31	太宰府市文化ふれあい館	1	大宰府牒「石清水八幡宮文書」	「まるごと太宰府歴史展2023」における展示で使用
32	太宰府天満宮文化研究所長	8	奈良三彩陶片・滑石製有孔円盤他	企画展「Full of Treasure Mountain」で使用
33	クリエイティブ・スイート	1	新原・奴山4号墳出土刀子	『古墳図鑑』への掲載
34	苅田町教育委員会	1	埋れ木製算盤玉	まちの歴史講演会における広報
35	一般財団法人西日本文化協会	3	「御調練御次第書」〔進達〕他	『西日本文化』秋季号(第508号)で使用
36	株式会社雄山閣	2	真浄寺2号墳1号短甲・2号短甲	『季刊考古学165号』で使用
37	桂川町教育委員会	1	王塚古墳前室壁画	令和5年王塚古墳秋季特別公開の広報
38	糸島市立伊都国歴史博物館	8	三雲南小路遺跡1・2号甕棺発掘状況他	特別展図録で使用
39	株式会社ユニクロ直方店	3	旧三井本洞第二坑他	店舗内での掲示
40	太宰府市教育委員会	1	齋藤秋圃作「十二ヶ月風俗図絵巻」	広報誌『宰府画報』第20号で使用
41	株式会社造事務所	1	大宰府跡出土木簡「奄美嶋」	『地図で読み解く日本の島』で使用
42	学校法人高宮学園代々木ゼミナール	1	三雲遺跡出土刻書土器	2023年度冬季講習会テキストで使用
43	株式会社新泉社	1	伯玄社遺跡24号木棺墓出土磨製石鏃	シリーズ「遺跡を学ぶ」163で使用
44	釜山博物館	12	西新町遺跡全景空中写真他	動画で使用

写真資料等の貸出・掲載許可一覧（4）

番号	貸出先	点数	貸出・掲載資料名	貸出・掲載目的
45	株式会社国書刊行会	1	門田遺跡出土爪形文土器	『1000の縄文』で使用
46	大野城心のふるさと館	5	大野城跡太宰府口城門他	パネル展「公山城と大野城」で使用
47	琉球大学	3	御笠川南条坊遺跡出土高麗陶器盤口瓶他	高麗陶器學術大會での発表で使用
48	島根大学	1	乙植木3号墳出土珠文鏡	中四国前方後円墳研究会第26回研究集会以で使用
49	株式会社日本入試センター	1	大宰府政庁復元模型	『小学5年社会デイレサーピックス540-37』で使用
50	西日本新聞社	1	王塚古墳石室	西日本新聞紙面で使用
51	木簡学会	1	大宰府政庁跡出土木簡	『木簡研究』第45号で使用
52	LVR産業博物館	1	大日本帝国製鉄所全図	LVR産業博物館における常設展示で使用
53	九州桃山茶陶研究会	13	内ヶ磯窯跡出土陶器	『魅惑の「織部高取」』記念書籍等で使用
54	中津市歴史博物館	8	井上薬師堂遺跡1～4号木簡 カラー・赤外線写真	企画展に係る印刷物で使用
55	有限会社海鳥社	1	大宰府史跡出土青磁碗	西谷正『東亜考古学論攷』で使用
56	糸島市立伊都国歴史博物館	3	曲り田遺跡出土土器	冬季特別展展示図録・広報刊行物で使用
57	株式会社雄山閣	4	曲り田遺跡出土突帯文土器他	『対馬暖流をめぐる先史時代の土器文化』で使用
58	福岡市博物館	1	水城遠景航空写真	『福岡市博物館研究紀要第33号』で使用
59	大川市教育委員会	1	下林西田遺跡出土牛角把手	大川市文化財保存活用地域計画で使用
60	北九州市	1	香月村寿命唐戸通舟景	「グラ・マップ北九州2024」への掲載
61	島根県立古代出雲歴史博物館	2	大野城跡太宰府口城門出土鬼瓦	令和5年度企画展に係る展示・広報で使用
62	熊本県立図書館、くまもと文学・歴史館	20	大宰府跡出土木簡など	くまもと文学・歴史館特別展に係る図録・広報で使用
63	株式会社岩波書店	1	大宰府宝相花文軒丸瓦 197Ac	シリーズ「古代史をひらくⅡ」で使用
64	一般財団法人西日本文化協会	1	昭和12年「最新福岡市大地形図」	『西日本文化』新年号(第509号)で使用
65	行橋市教育委員会	5	類聚三代格第十六冊他	行橋市歴史資料館企画展に係る刊行物・パネルで使用
66	太宰府市教育委員会	1	齋藤秋圃作「博多大宰府図屏風」	『宰府画報』第21号で使用
67	福山大学	3	黒田家文書	神辺本陣の歴史学的調査報告書で使用
68	築上町教育委員会	2	石堂中後ヶ谷古墳群 全景・14号墳奥壁	文化財説明板で使用

写真資料等の貸出・掲載許可一覧（5）

番号	貸出先	点数	貸出・掲載資料名	貸出・掲載目的
69	新修宗像市史編集委員会	7	大宰府出土木簡他	『新修宗像市史 くらしと生業』で使用
70	福岡県世界遺産連絡会議	1	「福岡鉄道遺産ものがたり 三池炭鉱鉄道編」	企画展で使用
71	有限会社ビジュアルオフィス・善(VOZ)	2	博多・太宰府図屏風他	テレビ番組で使用
72	株式会社朝倉書店	1	水城跡 I 期西門柱穴	『石の歴史・文化事典』で使用
73	株式会社同成社	35	大宰府政庁遠景	『大宰府跡』新日本の遺跡2巻で使用
74	公益財団法人出光美術館	1	青磁三足壺	『出光美術館研究紀要』第29号で使用
75	個人	5	大宰府跡出土木簡	『東亜視域下的日本典籍木簡研究』で使用
76	東京書籍株式会社	1	王塚古墳前室奥壁	令和7年度中学校用教科書及び拡大教科書等で使用
77	一般財団法人西日本文化協会	1	永江文書AE35-4	『西日本文化』春季号(第510号)で使用
78	奈良文化財研究所	2	王塚古墳前室後壁部分・玄室前壁部分	キトラ古墳壁画保存管理施設企画展示解説パネルで使用
79	一般財団法人西日本文化協会	1	「田中幸夫の遠賀川・城の越貝塚発掘時の記録」	『西日本文化』春季号(第510号)で使用
80	公益財団法人古都大宰府保存協会	1	齋藤秋圃作「十二ヶ月風俗図絵巻」	『都府楼』55号で使用
81	みやこ町歴史民俗博物館	1	徳永川ノ上遺跡出土ナイフ形石器	広報誌『みやこっちゃん』3月号で使用
82	桂川町教育委員会	1	王塚古墳前室壁画	九州古墳カードで使用
83	直方市秘書広報課	1	筑豊石炭鉱業組合直方会議所写真筑97	「市報のおがた」で使用
84	太宰府市教育委員会	1	観世音寺絵図	『広報だざいふ』で使用
85	太宰府市教育委員会	1	観世音寺梵鐘・観世音寺絵図	『観世音寺境内及び子院跡附老司』
86	図書出版木星舎	1	上野就賢作「筑前名所草香江」	『NISHIJIN』で使用
87	うきは古文書を読む会	2	山北村庄屋文書他	学習成果冊子で使用
88	NPO法人福岡鉄道資料保存会	4	福岡県史編纂資料他	天神大牟田線開業100年を記念する研究発表等
89	個人	1	野田大塊文書2180-5	土木学会第44回土木史研究会で使用
90	西日本シティ銀行	2	筑豊工業高校資料写真11、44-2	新ふるさと発見誌「九州流」

(4) 学習支援・博学連携

◎学習支援活動

○来館学習

5年度の来館学習では、小グループに分かれて職員が引率する館内ツアー形式での学習プログラムを実施した。またエントランスに設置された大型サイネージを活用し、来館学習の際は最初にスライドを使ったオリエンテーションを行った。オリエンテーションでは、集石や経筒の画像を見せて、何に使われたのか子どもたちに予想させたり、文化財の保存・継承の意味を考えさせるめあてを立てたりするなど、学習の意欲を引き出す活動を取り入れた。そうすることで、子どもたちは学習の見通しをもち、学習意欲を高めることができた。それに加えて、「博物館歴史体感ツアー」というプログラム名をつけることで、学習への参加意欲をさらに高めることができた。

第1展示室では、自由見学を中心とし、子どもたちが個々に「推し」（お気に入り）をひとつ見つけるという課題を設定して学習活動を実施した。そのような活動を通して、児童・生徒達は、知識だけではなく、感性で文化財と出会うことができた。

第4展示室の遺構展示では、当時の人々の様子を思い浮かべられるよう解説をした。また、表面の触り心地や重さを感じることができるよう実物の土器や石器のハンズオン体験や銅剣・銅矛のレプリカを持ち上げる体験を行った。さらに中庭回廊では、科学を駆使して遺物を分析し、丁寧に修復、整理し、記録する作業についての説明を行った。子どもたちは、興味深そうに見聞きしていた。整理作業室や新収蔵庫、特別収蔵庫の見学を行う「バックヤードツアー」では、児童・生徒はもちろん、引率の先生方にも大変好評であった。今後も当館の埋蔵文化財センターとしての機能も来館学習を通して伝えていきたいと考えている。



来館学習のオリエンテーション画像

学校団体の来館者総数は、以下のとおりである。

期 日	学 校 名 及 び 学 年	人数 (名)
5月11日 (木)	鹿児島県立いちき串木野市生冠中学校 (2・3年生)	32
5月26日 (金)	大川市立道海島小学校 (6年生)	13
5月27日 (土)	放課後等デイサービス あっぷ	12
6月 1日 (木)	朝倉市立甘木小学校 (6年生)	105
6月 3日 (土)	放課後等デイサービス ちゃれんじくらぶ春日教室	28
6月 6日 (水)	久留米市立上津小学校 (6年生)	112
6月 8日 (木)	吹田市立千里丘中学校2年生 (大阪府) ※修学旅行	341
6月 9日 (金)	朝倉市立蜷城小学校 (6年生)	12

期 日	学 校 名 及 び 学 年	人数 (名)
6月12日 (月)	篠栗町立篠栗小学校 (6年生)	80
6月16日 (金)	朝倉市立東小学校 (6年生)	33
6月20日 (火)	朝倉市立三奈木小学校 (6年生)	29
6月21日 (水)	筑後市立羽犬塚小学校 (6年生)	103
6月27日 (火)	小郡市立東野小学校 (4年生)	54
6月28日 (水)	小郡市立立石小学校 (6年生)	25
6月30日 (金)	私立筑陽学園高等学校郷土史研究同好会 (1～3年生)	27
7月 7日 (金)	小郡市立三国小学校 (6年生)	158
7月15日 (土)	しあわせ駅大野城	18
7月15日 (土)	放課後等デイサービス めばえ・ひまわり	10
7月29日 (土)	放課後デイサービス ソアラ小郡南	35
8月 2日 (水)	放課後等デイサービスさわやか愛の家あさくら館	10
8月18日 (金)	放課後等デイサービス プラムチャイルド	15
8月22日 (火)	放課後等デイサービス グラニー筑紫野	6
8月31日 (木)	小郡市立のぞみが丘小学校(6年生)	114
9月16日 (土)	私立筑陽学園高等学校郷土史研究同好会	27
10月 7日 (土)	私立福岡舞鶴高等学校 人文科学講座	20
10月11日 (水)	北九州市立葛原小学校	107
10月27日 (金)	久留米市立金丸小学校6年生	103
11月 5日 (日)	塚原台育成部 (子ども会)	53
11月24・28・30 日、12月 1日	筑紫野市立筑紫小学校特別支援学級	65
12月 5日 (火)	福岡県立小郡高等学校 (1年生)	200
12月 8日 (金)	福岡市立西都小学校 (4年生)	157
1月13日 (土)	久留米市放課後等デイ チャイルドハート上津クオーレ	41
1月20日 (土)	太宰府市放課後等デイサービス SOALA太宰府校	20
1月26日 (金)	小郡市日本語学校NILS小郡校	79
2月 1日 (木)	小郡市立味坂小学校(4年生)	20
2月13日 (火)	大刀洗町立大堰 (おおぜき) 小学校4年生	19
2月17日 (土)	筑紫野市立未来こども育成クラブ	15
3月 2日 (土)	太宰府市立学業院中学校放送部	10
3月27日 (水)	久留米市放課後等デイサービス プラムチャイルド田主丸	15
	合計	2,323

○スクールミュージアム事業

スクールミュージアム事業は、福岡県内の公立小学校、中学校、高等学校、義務教育学校、中等教育学校、特別支援学校を対象として、一般財団法人福岡県教職員互助会、福岡県立美術館、福岡県青少年科学館及び当館が合同で実施している。児童・生徒の鑑賞活動や科学体験活動、歴史・考古資料見学・考古学体験活動にかかる合同事業を行うことにより、情操教育、美術教育、科学教育、歴史教育の活性化及び地域文化の振興発展に寄与することを目的としている。当館は27年度から参画している。



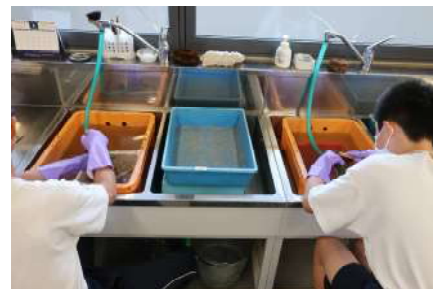
スクールミュージアムの様子

内容は館内の見学に加えてVRでの古墳内部の見学体験や実物の遺物に触れるハンズオン体験を実施している。5年度の実施校と来館者数は以下のとおりである。

期 日	学 校 名 及 び 学 年	人数 (名)
5月26日 (金)	大川市立道海島小学校 (6年生)	15
6月 7日 (水)	岡垣町立戸切小学校 (6年生)	13
6月14日 (水)	久留米市立三瀧小学校 (6年生)	84
6月27日 (木)	久留米市立西牟田小学校 (6年生)	63
9月 5日 (火)	柳川市立昭代中学校 (2年生)	71
11月 7日 (火)	八女市立花中学校 (3年生)	32
スクールミュージアム総数		278

○中学校職場体験

例年、職場体験では、館内の見学、土器の展開、拓本、図書整理作業など、博物館ならではの様々な業務を体験してもらっている。これらの体験を通して、多くの人たちの多様な仕事によって館全体の事業が成り立っていることや、共に働く大切さなどに気づかせ、日常生活における自分の生き方や在り方を考えさせることを目指している。中学生が博物館に行く機会がほとんどないという状況を鑑み、当館の学芸員による展示解説も取り入れている。5年度の参加学校・人数は以下のとおりである。



職場体験の様子

期 日	学 校 名 及 び 学 年	人数 (名)
6月14日 (水) ~15日 (木)	太宰府市立学業院中学校 (2年生)	4
7月7日 (木)	太宰府市立太宰府西中学校 (2年生)	2
9月11日 (火) ~12日 (木)	小郡市立三国中学校 (2年生)	10
1月23日 (火) ~24日 (水)	大野城市立大野中学校 (2年生)	3
2月7日 (水) ~ 8日 (木)	筑紫野市立筑紫野南中学校 (2年生)	4
2月20日 (火) ~21日 (水)	春日市立春日北中学校 (2年生)	3
2月27日 (火) ~28日 (水)	筑紫野市立筑紫野中学校 (2年生)	10
総数		36

○高校生インターンシップ

高校生インターンシップでは、学芸員や教育普及担当職員の職業体験の機会の提供し、勤労観・職業観を養うとともに職業選択能力伸長の支援を行っている。5年度は高校教育課より委託を受け

て行う「福岡県教育庁等高校生インターンシップ」を2回、小郡市の県立三井高等学校が独自で実施するインターンシップを1回実施した。研修内容は学芸員業務体験、文化財整理作業体験、広報普及業務体験等である。太宰府特別支援学校は、広報資料作成や分身ロボット「OriHime」を活用して来館学習への展示解説を行った。5年度の研修の参加学校・人数は以下のとおりである。

期 日	学校名	人数 (名)
6月12日 (月)～16日 (金)	太宰府特別支援学校インターンシップ (3年生)	1
7月18日 (火)～20日 (木)	福岡県教育庁等高校生インターンシップ (2年生)	9
8月1日 (火)～3日 (木)	福岡県教育庁等高校生インターンシップ (2年生)	11
9月5日 (火)～6日 (木)	福岡県立三井高等学校 (2年生)	6
インターンシップ総数		27

○出前授業

出前授業では、学芸員による講義・職業講和、VR出前授業、ハンズオン体験を実施した。VR出前授業では古墳内部に入って自分で歩いて見学する体験や仏像の内部の構造を見ることができるVR体験と同時に、実物の遺物等に触れるハンズオン体験も一緒に行うことで、さらに出前授業の内容の充実度が高まり好評をいただいている。また、STEAM教育に沿ってVRを使った授業も行い、子どもたちの問う力を育む学習も充実させている。今後も「見方・考え方」「問いと思考」を働かせた学習プログラムの改善に努めていきたい。5年度の参加学校・人数は以下のとおりである。

期 日	学 校 名 及 び 学 年	人数 (名)
6月 2日 (金)	筑紫野市立吉木小学校6年生 VR、ハンズオン	45
6月22日 (木)	古賀市立小野小学校4年生 古賀市と共同実施 (VR)	68
6月29日 (木)	篠栗町立篠栗小学校6年生 VR、ハンズオン	80
7月 6日 (木)	春日市立春日西中学校2・3年生総合 VR	20
7月12日 (水)	嘉麻市立嘉穂小学校6年生 VR、ハンズオン	46
7月14日 (金)	久留米市立上津小学校6年生 進村班長講義	112
7月19日 (水)	県立筑紫台高等学校 (歴史研究同好会) VR、ハンズオン	20
7月25日 (火)	私立筑紫女学園中学校2年生VR	26
8月29日 (火)	春日市立春日中学校2年生 修学旅行事前学習	184
9月 7日 (火)	小郡市立三国小学校歴史クラブ VR	29
9月 7日 (火)	筑紫野市立吉木小学校特支 VR	25
9月21日 (火)	春日市立春日中学校2・3年生 VR	19
10月 4日 (火)	中間市立中間中学校2年生 修学旅行事前学習	67
10月13日 (金) 10月14日 (土)	県立筑紫台高等学校 (歴史研究同好会) 文化祭でVR出展	160
10月19日 (木)	福岡市立野多目小学校5・6年生院内学級VR、ハンズオン	3
10月26日 (木)	県立香住丘高等学校1年生 VR、GT授業	40
11月24日 (金)	大刀洗町立本郷小学校 吉村副館長による職業講話	47
1月22日 (月)	那珂川市適応指導教室わかば学級 VR	17
1月25日 (木)	柳川市立柳河特別支援学校 VR	4
2月15日 (木)	小郡市立三国小学校歴史クラブ VR・土器パズル	29
2月29日 (木)	古賀市立小野小学校4 古賀市と共同実施	68

期 日	学 校 名 及 び 学 年	人数 (名)
3月 5日 (火)	糸島市立志摩中学校1年生 VR・土器パズル・360度	152
3月18日 (月)	直方市立植木中学校 VR出前	49
	合計	1,310



出前授業の様子

○オンライン遠隔授業

時間的、予算的に難しく来館したくてもできない学校が多い。そこで、情報端末が整備されている教室と当館をインターネットで結ぶオンライン遠隔授業を実施している。文化財は直接見て見学することが一番であるが、文化財そのものの魅力が高いため、オンラインの遠隔授業との親和性は高いと考える。

5年度からの新しい試みとして、大刀洗町の本郷小学校6年生と1年間を通して6回のオンライン授業を行った。単元の終わりにその時代を専門とする学芸員が解説をしたり、学芸員へ質問をしたりするという内容である。どの回も学芸員の分かりやすい解説に、子どもたちは興味関心が刺激され知的好奇心を高めることができた。歴史の学びを深めるだけではなく、普段なかなか出会えない学芸員という専門家との繋がりは大変貴重な体験だったと思う。今後も学校の要望に応えつつ、学校への広報活動や学習プログラムの開発に力を入れていきたい。5年度の実施状況は以下のとおりである。

期 日	学 校 名 及 び 学 年	人数 (名)
6月16日 (金)	大刀洗町立本郷小学校 (6年生)	47
6月28日 (水)	大刀洗町立本郷小学校 (6年生)	47
9月22日 (金)	大刀洗町立本郷小学校 (6年生)	47
10月 5日 (木)	大刀洗町立本郷小学校 (6年生)	中止
10月12日 (木)	春日市立春日中学校 (2・3年生)	18
10月24日 (火)	小郡市立三国小学校 (6年生)	32
11月 1日 (水)	太宰府市立学院中学校 (2年生)	320
11月 1日 (水)	大刀洗町立本郷小学校 (6年生)	49
11月16日 (木)	春日市立春日東中学校 (1年生)	28
11月27日 (月)	直方市植木中学校 (1年生)	70
12月 7日 (木)	大刀洗町立本郷小学校 (6年生)	49
1月11日 (木)	福岡市立当仁小学校 (4年生)	120
1月31日 (水)	福岡市立野多目小学校特別支援学級	1
2月 7日 (水)	大刀洗町立本郷小学校 (6年生)	49
2月21日 (水)	大刀洗町立本郷小学校 (4年生)	121
	合計	955



オンライン遠隔授業の様子

○教員向け研修会「文化財とICTを活用した授業づくり」※ZOOMによるオンライン開催

期日：令和5年5月12日（金）

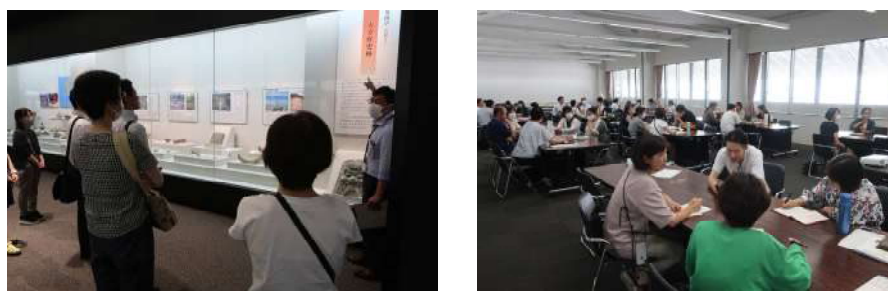
内容：今回の研修では、文化財を授業の主眼を達成するために効果的な教材と位置づけ、その魅力や価値を伝えるとともに、学習効果がさらに高まるICTの活用方法について学んでもらうことを目的とした。研修を通して、当館が提供している教育普及事業についてより深く知って頂き、今後の当館の活用につなげていった。4年度より教員を目指す大学生も参加対象とし、5年度は学芸員を目指す大学生にも参加対象を広げた。実施した内容は以下のとおりである。

	内 容	中継場所
14:00～14:15	受 付	
14:15～14:25	開会行事（オリエンテーション）	エントランス
14:25～15:35	体験 遠隔授業「オンライン社会科見学」	第1展示室等
15:35～15:45	休 憩	
15:45～16:05	文化財を活用した授業プランの紹介	研修室
16:05～16:25	授業で活用できるパワーポイントの手法	研修室
16:25～16:40	九州歴史資料館の教育普及事業の紹介	研修室
16:40～16:50	閉会行事（アンケート記入）	

○教員のための博物館の日2023in九州歴史資料館

期日：令和5年8月18日（金）

内容：学校による当館の活用促進を図るために、まずは学校の先生方に「博物館の教育資源」である「ひと・もの・こと」を知ってもらい、博物館を楽しんでもらおうという企画である。この事業は国立科学博物館、公益財団法人日本博物館協会との共催であり、文部科学省の後援を受けている。実施日に関しては例年先生方が参加しやすい夏季休業中に計画をしている。5年度も、対象を学校の先生方に加え教員を目指す学生も対象とし、9名の学生の参加があり全体で38名の申し込み



教員のための博物館の日の様子

があった。今回は新たにグループ討議を設けた。活発な意見交流が行われ、博学連携についても考える機会をもつことができた。体験内容については概ね満足を頂き、授業で当館の活用を検討してくださった先生もいた。実施した内容は以下のとおりである。（4グループに分かれ実施）

<日程>

時 間	内 容	場 所
13:10～13:20	受 付	文化情報広場
13:20～13:50	開会行事（オリエンテーション）	研修室
13:50～15:50	①バックヤードツアー ②遺物解説と実物体験 ③VR体験 ④ギャラリートーク	第4展示室 研修室 新収蔵庫
15:40～16:20	グループ討議 閉会行事（アンケート記入）	研修室

○福岡県教育センターキャリアアップ講座

期日：令和5年10月31日（火）

内容：福岡県教育センターでは、大学等の関係機関が実施する公開講座を、キャリアアップ講座として実施している。3年度より、福岡県教育庁文化財保護課の実施の講座を本館で行うことになった。研修は終日で、小学校の先生や中学校・高等学校の先生などを対象としている。前半は県内の文化財の価値や魅力、博物館と文化財を活用した授業づくりについての講義。後半は当館が提供している体験プログラム等を実際に体験して頂いた。今回は教員のための博物館同様に、新たにグループ討議を設けた。ここでも活発な意見交流が行われ、博学連携について考える機会をもつことができた。研修を通して、博物館や文化財の魅力を感じたり、効果的に授業や教育活動で活用する手法や手立てを学んだりして頂いた。実施した内容は以下のとおりである。



キャリアアップ講座の様子

<日程>

時 間	内 容	
09:30～10:00	研修オリエンテーション・館内案内	
10:00～11:00	福岡県の歴史と文化材 ―その魅力を学ぶ―	講義
11:00～12:00	博物館・文化財を活用した授業づくり ―在籍教員の実践から―	講義
13:00～15:00	ワークショップ：文化財に触れる、体験する ①バックヤードツアー ②実物の土器の解説とハンズオン体験 ③学芸員によるギャラリートーク ④VRによる古墳内部の見学体験	演習
15:00～15:30	意見交流・アンケート記入・事務連絡	

(5) ボランティア

◎九歴ボランティア

移転開館時から設置している当館のボランティア（通称「九歴ボランティア」）は、3年を一期として活動している。5年度は、第5期目の1年目である。4年度に新規ボランティアを募集して5年度は、継続ボランティア21名、新規ボランティア9名、計30名で活動を開始した。

平常時は、日曜日の古代体験プログラムの実施や館主催の講演会・イベントの運営支援、来館学習や各種団体への対応補助、ボランティア主催のイベントなど、多くの場面で活躍している。古代体験プログラムについて、5年度は4年度に引き続き日曜日のみ開催としている。

○定例研修会

九歴ボランティアとしての知見・識見を高めること、ボランティア間の交流を図ることを目的として、毎月第2土曜日の午前中（10:00～）に定例研修会を設定している。前半は、先月までの活動報告と今後の予定やイベントにおける役割分担の確認、活動日の調整である。後半は、学びある実践研修として、古代体験にかかわる内容や当館学芸員による展示解説を計画、実施した。

研修会では、2ヶ月先まで見通しを持った情報共有を行うことによって、日々の活動に不安や齟齬が起きないように綿密な打ち合わせを行うことができている。特に5年度は、運営を担当する指導主事が中心となり、ボランティアの自主性を尊重し、主体的な活動を促すような研修指導を行ってきたことが大きな成果を上げている。これにより5年度はボランティアの意見を多く取り入れ、ボランティア自身が中心となって運営する研修会やイベントを実践することができた。

月	研修の内容	月	研修の内容
4月	土器パズル・政庁パズルの復帰に向けた研修	1月	第2展示室解説技能講習
5月	インドアビンゴの実施に向けた研修	2月	社会教育と博物館についての研修
6月	古代体験：拓本について	3月	古代体験道具の補充・整理に関する講習
7月	古代体験：VRについて		
8月	第2，第4展示室案内講習		
9月	保存科学室・整理作業室案内講習		
10月	特別展案内講習		
11月	古代体験まつりに向けた着付け講習		
12月	畑じまい		



研修の様子

○ボランティアバス研修

期 日：令和5年4月25日（火）

訪問先：宗像市海のみちむなかた館・宗像大社・古賀市歴史資料館・船原古墳

参加者：九歴ボランティア11名 職員5名 計16名

内 容：5年度は特別展の舞台である「福岡県古賀市 船原古墳」周辺の博物館や史跡の見学を行った。4年度までは夏に実施していたバス研修であるが、熱中症などの懸念もあり、5年度からは春に実施することとした。古賀市歴史資料館では、解説を聞きながら貴重な文化財などを見て回り、宗像市海のみちむなかた館ではボランティアの方々と交流を実施した。ボランティア活動について意見交換や質疑応答などを通して、ボランティアとしてのスキルアップにつながるよい機会になった。船原古墳については当日雨天であったこともあり、残念ながら見学することはできなかった。



宗像市海のみちむなかた館の展示見学



宗像大社の見学

◎ボランティア活動

○古代体験

5年度も、4年度同様に日曜日みの開催とした。5年度のボランティア活動は、ボランティア一人一人の自主性と主体性をテーマに活動に取り組んでいる。また、コロナ禍が落ち着いてきたことを受け、5年度より土器パズルや政庁パズル体験の復帰、古代衣装着付け体験の復帰を行った。特に土器パズルは、来館する児童の関心度が高く、復元作業の疑似体験として楽しむ姿が多くみられた。古代体験全体としては4年度と比べて体験者数の大きな増減はないが、ボランティア研修を通して積極的に古代体験を勧めたり、また内容の改善を模索したりするボランティアが増えてきていることは、一つの成果と言える。今後、より多くの体験者を獲得し、また満足度の高い体験を提供していくためにも体験内容の工夫や、支援・解説の技能向上など古代体験自体の「テコ入れ」が課題であると考えている。

体験内容	利用者 (名)	前年度比 (名)
土器・政庁パズル	996	-
鑄造体験	220	▲2
拓本とり	152	▲13
瓦マグネット	113	+2
銅剣・銅矛	202	+15
ぎっちょう・投壺	204	+5
むかしの遊び	245	+22
古代衣装変身ミラー	738	+119
古代衣装着付け体験	78	-
VR体験	406	▲168



古代体験の様子

○ボランティアイベントの開催

3年度から特に力を入れている、九歴ボランティアが主体的に企画・実施する事業である。ボランティア自身が、1000年以上続く伝統的技法を学ぶことを通して、文化財愛護思想の普及を図るとともに、その知識・技術を地域の大人や、子供たちに伝え広めることを目的に、体験講座を設定している。5年度は4月23日(日)に「綿の種植え体験」、4月30日(日)に「折り紙かぶと・組紐づくり体験」、5月24日(水)に「大人組紐講座(基礎編)」、9月2日(土)に「手織りコースターづくり」、9月13日(水)に「大人組紐講座(上級編)」、1月17日(水)に「大人組紐講座(基礎編)」、3月3日(日)に「MyおひなさまとMy組紐」を実施した。「折り紙かぶと・組紐づくり体験」は、こどもの日に合わせたイベントであり、32名の参加があった。「組紐づくり」については、当館ボランティアの活動にも「組紐グループ」を位置付けており、グループ内で

研修を重ねることで、技術力と指導力の向上を図ってきた。5年度も、4年度に引き続き他館からの指導依頼や、団体での体験申し込みが多かった。また、学校に出向き、体験を通して若い世代に組紐の魅力を普及する活動にも取り組むことができた。今後とも、普及活動を継続するとともに、組紐とほかの体験を絡めつつ過去に体験した人々にも改めて楽しんでもらえるような工夫を図り、活動の更なる活性化と来館者増に取り組んでいきたい。全3回の取り組みでは、それぞれ17名、19名、8名の参加があった。「MyおひなさまとMy組紐」体験は、例年ひな祭りに合わせて開催しており、5年度は21名の参加となった。

○ボランティア自主活動「綿づくり」

3年度より綿づくりを九歴ボランティアの自主活動と位置づけ、本館の中庭に畑をつくっている。4年度は正式に九歴ボランティアの活動グループとして位置づけ、綿の育成とともに、その時々に応じたイベントを企画・実施してきた。イベントの一環として4月に綿の種をまき、日々の熱心な手入れで順調に成長し、9月には立派な綿が吹いた。一連の成長の様子は、3年から続く本館の新しい魅力のひとつとなり、7月下旬から8月上旬にかけて咲く花も大変好評であった。収穫後の綿は館の職員に謹呈したり、来館者への記念品として渡すことができた。その後ボランティアのメンバーで糸を紡ぎ、織るという作業も行った。種まきから芽吹き、刈り取るまでの一連の姿は館内のどこからでも目にすることができ、毎年の館の風物詩として定着しつつある。

	活動内容	関連イベント
R. 5. 2月	枯れ木の撤去	
3月	天地返し・冬の寒起こし	
4月	土づくり・畝づくり・種まき	綿の種まき体験
5月	水やり・摘芽	
6月	追肥・害虫駆除・支柱立て・敷き藁	
7月	剪定・開花	
8月	結実	綿の見学・紹介（※平日古代体験）
9月	実がはじける	機織り体験
10月	収穫・天日干し・綿木引き	綿の摘み取り体験
11月	休耕・畑じまい	
12月	休耕・冬の寒起こし	特別展示
R. 6. 1月	休耕	ボランティア自主研究交流会
2月	休耕	
3月	天地返し	



綿の種まき体験の様子



綿の摘み取り体験の様子

(6) 普及・活用事業

◎講座・講演会

○名誉館長講座

内容：西谷正名誉館長を講師として迎え、主に第4土曜日に実施する連続講座である。5年度は4年度に引き続き「筑紫・豊（前）の四つの窓」をテーマに、福岡県が面する玄界灘・響灘・周防灘・有明海に関する遺跡について2年間で全12回を紹介するものとして開始した。通常は1年度1テーマで全12回の連続講座であるが、新型コロナウイルス感染症の発生以来、感染拡大防止のため1回当たりの受講者数を減じたため、受講者をAグループ・Bグループに2分割した上で、講座内容は6回分を設定し、同一内容の講座を2回（2ヶ月）ずつ実施するものとしたものである。



名誉館長講座風景

そのため、本シリーズも5年度には後半6回分を行うものとして開始されたが、年度途中で西谷名誉館長の体調上の理由により、11月から3月までは中止となった。その後、西谷名誉館長の体調の回復により、中止分は6年度の上半期に延期して実施予定である。なお引き続き座席指定制を導入した。

開催日、演題、受講者数は次のとおりである。

回	開催日	演 題	受講人数 (名)
第1回A	4月22日	Ⅱ. 周防灘（3）神籠石系山城と初期仏教寺院	91
第1回B	5月27日	Ⅱ. 周防灘（3）神籠石系山城と初期仏教寺院	84
第2回A	6月24日	（4）豊前国の誕生	96
第2回B	7月22日	（4）豊前国の誕生	85
第3回A	8月26日	Ⅲ. 有明海（1）筑後の支石墓	100
第3回B	9月23日	Ⅲ. 有明海（1）筑後の支石墓	72
第4回A	10月28日	（2）いわゆる石人石馬—石製表飾	84
第4回B	次年度延期	（2）いわゆる石人石馬—石製表飾	—
第5回A	次年度延期	（3）筑後の装飾古墳	—
第5回B	次年度延期	（3）筑後の装飾古墳	—
第6回A	次年度延期	（4）大宰府の守り—山城と羅城	—
第6回B	次年度延期	（4）大宰府の守り—山城と羅城	—
受講者数総計			612

○九歴講座

内容：内容：主に毎月第2土曜日に当館や3分館の学芸員の他、市町村教育委員会等の外部講師を招いて実施する講座である。5年度は全12回を予定し、全ての回を予定通り実施、延べ856名の方が受講した。なお第5回から8回については、当館で実施の古代史研究事業に合わせて、特に「福岡県の古墳時代」という統一テーマを設定して開催した。また新型コロナウイルス感染症拡大防止対

策の変化に伴い、4年度までの全席予約制・指定席の制度を改め、予約席（指定席）と当日席（自由席）の併用制を導入した。定員は予約席60名、当日席60名を原則とし、状況に応じて適宜調整している。予約方法として、往復はがきに加えて電子申請も引き続き導入した。

開演日、演題、講師、受講者数は次のとおりである。

回	開催日	演題	講師（所属）	受講人数 （名）
第1回	4月 8日	大宰府外郭線の調査成果（再演）	吉田東明（九州歴史資料館）	64
第2回	5月13日	中世博多の港—博多遺跡群第221次調査に見る中世の国際貿易—	大庭康時 氏（福岡市埋蔵文化財課）	68
第3回	6月10日	福岡藩における罪と罰の世界	仲村慎太郎 氏（飯塚市教育委員会）	82
第4回	7月 8日	燃ゆる石炭（いし）にかけた熱い想い—旧筑豊石炭鉱業組合直方会議所と救護練習所模擬坑道—	田村 悟 氏（直方市教育委員会）	32
第5回	8月 5日	狭間の船原古墳	小嶋 篤（九州歴史資料館）	69
第6回	9月 9日	筑前における古墳の終焉	下原幸裕 氏（福岡県文化財保護課）	69
第7回	10月14日	科学で切り開く船原古墳の世界	加藤和歳（九州歴史資料館）	79
第8回	11月11日	周辺諸地域との関係からみた船原古墳	岩橋由季 氏（古賀市教育委員会）	89
第9回	12月 9日	石垣高尾遺跡は三野城か！？	小田和利（九州歴史資料館）	89
第10回	1月13日	近代柳川の缶詰製造史	中川晃一 氏（柳川古文書館）	46
第11回	2月10日	極楽浄土への憧憬 ～求菩提山経塚とその周辺～	栗焼憲児 氏（求菩提資料館）	72
第12回	3月 9日	出土品からみた大宰府	宮地聡一郎（九州歴史資料館）	97
受講者数総計				856



九歴講座の様子

○九歴ゼミ

内容：第2・第4水曜日の夜18：30～20：00（18：00受付開始）まで実施する、当館の学芸員を講師とした連続講座である。7～9月、10～12月、1～3月の年間3期、各期6回ずつ開講するものであるが、第2期は大雪のため一部の回を2月に延期し、第3期は講師の事情により第3回を以て中止となった。例年も事前予約制だが、2年度以降は新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、座席指定制を導入している。定員は当初50名としたが、新型コロナウイルス感染症を巡る情勢の変化に伴い、第2期以降は増加させた。申し込み方法として、往復はがきに加えて電子申請も4年度に引き続き導入している。

開催期間、演題、講師、各期延べ受講者数は次のとおりである。

期	開催期間	演題	講師	延べ受講人数(名)
第1期	7月13日～9月28日	大宰府・太宰府天満宮史料を読む～大宰府の歴史編～	酒井芳司	244
第2期	10月12日～12月14日・2月1日（12月21日より延期）	万葉集を読む～大宰府の歴史と万葉筑紫歌壇～	松川博一	342
第3期	1月12日～3月23日（2月22日以降は中止）	福岡のやきもの	遠藤啓介	82
受講者延べ数総計				668

○記念講演会

内容：展示の開催を記念して講演会を実施した。5年度は以下の2回で、そのうち1回は古代史研究フォーラムとして開催している。九歴講座と同様、予約席（指定席）と当日席（自由席）を併用し、予約席の予約方法も、往復はがきに加えて電子申請も導入している。

開催日、演題、講師、受講者数は以下のとおりである。

開催日	演題	講師	受講者数(名)
11月3日 (金・祝)	特別展開催記念講演会 古代史研究フォーラム 「船原古墳の馬を語る」	桃崎 祐輔 氏 (福岡大学教授) 諫早 直人 氏 (京都府立大学准教授)	145
2月3日 (土)	企画展開催記念講演会 「日本古代の都城と大宰府」	林部 均 氏 (国立歴史民俗博物館教授)	102
受講者数総計			247



特別展開催記念講演会古代史研究フォーラム
「船原古墳の馬を語る」の様子



企画展開催記念講演会「日本古代の都城と大宰府」の様子

○九州歴史資料館開館50周年記念講演会

日時：令和5年8月27日（日） 14:00～16:00

会場：小郡市文化会館大ホール（小郡市大板井136-1）

内容：九州歴史資料館の設立50周年を記念し、「歴史」をテーマとした講演会を以下のとおり開催した。これを通して、地元小郡市を中心とした幅広い人々に「歴史を学ぶ意義や大切さ」「本館の取組み」などを知っていただく機会を設けた。

記念講演は、歴史番組「英雄たちの選択」で司会を務め、歴史を社会に活かす試みを続けている 磯田道史氏(国際日本文化研究センター教授)を招聘し、「歴史の視点から九州そして日本の未来を考える -近世の藩政改革から日本の近代化を語る-」というタイトルでの講演を行った。全席予約制(自由席)で、553名の来場があった。



50周年記念講演会のポスター

○夕べのギャラリートーク

内容：当館では、他の観覧者の鑑賞の妨げにならないよう、第1展示室での展示解説を差し控え、その代わりに解説シートを無料で配布している。平成24年度からは、学芸員が担当した展示物について解説を行うギャラリートークを実施した。平成28年度までは、一旦閉館したのちに、18:30より再度開館、ギャラリートークは19:00より20:00までとしていたが、より参加者の層と利便性を再考し、平成29年度より毎月最終金曜日の閉館直後である16:30から17:00の実施とした。



ギャラリートークの様子

5年度は、新型コロナウイルス感染症を巡る情勢の変化に伴い、当初より定員は設定せず、事前予約も不要とした。

開催日、内容、講師、受講者数は次のとおりである。なお下記の他に、常設展開催時の第1・3土曜日に、ミュージアムトークも別途開催している。また各種イベントに合わせ、ギャラリートークが開催されたこともある。

回	開催日	内容	講師	受講者数(名)
第1回	7月28日	特集展示「やきもの はじめの一步②」	遠藤啓介	11
第2回	8月25日	特集展示「昭和の大宰府再置」	渡部邦昭	25
第3回	10月27日	特別展「船原古墳とかがやく馬具の精華」 1	進村真之	6
第4回	11月24日	特別展「船原古墳とかがやく馬具の精華」 2	加藤和歳	6
第5回	12月15日	企画展「西新町遺跡」	坂元雄紀	12
第6回	1月26日	企画展「重要文化財が語る古代大宰府」	遠藤啓介	7
参加者数総計				67

○出前講座

内容：当館職員が外部の団体等の依頼を受けて館外で実施する講座で、5年度は県民および県内外の文化財関係者等の要請を受けて計48回の講座に赴いた。5年度の実績は以下のとおりである。なお参加者数の一部にはオンラインによる受講者を含んでいる。

	開催日	依頼者	タイトル	会場	講師	参加者数 (名)
1	4月20日 (木)	古都大宰府保存 協会史跡解説員	大宰府外郭線の調査成果	プラムカルコア	吉田東明	45
2	5月12日 (金)	四王寺山勉強会	石造物の保存について	太宰府市いきいき 情報センター	加藤和歳	22
3	5月31日 (水)	臨濟宗妙心寺派 九州西区	仏像のみかた 姿・技 法・時代	久留米ニュープラ ザホテル	井形 進	58
4	6月13日 (火)	つくし郷土史会	近代府県行政と福岡県	筑紫野市歴史博物 館	渡部邦昭	23
5	7月15日 (土)	公立学校共済組 合	玄界灘沿岸における弥生 時代のはじまり	福岡リーセントホ テル	宮地聡一郎	25
6	7月21日 (金)	西日本文化協会	近世の絵画の流派 - 狩野 派を中心に	福岡アジア美術館	日野綾子	72
7	7月22日 (土)	八女市岩戸山歴 史文化交流館	筑後地方の青銅器	八女市岩戸山歴史 文化交流館	進村真之	31
8	7月26日 (木)	基肆かたろう会	古代のハイテクノロジー ～水城・大野城に見る飛 鳥時代の土木技術～	基山町民会館	入佐友一郎	40
9	7月29日 (土)	茶の湯の歴史を 問い直す研究会	茶の湯の歴史を問い直す	日本教育会館	遠藤啓介	285
10	9月5日 (火)	九州北部税理士 会香椎支部	大宰府と「令和」	パピヨン24	松川博一	85
11	9月8日 (金)	合志市郷土史愛 好会西支部	朝倉宮があった朝倉地域 の古代の歴史について	野々島市民セン ター	小田和利	31
12	9月12日 (火)	ちくし楽学楽遊 たい	大宰府の歴史と史跡	筑紫コミュニティ センター	松川博一	19
13	9月16日 (土)	太宰府市文化ふ れあい館	出土品から見た大宰府	太宰府市文化ふれ あい館	宮地聡一郎	23
14	9月20日 (水)	古都大宰府保存 協会	大宰府アカデミー令和編 大宰府出土の文字資料	日本経済大学福岡 キャンパス	酒井芳司	320
15	9月27日 (水)	小郡市市民福祉 部コミュニティ 推進課	古代の大宰府について	三国校区コミュニ ティセンター「ふ れあい館三国」	松川博一	20
16	9月28日 (木)	古都大宰府保存 協会	観世音寺の仏像	観世音寺	井形 進	53
17	10月3日 (火)	シルバーカレッ ジ	大宰府史跡について	福岡市原北公民館	宮地聡一郎	22
18	11月3日 (金・)	首羅山遺跡「ツ キイチ登山会」	現地解説	首羅山	井形 進	43
19	11月11日 (土)	豊前市市民歴史 講座	現地解説	観世音寺	井形 進	39
20	11月11日 (土)	古都大宰府保存 協会	現地解説	蔵司跡	吉田東明 宮地聡一郎	88

	開催日	依頼者	タイトル	会場	講師	参加者数 (名)
21	11月11日 (土)	東北芸術工科大学	X線CT装置導入による調査・研究の進展	東北芸術工科大学	小林 啓	30
22	11月18日 (土)	公立学校共済組合 福岡宿泊所	船原古墳とかがや く馬具の精華	福岡リーセン トホテル	加藤和歳	15
23	11月19日 (日)	長崎県教育委員会	「蒙古襲来」の痕 跡を探る	対馬市交流セ ンター	井形 進	30
24	11月23日 (木・祝)	古都大宰府保存協 会	観世音寺の仏像	観世音寺	井形 進	53
25	11月25日 (土)	久留米市生きがい 健康づくり財団 (久留米市生涯学 習センター)	高良山の仏教美術	えーるピア久 留米	國生知子	106
26	11月29日 (水)	古都大宰府保存協 会	糸島の仏像	糸島市内・福 岡市内の寺社	井形 進	21
27	12月2日 (土)	苅田町まちの歴史 講演会	古墳に副葬された 玉ー富久遺跡の埋 木製玉類ー	苅田町三原文 化会館	吉田東明	50
28	12月8日 (金) ～10日 (日)		小値賀町内寺院調 査・現地見学会	小値賀町	井形 進	29
29	12月16日 (土)	久山町教育委員会	薩摩塔研究最前線	レスポアール 久山	井形 進	300
30	12月16日 (土)	有馬記念館保存会	地方の御用絵師が 担った役割	篠山神社	日野綾子	20
31	12月17日 (日)	久留米市・竹野校 区マップ作成委員 会	竹野校区の古代条 里制について	久留米市・竹 野校区コミュ ニティセン ター	小田和利	21
32	1月7日 (日)	糸島市	古代山城が作られ た時代の糸島	伊都文化会館	松川博一	240
33	1月10日 (水)	公立学校共済組合	大宰府と万葉集	福岡リーセン トホテル	松川博一	30
34	1月13日 (土)	北九州市立自然 史・歴史博物館歴 史友の会	装飾古墳の広がり と磐井の乱	北九州市立自 然史・歴史博 物館	吉田東明	130
35	1月17日 (水)	古都大宰府保存協 会	古代大宰府の仏教 美術	日本経済大学	井形 進	298
36	1月20日 (土)	大野城心のふるさ と館	科学的に鏡を探る	大野城心のふ るさと館	小林 啓	50
37	1月20日 (土)	筑紫南コミュニ ティ運営協議会	大宰府外郭線につ いて	筑紫南コミュ ニティ	吉田東明	50
38	1月27日 (土)		「蒙古襲来」の痕 跡を探る～水中と 陸上からのアプ ローチ～	長崎歴史文化 博物館	井形 進	60

	開催日	依頼者	タイトル	会場	講師	参加者数 (名)
39	1月27日 (土)	日本遺産「西の都」活性化協議会	素顔の道真を訪ねて		松川博一	19
40	1月28日 (日)	鞠智城・温故創生館	古代山城の門	山鹿市菊鹿公民館	吉田東明	97
41	2月3日 (土)	糸島市	糸島の横穴式石室墳	伊都国歴史博物館	小嶋 篤	40
42	2月4日 (日)	公益財団法人唐津市文化事業団	菜畑遺跡の出土土器から見る弥生時代開始期の様相	唐津市民交流プラザ	宮地聡一郎	90
43	2月11日 (日・祝)	古都大宰府保存協会(共催)	大宰府史跡現地散策	蔵司地区	吉田東明 宮地聡一郎 小嶋 篤	120
44	2月21日 (水)	古都大宰府保存協会	菅原道真と大宰府	日本経済大学	松川博一	279
45	2月21日 (水)	久留米水曜会	高良山の仏教美術	リベール久留米	國生知子	35
46	3月2日 (土)	公立学校共済組合	福岡県の私鉄	福岡リーセントホテル	渡部邦昭	57
47	3月3日 (日)	鞠智城・温故創生館	古代山城の門－九州を中心に－	山鹿市菊鹿公民館	吉田東明	102
48	3月12日 (火)	香椎下原校区年輪クラブ	古代山城の築造技術	下原公民館	入佐友一郎	22
参加者数総計						3,738

◎一般来館者対応事業

当館の施設や事業内容を知っていただき、文化財やその保護・保存の重要性をより深く理解していただくために、来館者の展示資料に関する質問や、館外からのレファレンスへの対応のほか、来館者対応事業として館独自のサービスを職員が行っている。

○来館者への施設解説

学校団体以外の一般来館者に対しても、より深く当館を理解していただくために、事前申し込みのあった団体に対しては職員による施設解説を行っている。5年度は、新型コロナウイルス感染症をめぐる情勢の変化に伴い、一般の来館団体は大幅に回復、さらに増加した。その結果、70団体約1,500名に対して案内を行っている。

○展示品にさわれるコーナー

本事業以前に収蔵品オンデマンド「飛び出すむかしの宝物」というコーナーがあり、学芸員が対応する形で毎週日曜日に限定で実施していた。ただし、公開が日曜日に限定されることから、開館中、常時対応できるよう、令和5年4月9日より設置型のコーナーに切り替えを行った。展示品としては延永ヤヨミ園遺跡の須恵器の展示を行った。実際の資料に自由に触れることのできるコーナーである。

○ミュージアムトーク

当館の第1展示室は声が大きく響くため、通常は他の来館者の妨げにならないように展示解説は行わず、その代わりとしてキャプションよりも格段に詳しい、さまざまなテーマや資料をとり上げた解説シートを作成して、無料で配布してきた。しかしやはり、直接学芸員から展示資料を前にして話を聞くこと、また学芸員と対話をしながら観覧することもまた、大切な学習体験であると考えられることから、特別展期間中を除いた第1・3土曜日の14時から、ミュージアムトークを開催することとしている。5年度は19回行い、合計182人の来館者の参加があった。参加者からはおおむね好評ではあるものの、開催日が他の講座等と重なる場合がまま見受けられたこと等もあり、6年度からは、毎週日曜日に、14時から開催されるバックヤードツアーに続いて、15時から開催することになった。今後も来館者の要望に沿うことにつとめながら、よりよい形を模索しつつ継続してゆきたい。



ミュージアムトークの様子

○バックヤードツアー

本事業は、来館者に公開されていない博物館の裏側、いわゆるバックヤードを紹介するものである。普段見ることのできない発掘調査の出土品の報告書作成、収蔵庫に収蔵されるまでの流れなどを紹介するツアーである。令和5年4月9日より毎週日曜日・1日に11:00～・14:00～の2回実施をした。特別感のあるツアーであり、参加者にとって非常に満足度の高いものであった。

○発掘新聞・発掘情報ディスプレイ

発掘新聞は九州歴史資料館が日頃行っている県内の発掘調査を速報的に紹介するもので、不定期に発行している。館内に掲示している他、九州歴史資料館のホームページ上でも公開している。発掘情報ディスプレイは館内で県内の発掘調査情報を紹介するもので、3年度より運用を開始した。

○古代衣装変身ミラー

コロナ禍以降、デジタルで古代衣装試着ができるコンテンツを制作し、代替とするとともに館のアミューズメント性を高めたものとして「古代衣装変身ミラー」を導入している。これはインタラクティブサイネージを利用して、デジタル化した古代衣装を試着できるようにしたもので、縄文時代の貫頭衣・弥生時代の貫頭衣・古墳時代の胡服・古墳時代の巫女衣装・奈良時代の貴族の衣装・奈良時代の女官の衣装・平安時代の狩衣・平安時代の女房装束の計8種を選択できる。職員がいなくても体験でき、手をかざすだけで操作できるため、多くの来館者が試着映像を楽しんだり、またその姿を写真に収めたりしていた。



古代衣装変身ミラー

運用当初は実際に古代衣装を試着する「古代衣装着付け体験」の代替案として運用を始めたものであるが、5年度より「古代衣装着付け体験」そのものも再開している。それに伴い、「古代衣装変身ミラー」を楽しんだ来館者が、その流れで古代衣装着付け体験を楽しんだり、平日の場合はまた別日に来館して古代衣装着付け体験を楽しんだり、相互に関連付けながら楽しむ機会となっている。撮影回数3,342回、延べ利用回数13,368人（1人当たり2種類試着、2人に1人が撮影するものとして算出）

○来館者環境改善

来館者の利便性の向上について協議するため、来館者環境改善部会を設置し、4回の会議を開催した。改善の取り組みとして実施したミュージアムカフェの出店については、当館でのイベントに合わせて、コーヒー店が年10回出店した。そのほか、図書やお土産コーナーの配置の改善、第4展示室の遺構展示の改善（モニター解説導入）、三沢遺跡や石棺墓の音声ガイド導入などに取り組み、来館者の満足度を高めることができた。



珈琲専門店の淹れたてコーヒーを味わう来館者



受付横に設置している販売コーナー

◎体験教室・イベント等

当館に親しんでいただき、またあらゆる世代に歴史や文化財を身近に感じてもらうことや、子ども達に対して、学校教育と併せて自ら体感して学ぶことを通して、授業内容を深く理解し、歴史学習に対する意欲を高めことを目的として、各種の体験教室やイベントを開催している。

○キッズミュージアム

当時の暮らしの体験を通して、歴史・文化などに対する興味を高め、歴史や文化財を大切にする実践意欲や態度を養うことを目的に毎年実施している小学生向けの体験イベントである。通年型のプログラム（全2回）と単発で実施する短期プログラムを実施している。

5年度は通年プログラムの内容として、4年度同様、藍染体験を取り入れた。文化としての藍の歴史を知り、実際に制作する活動は来館者の満足度も高かった。石包丁づくり・稲刈り体験では自分で作った石包丁で刈り取った稲を脱穀し、ほんの少ししか古代米を収穫することができないといった体験から農作業の大変さを楽しみながら学んでいる姿が印象的であった。各プログラムでオリエンテーションの際にきゅうおにが喋る演出も、雰囲気作りにとっても効果があったと考える。4年度に実施した弥生土器作りに関しては、5年度は体験自体を取りやめている。

5年度の内容は以下のとおりである。（引率の家族を含む）

キッズミュージアム通年プログラム

期 日	内 容	参加者（名）
6月 3日（土）	藍染体験・田植え体験	22
10月21日（土）	石包丁づくり・稲刈り体験	35

キッズミュージアム短期プログラム

期 日	内 容	参加者（名）
4月29日（金・祝）	「古代の生活体験2022・春 竪穴住居組み立て・弓矢体験」	22
12月12日（日）	「古代の生活体験2023・冬 藍染体験・科学実験」	23



通年プログラム 藍染体験(左)・田植え体験(右)の様子



短期プログラム 科学実験(左)・古代の生活体験の様子(右)の様子

○古代体験まつり

期日：令和5年11月23日(木・祝)

内容：過去に九歴ボランティアのバス研修で訪問した3つの資料館・博物館(糸島市立伊都国歴史博物館・八女市岩戸山歴史文化交流館・宗像市海の道むなかた館)と近隣の施設(九州国立博物館、小郡市埋蔵文化財調査センター、春日市奴国の丘歴史資料館)に参加を呼びかけ、それぞれの施設が行っている古代体験を実施してもらい、参加者が1日でいろいろな体験ができるイベントを開催した。昨年度は雨天の影響もあり、1日の来館者数が350名、体験者のべ人数610名であったが、今年度は天気にも恵まれ、来館者数5割増を見越していた。結果としては来館者数が847名超、体験者のべ人数1800名超と、2.5倍に迫る来館者数となった。九州歴史資料館の体験としては、通常実施している古代体験のほかに、埋蔵文化調査室による発掘体験を実施した。昨年度は無料で提供した瓦マグネット体験については、物価高騰の影響もあり、今年度は100円での体験とした。



「古代体験まつり」ポスターチラシ表(左)・裏(右)

○なるほど！親子歴史教室2023

期日：令和5年7月29日（土）

内容：「古賀市にある船原古墳の謎を探ろう！」をテーマに館内の探検やVRでの発掘体験を通して資料やヒントを集め、国宝級の馬具が発掘された船原古墳の謎に迫る体験型歴史学習教室を開催した。イベントは3つのミッションで構成しており、それぞれ「①発掘された木簡から大宰府政庁の謎を推理せよ！」「②VRで遺物を発掘して、船原古墳の謎を解明せよ！」「③九州歴史資料館スペシャルミッション??」とタイトルをつけて、参加者にとってメリハリのある活動になるように工夫した。「①発掘された木簡から大宰府政庁の謎を推理せよ！」では社会科教員による大宰府と対外交流、そして大宰府政庁についての話を講義形式で行った。後半は大宰府政庁模型を使用するなどの工夫も行った。「②VRで遺物を発掘して、船原古墳の謎を解明せよ！」では、当館VR機器を使って、古賀市船原古墳の探検や土坑の発掘を疑似体験してもらった。子ども達はVR体験を通して、古墳の大きさや石材の大きさに驚いていた。「③九州歴史資料館スペシャルミッション??」では船原古墳を県内や県外にPRするためのキャッチコピーを考える活動を行った。子ども達は、ここまで学んだ内容から特に興味関心を持った点を挙げながら、思い思いにキャッチコピーを考え、発表し、楽しんでいった。当日参加者は43名と、大変盛況なイベントとなった。

なるほど！親子歴史教室2023 家族で調査員になって歴史の謎を探ろう

7月29日（土）
13:30～16:00

参加無料・事前申し込み必要
「古賀市にある船原古墳の謎を探ろう！」
館内の探検やVRでの発掘体験を通して資料やヒントを集め、国宝級の馬具が発掘された船原古墳の謎に迫る体験型歴史学習教室です。
料金は無料です。ご了承ください。

そのほか体験イベントがたくさんあります！

6月18日（日）古代体験特別プログラム
抽物 くみひも、アミガムカブリ
13:00～15:40（先着22名 体験無料）
申請は「なるほど！親子歴史教室」申し込み書です。
12月5日（日）の開催まで申し込み受付中です。

8月6日（日）ちびっこミッションのみ「発掘教室」
※抽物のみ参加費がかかります。詳細は申し込み書をご覧ください。

「たからもの」を見る。その経験が「たからもの」になる。

九州歴史資料館
〒817-0001 福岡県古賀市船原1-1-1
TEL 0942-75-9131
FAX 0942-75-9132

「こども歴史教室」ポスター



「こども歴史教室」の様子

○子ども絵画教室

期日：令和5年8月6日（日）・16日（日）

内容：平成27年を最後に開催していなかった子ども絵画教室を8年ぶりに開催した。自分が興味を抱いた文化財と向き合い、じっくりと鑑賞する活動を通して歴史や文化に興味を持つとともに感じたことを表現することをねらった小・中学生を対象にした絵画教室で、初日は午前・午後の2回、2日目は午後のみと全3回の開催であった。子ども達は、学芸員の話に耳を傾け、その中から思い思いに興味関心を抱いた文化財を選び出し、画面いっぱいにスケッチを楽しんでいた。スケッチが終わると研修室で着色に入ったが、その際も実際の色彩にとらわれることなく、感じ取ったイメージを自由な色で表現することができていた。完成後は、当館教員が作品一つひとつに講評を書



制作前の展示見学の様子



制作された作品

き込むとともに、館内に2ヶ月間、作品を展示する機会を設けた。感じ取り、表現し、発表する一連の体験は、子供たちにとって大変満足度の高い活動となり、作品展示には保護者のみならず学校の先生方も多く鑑賞にいらっしやっていた。作品の返却の際には、職員が制作した「とんぼ玉ストラップ」を添えて、各学校へ作品を持参することで、館のイベントや、それを楽しむ子ども達の様子を学校関係者にも周知することができた。

○ミュージアムナイト

内容：来館者増、知名度向上のために、特別夜間営業を5年度から実施している。地域に根差した博物館として、近隣住民や今までに来館されたことのない方（通常の営業時間帯に来館できない方）など新たな客層を取り込むために、5年度は2回実施した。夜間営業中は館内にJAZZのBGMを流し、通常土日に実施しているバックヤードツアーやミュージアムトーク、土器パズル体験等を行った。また、1回目は敷地内でホテル観察会を行い、2回目は「きゅうれきマルシェ」と題してキッチンカーの出店や小郡市「おうち起業応援講座」卒業生による小物販売やワークショップのブースを設けた。2回とも予想をはるかに上回る来館者があり、大変好評であった。

回	開催日	内容	参加者数(名)
第1回	5月27日(土)	バックヤードツアー・ミュージアムトーク・ホテル観察会	492
第2回	11月4日(土)	バックヤードツアー・ミュージアムトーク・きゅうれきマルシェ	788
合計			1,280



第1回 ホテル観察会を待つ来館者



第2回 初開催の「きゅうれきマルシェ」

◎その他関連機関・団体との共催事業

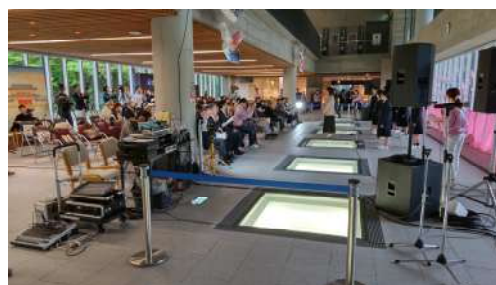
○桜コンサート

期日：令和5年4月16日(日) 10:30 ~ 16:00

主催：桜コンサート実行委員会

共催：九州歴史資料館・三国中校区なかよし地域ネット
人権のまちづくり推進連絡会

内容：平成28年度から共催で実施しているイベントである。地域のまちづくり協議会が共同で立ち上げた実行委員会が開催するもので、地域の個人や団体の参加型コンサートである。数々の音楽グループの方々が、第4展示室および中庭で素晴らしい演奏やパフォーマンスを繰り広げた。第10回となる5年度は、新型コロナウイルス感染症を巡る情勢の変化もあり、660名以上の来館者を得た。



桜コンサートの様子

○特別展開催記念茶会

期日：令和5年10月29日（日）10：00～15：00

内容：5年度に開催した特別展「船原古墳とかがやく馬具の精華」の開催を記念して企画した茶会である。特別展を記念した茶会は、小都市文化協会裏千家との共催で平成25年度から特別展開催期間中に実施しているもので、共催の連携企画の相乗効果により例年多数の参加者を得ている。5年度は一部にコロナ禍前とは異なる扱いもあったものの、概ね通常の形態に復し、265名の参加があった。

なお、記念茶会と並行して、特別展ギャラリートークを2回開催し、展示をより多くの方に観覧いただく契機とした。また甘木絞り連絡協議会による甘木絞りの物品販売も行い、イベント性を高めるとともに、地域の伝統工芸の披露も行った。



特別展開催記念茶会の様子

○アクロスミュージアムコンサート

期日：令和5年11月12日（日）13：30～15：30

内容：公益財団法人アクロス福岡との共催事業として開催され、例年、特別展開催の記念イベントと位置づけている。プロのアーティストによる本物の音楽に触れる機会を作ることで、当館に親しみを持っていただくとともに、来館者が特別展を観覧することで、本県の歴史や文化への興味や理解を深めていただくこと、さらには、文化財保護思想の普及を目的としている。

5年度は、5名のユニット「Ensemble Room（アンサンブル・ルーム）」が息の合った美しいアンサンブルを繰り広げた。演奏された楽曲は、プーランク「木管五重奏のためのノヴェレツテ ハ長調」、R.ロジャース「サウンド・オブ・ミュージック メドレー」、E.モリコーネ「ニュー・シネマ・パラダイス」などであった。

コロナ禍が終わったことを踏まえ、今回開催から各回定員を従前の100名に戻した。その結果、参加者は立ち見を含めて233名（第1部135名、第2部98名）と前年比約27%増であった。



アクロスミュージアムコンサートのポスター

日程	プログラム
13：30～14：00	アクロスミュージアムコンサート 第1部
15：00～15：30	アクロスミュージアムコンサート 第2部

○三沢遺跡の森を育む会との共同イベント

NPO法人「三沢遺跡の森を育む会」が開催している春の山野草を楽しむ会や夏の昆虫採集のイベントの際に三沢遺跡の解説を館内のパネルおよび実際の遺跡において行った。今年度は4月23日、7月30日、11月12日の3回行っている。

○指定文化財のオンライン紹介（「発見！九歴」健康ウォーク）

当館が、本県の文化財保護の拠点施設であることに鑑み、県内に所在する指定文化財をオンラインで紹介する試みを実施した。手法としては、市町村の文化財担当者と大型モニター等にオンラインでつなぎ、ライブ映像として各担当推奨の文化財を毎回1件紹介するものであった。これにより、現地に赴くことなく各種文化財の魅力を伝えることを企図した。あわせて、当館職員による館内展示物の一品紹介も実施することで計1時間程度の設えとした。本企画は、のぞみが丘校区コミュニティセンター生楽館の主催事業「発見！九歴」健康ウォークへの共催として、令和5年11月16日を初回とし、3月21日まで計4回実施した。

○第1回 令和5年11月16日（木） 10:00～11:00 （参加：21名）

オンライン紹介：特別史跡王塚古墳（桂川町王塚装飾古墳館 長安慧 氏）

展示品1品解説：大宰府政庁模型（学芸調査室 松川博一）

○第2回 令和6年1月18日（木） 10:00～11:00 （参加：12名）

オンライン紹介：史跡高良山神籠石（久留米市文化財保護課 小澤太郎 氏）

展示品1品解説：西新町遺跡展示パネル（埋蔵文化財調査室 坂元雄紀）

○第3回 令和6年2月15日（木） 10:00～11:00 （参加：24名）

オンライン紹介：史跡三井三池炭鉱跡（大牟田市石炭産業科学館 坂井義哉 氏）

展示品1品解説：阿蘇4火砕流埋没樹木標本（文化財企画推進室 入佐友一郎）

○第4回 令和6年3月21日（木） 10:00～11:00 （参加：12名）

オンライン紹介：市有形文化財（考古資料）津古生掛古墳出土品

（小郡市埋蔵文化財調査センター 山崎頼人 氏）

展示品1品解説：石人石馬レプリカ（埋蔵文化財調査室 岸本圭）



特別史跡王塚古墳の紹介の様子



大宰府政庁模型解説の様子

○文化財めぐり「むなかた古墳日和」

期日：令和5年10月21日（火）

主催：福岡県教育委員会（文化財保護課）

内容：特別展「船原古墳とかがやく馬具の精華」関連のイベントである。当該展覧会で紹介された

宗像の代表的な古墳について、当館職員が解説しながら現地をめぐった。県民の宗像や古賀などの歴史や福岡県の古墳への理解の深化と文化財愛護思想の普及に資するものとなった。

なお、行程は九州歴史資料館～新山奴山古墳群～昼食～道の駅むなかた～平等寺瀬戸古墳～古賀市歴史資料館～船原古墳～九州歴史資料館で、講師は当館の吉村靖徳（副館長）、加藤和歳（文化財科学班長）。



文化財めぐりの様子

○全国歴史民俗系博物館協議会

全国歴史民俗系博物館協議会（歴民協）は、平成23年3月11日の東日本大震災をきっかけに設立され、全国を9つのブロックに分け、館長が設立の呼びかけ人となった12館が、各ブロックの幹事館となった。九州ブロックは、九州国立博物館と九州歴史資料館が幹事館を務めている。

歴民協の第9回年次集会は、2年度以来、新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため、二度の延期により、4年2月16日（水）に宮城県多賀城市の東北歴史博物館にて開催予定であったが、感染拡大のため、中止となり、4年度も総会は書面開催、研究集会も実施されなかった。5年度は元年度の北海道以来の対面での開催となり、沖縄県立博物館・美術館にて、ようやく第9回年次集会として、総会、幹事館会議、研究集会が開催された。

第9回総会に提案された議題は、すべて承認された。また5年度の幹事館についても、今年度の幹事館が再任されることも承認された。総会終了後の幹事館会議で、6年度の会議が千葉県佐倉市の国立歴史民俗博物館で開催されること、また代表幹事館を同じく国立歴史民俗博物館が務めることが承認された。この他、ブロックごとの集会の開催について、各ブロックの状況について、相互に質疑応答があった。研究集会は「文化財の継承と創造へ 沖縄における事例報告」のテーマで開催された。2日目は施設見学で、沖縄県立博物館・美術館がとりまとめた協力館を自由に訪れて見学するというものであった。協力館のうち、那覇市内にある那覇市立壺屋焼博物館、沖縄県南部の八重瀬町立具志頭歴史民俗資料館を訪問した。

○九州山岳霊場遺跡研究会

九州山岳霊場遺跡研究会は、九州山岳霊場遺跡研究会が主催し、九州歴史資料館が事務局として共催し、あわせて九州各地の霊山が所在する現地において、地元自治体や寺社、日本山岳修験学会等の共催や後援を得て、毎年8月末に開催されて来た。

第11回九州山岳霊場遺跡研究会「宝満山の古代山岳信仰」を福岡県太宰府市にて、令和3年10月30日（土）・31日（日）に開催した後（8月に新型コロナウイルスの感染症が拡大したため、10月に延期開催）、ほぼ九州の主な霊山を一巡したので、時間をおいて総括大会を6年度に開催する予定である。そのため、5年度は、4年度に続き開催を休止した。



5年度全国歴史民俗系博物館協議会研究集会の様子



施設見学で訪問した八重瀬町立具志頭歴史民俗資料館の外観

(7) 重点施策

◎九州歴史資料館古代史研究事業

○全体概要

九州歴史資料館は、昭和47年、日本古代最大の地方官衙遺跡である大宰府史跡の調査研究などを行う県立施設として設置され、長きにわたり律令期を中心とした学際的研究をリードしてきた。4年度からは、日本遺産「古代日本の「西の都」～東アジアとの交流拠点～」の前史という位置づけで、新たな枠組み「古代史研究」を掲げ、大宰府史跡の研究とともに古墳時代の研究を進めることで、当館の調査研究の幅を広げている。古代史研究第1期（4～6年度）の研究テーマは「筑紫君をめぐる古代史」である。

研究成果は、重点施策として採択された各種事業を通して積極的に還元していくこととしており、5年度には「特別展「船原古墳とかがやく馬具の精華」（10月7日～12月3日）」「古代史研究フォーラム「船原古墳と馬を語る（11月3日）」「テーマ講座「福岡県の古墳時代」（計4回：8～11月）」「古代史研究チャンネル動画制作（計3本：第5～7編）」を実施した。また、「西新町遺跡の出土品調査」「装飾古墳の悉皆調査」なども併せて実施した。

○古代史研究映像制作

九州歴史資料館の古代史研究への取組みや古代史のロマンを広く知っていただくため、フォーラムや特別展、九歴講座などと連動して、昨年度に引き続き「筑紫君磐井の乱の実像に迫る」と題した3本（第5編～第7編）の動画を制作した。これにより、4年度制作分と合わせた総本数は7本となった。動画は、当館職員のほか、市町村文化財担当者の協力を得て、福岡県内の古墳を対象に制作し、磐井の乱の実像を視聴者が考察できる内容とした。制作した動画は、当館ホームページのYoutube内に新設した「古代史研究チャンネル」にて配信した。引き続き、6年度にも制作を継続することとしている。

第5編 筑紫君磐井の乱の実像に迫る（⑤黒崎観世音塚古墳・石神山古墳 南筑後編）

出演：山田元樹氏（大牟田市立図書館）、酒井芳司（当館）

第6編 筑紫君磐井の乱の実像に迫る（⑥勝浦峯ノ畑古墳・須多田天降天神社古墳 宗像地域編）

出演：白木英敏氏（宗像市世界遺産課）、酒井芳司（当館）

第7編 筑紫君磐井の乱の実像に迫る（⑦扇八幡古墳・甲塚古墳 京都平野編）

出演：井上信隆氏（みやこ町生涯学習課）、酒井芳司（当館）



Youtube古代史研究チャンネルのサムネイル第6編・第7編

◎西新町遺跡出土遺物再整理

西新町遺跡は福岡市早良区西新に所在する。修猷館高等学校校舎建て替えに伴う発掘調査の結果、古墳時代初頭を中心とする集落遺跡で、当時の日本列島最大の国際貿易港であったことが明らか

かとなった。九州歴史資料館では西新町遺跡出土品を展示に更に活用しやすくするために、4年度から6年度にかけて再整理事業を行うこととなった。5年度は4年度に引き続き有識者による指導・助言を仰ぎ、多彩な出土土器についての広報用リーフレットを刊行した。また、広報用の出土品集合写真の撮影を行った。

◎文化財データベース

近年のコロナ禍では、博物館の休館や入場制限が余儀なくされ、デジタル・アーカイブ化を加速させ、豊かなコンテンツを発信する必要性が求められた。改正博物館法においては、博物館が所蔵する資料のデジタル・アーカイブ化とその公開が追加された。また、博物館同士が連携・協力し、事業を実施する努力義務規定も盛り込まれている。

このことから当館では、収蔵資料のデータベースを9年度までに作成し、HP上で公開することを目指して掲げた。一方、求菩提資料館、甘木歴史資料館、柳川古文書館の3館は、当館の分館として位置付けられており、各々の館が収蔵する資料の公開も当館が主導することとなった。そこで5年度は、データベース作成に向けて当館及び3分館が収蔵する資料の把握に務めるとともに、福岡県立美術館のデータベースの視察、6～9年度の業務フローの作成等を行った。

(8) 広報活動

◎一般向け広報

当館では、平成25年度から「広報普及班」を設置し、幅広い手段や媒体を活用して広報活動を行っている。例年、予算上有料広告を用いた大々的な広報は難しく、有料広報は特別展の西鉄駅のポスター掲示のみを実施した。無料広報としては、ホームページやポスター・チラシ、X（旧Twitter）などのSNS媒体はもとより、公共の広報誌や民間のフリーペーパー、インターネット情報サイトなど様々な媒体を活用している。また、近隣施設には直接訪れて広報資料の掲示協力を依頼するなどして展示やイベントの周知を行っており、特に30年度からは近隣の3つの公民館では回覧板に添付してもらうことにしている。こうした周知方法では、展示やイベントの企画内容や対象とする世代に合わせて、毎企画ごとに配布先、周知方法を考慮するなどの工夫もしている。さらに、マスコミ関係には展示等の情報を提供するとともに、取材と情報紹介について依頼を行っている。

また、来館者の利便性を考慮した広報を心がけ、文化情報広場に講座関係のチラシや資料を集めて。当館が展示と講座の情報の発信源となるよう工夫を行っている。

○ホームページ

令和3年5月より、ホームページのリニューアルに伴い、社会教育総合センターのアドレスになっていたURLを<https://kyureki.jp/>に移行した。また、X（旧Twitter）の運用とともに、速報性が高い情報を発信できるようになった。ホームページでは、展示案内のほかイベントの告知や、講座・講演会の告知、発掘情報や各種資料の案内を掲載しており、5年度はその編集作業を、文化財企画推進室広報普及班を中心に複数名体制で対応している。既存のコンテンツに加え、5年度末からは新たにトップページに館のCM動画を掲載する仕様も追加した。



ホームページのトップ画面

また、館のイベントやボランティアイベントに関する参加申し込みを、ホームページを介した電子申請方式に完全移行した。これにより、参加者の集計や把握、参加者数が定員に達した際の対応などが大幅に簡素化され、情報の共有も容易になり、職員の負担が軽減された。講座・講演会についても、現在は往復はがきと電子申請の併用としている。



展示CM動画の掲載

学校向けの資料やコンテンツも充実しつつあり、ホームページを見て来館を検討する学校や団体が増えてきている。総アクセス数265,906回。

SNS名	年間投稿数	年間閲覧数 インプレッション	年間フォロワー	累計フォロワー
X (旧Twitter)	323	426,237	546	2,061
Instagram	13	—	230	399

○SNS (X (旧Twitter) ・ Instagram)

当館に関する様々な取り組みを紹介し、館の魅力をPRするために、情報の速報性に特化したX（旧Twitter）での情報発信をおこなった。投稿内容は、展示・イベントの告知や実績報告、季節の話題などで、「ぼく、きゅうおに」という一人称を用いながら、親しみやすい内容でのリアルタイム発信を心掛けた。また、情報の蓄積や深化に特化したInstagramの投稿もおこなった。投稿内容は、館藏品や文化財などの写真を中心に解説も添えて発信した。

なお、平成28年度から運用を開始したX（旧Twitter）は、5年度末までに2061のフォロワーを獲得。4年度9月から本格運用を開始したInstagramは、5年度末までに399のフォロワーを獲得している。

○YouTube

5年度は、古代史研究フォーラムの動画3本のほか、「筑紫君磐井の乱の実像に迫る」と題した動画を4本、併せて7本の本編動画と4本のCM動画を投稿した。各動画は大きな反響を呼び、10月には初の月間再生回数10,000回超えを果たした。全体としても月間の平均再生回数は5,000回を超えており、これは4年度の総再生回数が2,586回だったことと比べても、その反響の大きさが見て取れる。

また、再生回数が大きく伸びた一因として、各種SNSの相互作用が働いた点も5年度の成果と言える。5年度はHPのほかX（旧Twitter）やInstagramを活用し相互に広報を行ったことで、異なったプラットフォームからの情報伝達や集客に成功している。総再生回数66,431回登録者数1,021人増。



現在公開中の動画

◎他施設等との相互広報

他施設や団体との連携については、県内各市町村の博物館・資料館を紹介することを目的として、各館にご協力いただき統一的な各館の紹介チラシを掲示している。予算の関係で配布はできないものの、当館ホームページや館内で紹介し、県内施設での相互広報などのネットワークの構築を進めている。また、講座での広報資料の共有なども進めている。

○県政PR展示

会期：令和5年10月3日（火）～10月22日（日）、5年12月19日（火）～6年2月5日（日）

会場：福岡県立図書館1階第1閲覧室

主催：福岡県立図書館

内容：福岡県立図書館では、1階エントランスで各種展示を行っており、県の機関に対してもイベントや施策を紹介する展示を募集している。5年度は、10月に特別展「船原古墳とかがやく馬具の精華」に係る展示・イベントのお知らせを、12～2月には冬の企画展とこの期間のイベントポスターを掲示した。



県政PRの掲示の様子

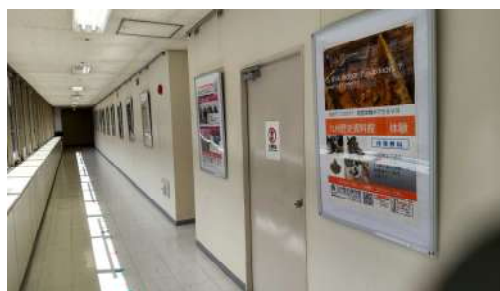
○よかもんひろば利用広報

会期：令和5年9月25日（月）～11月5日（日）

会場：福岡県庁11階物産観光展示室「福岡よかもんひろば」回廊

主催：物産観光展示室「福岡よかもんひろば」

内容：福岡県観光政策課では、県庁11階物産観光展示室



よかもん広場回廊での掲示の様子

「福岡よかもんひろば」で県内市町村、庁内各課及び各種団体が主催する観光・物産PRイベント等を行っている。5年度は、10月に特別展「船原古墳とかがやく馬具の精華」に係る展示・イベントのお知らせを掲示した。

○アクロス福岡コミュニケーションエリア利用広報

会期：令和5年9月4日（月）～9月10日（日）

主催：公益財団法人 アクロス福岡

内容：アクロス福岡では、コミュニケーションエリアで自治体や文化施設の企画展示やイベントを実施している。5年度は特別展「船原古墳とかがやく馬具の精華」と9月から10月にかけてのイベント等の催し物ポスターを掲示した。

○有料広報

特別展期間中に、特別展「船原古墳とかがやく馬具の精華」ポスターを西鉄駅構内に掲示した。

広報した事項	媒体	期日
特別展「船原古墳とかがやく馬具の精華」	西鉄全駅でのポスター掲示	1クール

○イベント出展広報

イベント出展で、開催時期に応じたイベントや講座等のチラシ配布やポスター掲示を実施している。5年度に実施した広報は以下のとおりである。

開催日時	場所	イベント名
4月23日（金）	小郡市	小郡スプリングフェスタ2023
6月4日（日）	小郡市	みいフェスタ
7月30日（日）	大野城市	大野城こころのふるさと館開館5周年イベント
9月24日（日）	小郡市	てんとテンつながるマーケット
9月24日（日）	小郡市	だいだいフェスタ
9月30日（土）	福岡市	FUKUOKAコンファレンス2023（ふくおかミナクルフェスタ）
10月15日（日）	小郡市	のぞみが丘校区第18回地域文化祭
11月19日（日）	宗像市	海の道むなかた館世界遺産まつり
11月26日（日）	小郡市	小郡市アンビフェスタ
3月24日（日）	小郡市	てんとテンつながるマーケット



イベント出展の様子

◎博学連携・学習支援に向けた広報

博学連携への観点から、広報普及班の在籍教員を中心に学校への広報活動を行っている。従来から行っていた校長会や研修会での当館の教育普及事業の説明や教育委員会を通じた広報資料の配付に加え、ホームページを活用した広報活動に力を入れている。具体的にはウェブ上で、学校の先生向けに研修会等で配付している事業説明資料を閲覧できるようにした。また、電子申請システムでのお問い合わせ・お申し込みフォームも多く活用して頂いている。今後も効果的な広報活動を図り、多くの学校の活用につなげていきたい。



来館学習の広報資料



VR出前授業の広報資料



オンライン授業の広報資料

このほか5年度に行った主な広報は以下のとおりである。

- ・ポスター・チラシの配布：歴史関係施設・団体、企画内容に則した団体、主催・共催や講師派遣先の講演会・講座参加者、他機関の講演会・イベント等、書店等の店舗
- ・県・市の広報媒体への情報掲載：教育福岡・福岡県だより・グラフ福岡・広報おごおりほか
- ・歴史系専門雑誌、イベント情報雑誌への情報掲載：「博物館研究」「古代文化」ほか
- ・情報サイトへの情報提供：イベントバンク・いこーよ ほか
- ・特別展・企画展開催直前のマスコミ向け内覧会の開催など情報提供
- ・県が利用するデジタルサイネージの掲示

なお、館のアピールを行うため、平成29年度から継続して「福岡県観光パスポート（ふくおかよかとこパスポート）」と「ミュージアム周遊パス」に参加した。

「福岡県観光パスポート（ふくおかよかとこパスポート）」は福岡県が、株式会社日本旅行へ委託し、観光客の動向調査及び県内周遊を目的として実施する事業である。「ミュージアム周遊パス」は大規模スポーツ国際大会の開催を契機として、九州各県の美術館・博物館等文化施設への周遊を促進する取り組みで、参加して施設情報を掲載した。

(9) 実習・研修

◎博物館実習

内容：5年度は、11大学から16名の実習生を受入れ、8月21日（月）～31日（木）の10日間で実施した。なお、受入れ大学名及びカリキュラムは、以下のとおりである。



博物館実習（大宰府史跡の見学）風景

受入大学一覧

大学名	学部名	学科名	実習生数（名）
福岡大学	人文学部	歴史学科	3
筑紫女学園大学	文学部	日本語・日本文学科	3
九州産業大学	国際文化学部	日本文化学科	1
西南学院大学	国際文化学部	国際文化学科	1
久留米大学	文学部	科目等履修生	1
佐賀大学	芸術地域デザイン学部	地域デザインコース	1
山口大学	人文学部	人文学科歴史学コース	2
奈良大学	文学部	史学科	1
京都府立大学	文学部	歴史学科	1
同志社女子大学	現代社会学部	社会システム学科	1
富山大学	人文学部	人文学科歴史文化コース	1
八洲学園大学	生涯学習学部	生涯学習学科	1
実習生総数			17

博物館実習カリキュラム

日	(曜)	内容（午前）	内容（午後）	担当班
第1日	21日(月)	オリエンテーション・開講式 西谷正名誉館長講話	講義「学芸員の實務」 施設見学	企画推進班 学芸研究班
第2日	22日(火)	大宰府史跡の見学	遺物洗浄	大宰府調査班
第3日	23日(水)	出土遺物の整理		文化財調査班
第4日	24日(木)	教育普及1	考古資料の取り扱い	広報普及班 学芸研究班
第5日	25日(金)	歴史資料の取り扱い		学芸研究班
第6日	26日(土)	教育普及2	名誉館長講話受講	広報普及班 企画推進班
第7日	28日(月)	美術工芸資料の取り扱い		学芸研究班 企画推進班
第8日	29日(火)	資料の保存修復と保管		文化財科学班
第9日	30日(水)	広報普及・図書資料整理		広報普及班 企画推進班
第10日	31日(木)	博物館の保存環境	実習のまとめ 閉講式	文化財科学班 企画推進班

◎九州歴史資料館文化財研修

本県は、『福岡県文化財大綱』を策定し、市町村と県とが連携した文化財保護の充実に取り組んでいる。これに基づく具体的な施策として、市町村の文化財行政担当職員を対象とした研修を福岡県文化財保護課と協働して行っている。本研修の目指すところは、業務遂行上必要な知識や技術を習得し、職員の資質向上を図るとともに職員相互の情報交換の場を設け、市町村と県及び市町村相互の連携による文化財保護を推進していく関係性の創出である。

4年度からは、文化財保護行政の体系と仕組みを学ぶための「文化財基礎研修」と各種文化財の業務を行う上で必要な基礎知識及び技術を習得するための部門別の研修を行っている。なお、部門別研修には、毎年開催している「有形文化財（美術工芸品）基礎研修」と隔年毎に開催している有形文化財（建造物）、民俗文化財、記念物、史跡等整備の基礎研修及び「埋蔵文化財発掘調査基礎研修」（年7回開催）、「埋蔵文化財安全衛生講習会」を実施している。

5年度に実施した文化財研修は下表のとおりで、総数154名の市町村職員等の参加があった。

○文化財基礎研修および部門別研修

研修名	開催日	場所	内 容		人数 (名)
文化財 基礎研修	7月7日 (金)	当館研修室	講 義	福岡県における文化財保護行政の取り組み	38
				文化財の体系と文化財保護制度の歴史	
				各種文化財の保護と補助制度	
				埋蔵文化財の保護と補助制度	
民俗文化財 基礎研修	9月29日 (金)	当館研修室	講 義	民俗文化財の定義と歴史	35
				福岡県の民俗文化財保護の取り組み	
				民俗文化財の保護・活用	
				各種の補助・助成メニュー	
有形文化財 (美術工芸 品) 基礎研 修〔彫刻〕	2月13日 (火)	当館研修室	講 義 ・ 演 習	仏像の基礎知識	31
				詳細調査の流れ－調書作成・写真撮影－	
				概要調査と日々のメンテナンス	
有形文化財 (美術工芸 品) 基礎研修 〔陶磁器〕	2月14日 (水)	当館研修室	講 義 ・ 演 習	陶磁器の基礎知識	29
				陶磁器の展示方法	
				陶磁器の固定方法	
				福岡のやきもの	
				各種の補助・助成メニュー	
記念物等 基礎研修	3月13日 (水)	当館研修室	講 義	記念物保護行政について	21
				史跡等の保存活用計画の策定	
				名勝の保存・活用	
				天然記念物の保存・活用	
				各種の補助・助成メニュー	
参加者数					154



有形文化財（美術工芸品）基礎研修の様子

○埋蔵文化財発掘調査基礎研修

平成29年度より、県内市町村文化財担当職員の埋蔵文化財の調査・事務処理の知識および技術の向上を目的として、発掘調査等の実務経験が少ない新採職員等を対象とした基礎研修を実施している。5年度は全7回の講座を実施した。

回数	開催日	テーマ	種類	内容	参加者数(名)
1	6月16日（金）	埋蔵文化財に関する法律 埋蔵文化財事務手続き	埋文事務手続き 講義	1 文化財保護法・関連法令	25
				2 事務手続きの流れ 九州地区基準・県取扱要綱	
				3 事前審査	
				4 試掘確認調査	
				5 埋蔵文化財関連国庫補助事業	
2	7月21日（金）	事前準備	発掘調査 講義	1 発掘調査着手にかかる諸手続き	13
				2 着手前の現地確認	
				3 調査計画の策定	
				4 作業員の募集と雇用	
				5 安全衛生管理	
		本調査	発掘調査 講義	6 機材搬入	
				7 表土剥ぎ	
				8 遺構検出	
				9 遺構掘り下げ	
				10 図化	
				11 写真撮影	
		図化実習	実習	12 撤収・埋め戻し～引渡し 終了後の保護法上の手続き等	
				13 測量機器の取り扱い	

回数	開催日	テーマ		種類	内容	参加者数(名)		
3	10月13日 (金) ※第2金曜	発掘調査	発掘調査実習	実習	14 遺構検出・掘削の基礎、 図化	12		
4	10月20日 (金)	整理・ 報告書 作成	整理・報告書作成	講義	1 整理作業の流れ	12		
5	11月17日 (金)				実測、写真撮影		実習	2 文章の作成、編集、 入稿、校正
								3 遺構割付、遺物割付
6	12月15日 (金)		拓本、実測	実習	4 土器実測	12		
					講義・実習		5 写真撮影の方法	
7	1月19日 (金)		特殊遺物とトレース	実習	6 拓本	10		
					実習		7 石器、金属器等実測	
		保存管理	講義	8 特殊遺物の見方、トレースの方法	11			
特殊遺物の対応	1 特殊遺物の対応							
		遺物の保存管理		2 遺物の保存処理・科学分析の方法と外注の実際				
延べ参加者計						95		

「埋蔵文化財発掘調査基礎研修」研修内容

○埋蔵文化財安全衛生講習会

埋蔵文化財安全衛生講習会は、県内市町村を含めた埋蔵文化財発掘調査担当職員等を対象に、労働安全・衛生管理に関する意識を喚起するとともに、知識・技術の習得によって、担当職員の資質向上と埋蔵文化財発掘調査現場の適正な運営等に資することを目的としている。5年度は「発掘調査現場における安全管理」というテーマで6月23日に開催した。

(10) 市町村支援

◎文化財保護に係る技術支援

当館では、2年度に策定された『福岡県文化財保護大綱』に基づき、福岡県文化財保護課と連携して市町村への専門的な技術支援を行っている。これは、「九州歴史資料館文化財研修」と対をなすもので、研修で得た知識のみでは解決できない課題を現地での支援により対処するものである。

5年度の市町村より派遣依頼を受けて技術支援等に当館職員を派遣した件数は、91件であった。なお、1件の派遣依頼文書で複数回の支援を行っている事例が多々あることから、派遣実数としては下表より多いのが実情である。

市町村等への技術支援 実績一覧（派遣依頼文書受理分）

	期 間	依 頼 元	依頼内容	担 当	
				所 属	氏 名
1	4月～8月	甘木歴史資料館	企画展「井出野遺跡と古代の役所」に係る企画・展示の助言等	文化財調査班	小田和利
2	4月～3月末	久留米市教育委員会	高良山総合調査（国分寺所蔵歴史資料調査）に係る指導・助言	学芸研究班	國生知子
3	5月～3月末	福津市教育委員会	新原・奴山古墳群調査に係る調査指導	大宰府調査班	宮地聡一郎
4	5月8・9（月・火）・15・16日（月・火）	久留米市教育委員会	高良山総合調査（福聚寺所蔵歴史資料調査）に係る指導・助言	学芸研究班	遠藤啓介
5	5月10日（水）	北九州市立自然史・歴史博物館	太郎坊遺跡出土経筒の修理に係る保存科学調査指導	文化財科学班	小林 啓
6	5月12日（金）	四王寺山勉強会	四王寺山勉強会会員の研修会出席	文化財科学班	加藤和歳
7	5月15日（月）	豊前市教育委員会	第1回国指定史跡「求菩提山」整備指導委員会出席	学芸研究班	井形 進
8	5月24日（水）	福岡市史跡整備活用課	鴻臚館東門等復元検討業務委託審査委員会における審査及び選定	企画推進班	入佐友一郎
9	5月24日（水）	粕屋町教育委員会	戸原寺田遺跡第2地点出土木製品の保存処理に係る協議	文化財科学班	小林 啓
10	5月25日（木）	那珂川市教育委員会	第1回那珂川市文化財専門委員会出席	学芸調査室	松川博一
11	6月9日（金）	朝倉市教育委員会	第4回朝倉市文化財保存活用地域計画協議会出席	学芸研究班	國生知子
12	6月11日（日）	築上町教育委員会	第1回史跡船迫窯跡保存活用計画策定に係る事前の現地指導	企画推進班	入佐友一郎

	期 間	依 頼 元	目 的 ・ 理 由	担 当	
				所 属	氏 名
13	6月22日 (木)	築上町教育委員会	第1回史跡船迫窯跡保存活用計画策定委員会出席	企画推進班	入佐友一郎
14	6月28日 (水)	八女市教育委員会	第1回八女市岩戸山歴史文化交流館協議会出席	学芸調査室	松川博一
15	7月4日 (火)	福岡市史跡整備活用課	第1回鴻臚館跡整備検討委員会出席	企画推進班	入佐友一郎
				大宰府調査班	宮地聡一郎
16	7月7日 (金)	公益財団法人古都大宰府保存協会	『都府楼55号』第1回編集委員会出席	学芸研究班	井形 進
17	7月12日 (水)	大野城市史跡対策委員会	第1回大野城市史跡対策委員会出席	企画推進班	入佐友一郎
18	7月14日 (金)	志免町教育委員会	第1回志免町文化財保護審議会出席	学芸研究班	國生知子
19	7月21日 (金)	宗像市教育委員会	第1回宗像市文化財保護審議会出席	学芸研究班	國生知子
20	7月21日 (金)	古賀市教育委員会	第1回古賀市船原古墳調査指導委員会出席	学芸調査室	松川博一
				文化財科学班	加藤和歳
21	8月～3月	太宰府市教育委員会	太宰府の絵師に関する調査協力	企画推進班	日野綾子
22	8月2日 (水)	直方市教育委員会	史跡筑豊炭田遺跡群の整備基本設計に係る現地指導	学芸調査室	松川博一
				企画推進班	入佐友一郎
23	8月7・8日 (月・火)	文化庁文化財第二課埋蔵文化財部門	第1回近世・近代の埋蔵文化財の保存活用に関する調査研究委員会出席	大宰府調査班	宮地聡一郎
24	8月8日 (火)	久山町教委員会	第1回久山町文化財保護審議会出席	学芸研究班	井形 進
25	8月10日 (木)	公益財団法人古都大宰府保存協会	『都府楼55号』第2回編集委員会出席	学芸研究班	井形 進
26	8月22日 (火)	筑後市教育委員会	第1回筑後市文化財専門委員会出席	文化財調査班	小田和利
27	8月22日 (火)	松浦市教育委員会	松浦市鷹島海底遺跡調査指導委員会出席	文化財科学班	小林 啓
28	8月30日 (水)	八女市教育委員会	磐井の乱1500年記念事業プロモーション第1回検討委員会出席	学芸調査室	松川博一

	期 間	依 頼 元	目 的 ・ 理 由	担 当	
				所 属	氏 名
29	9月1日 (金)	長崎県教育庁学芸文化課	第1回長崎県文化財保護審議会出席	学芸研究班	井形 進
30	9月6日 (水)	糸島市教育委員会	第1回糸島市文化財保護委員会出席	学芸研究班	國生知子
31	9月26日 (火)	大野城市地域創造部心のふるさと館	第1回大野城心のふるさと館運営協議会出席	学芸調査室	松川博一
32	9月26日 (火)	朝倉市教育委員会	第5回朝倉市文化財保存活用地域計画協議会出席	学芸研究班	國生知子
33	9月29日 (金)	八女市教育委員会	磐井の乱1500年記念事業プロモーション第2回検討委員会出席	学芸調査室	松川博一
34	10月4・5日 (水・木)	長崎県教育庁学芸文化課	県指定有形文化財(彫刻)の現地調査	学芸研究班	井形 進
35	10月5日 (木)	宇美町役場シティプロモーション課	第1回宇美町文化財保護審議会出席	企画推進班	日野綾子
36	10月10日 (火)	佐賀県基山町教育委員会	基肄城跡保存整備連絡調整会議出席	企画推進班	入佐友一郎
37	10月13日 (金)	宗教法人宗像大社	第5回国宝福岡県宗像大社沖津宮祭祀遺跡出土品保存活用計画策定委員会出席	大宰府調査班	宮地聡一郎
				文化財科学班	加藤和歳
38	10月23日 (月)	山口県岩国市文化スポーツ振興部文化財課	吉川資料館所蔵「大肩衝茶入」の調査・助言	学芸研究班	遠藤啓介
39	10月24日 (火)	佐賀県基山町教育委員会	第11回基肄城跡保存整備委員会出席	企画推進班	入佐友一郎
				大宰府調査班	坂元雄紀
40	10月26日 (木)	八女市教育委員会	第2回八女市岩戸山歴史文化交流館協議会出席	学芸調査室	松川博一
41	10月26日 (木)	八女市教育委員会	磐井の乱1500年記念事業プロモーション第3回検討委員会出席	学芸調査室	松川博一
42	11月1・2日 (水・木)	那珂川市文化財専門委員会	視察研修(長崎県佐世保市)参加	学芸調査室	松川博一
43	11月1日 (水)	太宰府市史跡対策委員会	第1回太宰府市史跡対策委員会出席	埋蔵文化財調査室	吉田東明
44	11月3日 (金)	久山町文化交流センター(レスポアール久山)	「ツキイチ登山会」における講師	学芸研究班	井形 進
45	11月14日 (火)	築上町教育委員会	第2回史跡船迫窯跡保存活用計画策定委員会出席	企画推進班	入佐友一郎

	期 間	依 頼 元	目 的 ・ 理 由	担 当	
				所 属	氏 名
46	11月15日（水）	福岡市史跡整備活用課	第2回鴻臚館跡整備検討委員会出席	企画推進班	入佐友一郎
				大宰府調査班	宮地聡一郎
47	11月16日（木）	長崎県教育庁学芸文化課	県指定文化財候補（彫刻）の現地調査	学芸研究班	井形 進
48	11月17日（金）	古賀市教育委員会	第2回古賀市船原古墳調査指導委員会出席	学芸調査室	松川博一
				文化財科学班	加藤和歳
49	11月17日（金）	粕屋町教育委員会	粕屋町史跡等整備検討委員会におけるオブザーバー	企画推進班	入佐友一郎
50	11月24日（金）	八女市教育委員会	磐井の乱1500年記念事業プロモーション第4回検討委員会出席	学芸調査室	松川博一
51	11月24日（金）	大刀洗町立本郷小学校	総合的な学習の時間におけるゲストティーチャー		吉村靖徳
				広報普及班	吉浦貴則
52	11月29日（水）	福岡市史跡整備活用課	福岡城記念櫓調査検討会出席	企画推進班	入佐友一郎
53	11月30日（木）	朝倉市秋月博物館	朝倉市秋月博物館協議会出席	学芸調査室	松川博一
54	12月1日（金）	宗教法人宗像大社	第6回国宝福岡県宗像大社沖津宮祭祀遺跡出土品保存活用計画策定委員会出席	大宰府調査班	宮地聡一郎
				文化財科学班	加藤和歳
55	12月7・8日（木・金）	東京文化財研究所保存科学研究センター	屋外文化財の保存修復計画に関する調査研究に係る調査協力	企画推進班	入佐友一郎
56	12月8・10日（金・日）	長崎県小値賀町教育委員会	町内文化財（仏像等）の詳細調査	学芸研究班	井形 進
57	12月11日（月）	熊本県美里町教育委員会	第1回堅志田城跡保存整備検討委員会出席	企画推進班	入佐友一郎
58	12月15日（金）	直方市教育委員会	第1回直方市文化財等に関する有識者委員会出席	学芸調査室	松川博一
				企画推進班	入佐友一郎
59	12月17～20日（日～水）	学校法人東北芸術工科大学	科学研究費調査におけるモンゴルでの技術指導	文化財科学班	小林 啓
60	12月27日（水）	桂川町教育委員会	第1回特別史跡王塚古墳整備指導委員会出席	企画推進班	入佐友一郎
				文化財科学班	加藤和歳
				文化財調査班	進村真之
61	1月～3月	甘木歴史資料館	佐野至氏作品調査に係る助言・協力	学芸研究班	井形 進
				企画推進班	日野綾子
62	1月11日（木）	佐賀県基山町教育委員会	基肄城跡保存整備連絡調整会議出席	企画推進班	入佐友一郎

	期 間	依 頼 元	目 的 ・ 理 由	担 当	
				所 属	氏 名
63	1月18日 (木)	佐賀県基山町教育委員会	第12回基肆城跡保存整備委員会出席	大宰府調査班	坂元雄紀
64	1月19日 (金)	行橋市教育委員会	行橋市文化財調査委員会出席	学芸研究班	井形 進
65	1月19日 (金)	築上町教育委員会	第3回史跡船迫窯跡保存活用計画策定委員会出席	企画推進班	入佐友一郎
66	1月19日 (金)	宇美町	「宇美八幡宮境内古図」の詳細調査	企画推進班	日野綾子
67	1月19日 (金)	福岡県装飾古墳保存連絡協議会	「装飾古墳総合調査」の事業説明	文化財調査班	進村真之
68	1月24日 (水)	那珂川市教育委員会	妙法寺古墳群発掘調査に係る現地指導	企画推進班	入佐友一郎
69	1月26日 (金)	粕屋町教育委員会	粕屋町史跡等整備検討委員会におけるオブザーバー	企画推進班	入佐友一郎
70	1月31日 (金)	うきは市教育委員会	史跡屋形古墳群(鳥船塚古墳)の実施設計に係る指導・助言	企画推進班	入佐友一郎
71	2月1日 (木)	長崎県教育庁学芸文化課	美術工芸品(木造彫刻)の概要調査	学芸研究班	井形 進
72	2月6日 (火)	長崎県諫早市文化振興課	第2回長崎県文化財保護審議会出席	学芸研究班	井形 進
73	2月9日 (金)	久留米市教育委員会	史跡筑後国府跡整備基本計画の策定に係る助言	企画推進班	入佐友一郎
74	2月14日 (水)	大野城市地域創造部 心のふるさと館	第2回大野城心のふるさと館運営協議会出席	学芸調査室	松川博一
75	2月16日 (金)	直方市教育委員会	史跡筑豊炭田遺跡群の整備基本設計に係る現地指導	学芸調査室	松川博一
				企画推進班	入佐友一郎
76	2月16日 (金)	福岡県体育・スポーツ研修報告会実行委員会	研修報告会運営業務の指導	広報普及班	田中 奨俊
77	2月20日 (火)	東峰村教育委員会	「東峰村の阿蘇4火砕流堆積物及び埋没樹木」整備基本計画策定委員会出席	企画推進班	入佐友一郎
	2月22日 (木)	宇美町役場シティプロモーション課	第2回宇美町文化財保護審議会出席	企画推進班	日野綾子
78	2月22日 (木)	公益財団法人古都大宰府保存協会	『都府楼55号』第3回編集委員会出席	学芸研究班	井形 進
79	2月26日 (月)	大野城市史跡対策委員会	第2回大野城市史跡対策委員会出席	企画推進班	入佐友一郎
80	2月28日 (水)	糸島市教育委員会	第2回糸島市文化財保護委員会出席	学芸研究班	國生知子

	期 間	依 頼 元	目 的 ・ 理 由	担 当	
				所 属	氏 名
81	2月28日 (水)	春日市協働推進部	第2回特別史跡水城跡(大土居・天神山)整備部会出席	企画推進班	入佐友一郎
				大宰府調査班	宮地聡一郎
82	2月28日 (水)	久山町教委員会	第3回首羅山遺跡調査整備指導委員会出席	学芸研究班	井形 進
83	3月6日 (水)	国立アイヌ民族博物館	収蔵品保存修復業務に係る列品等修理請負候補者の選定委員会出席	文化財科学班	加藤和歳
84	3月8日 (金)	久留米市文化財収蔵資料審議会	久留米市文化財収蔵資料審議会出席	学芸研究班	國生知子
85	3月10日 (日)	久山町教委員会	登録有形文化財「若八幡宮」現地見学会での絵馬解説	企画推進班	日野綾子
84	3月13日 (水)	直方市教育委員会	第2回直方市文化財等に関する有識者委員会出席	企画推進班	入佐友一郎
85	3月13日 (水)	福岡県アジア文化交流センター	修理候補文化財の請負候補者の選定	学芸調査室	松川博一
86	3月15日 (金)	朝倉市教育委員会	第6回朝倉市文化財保存活用地域計画協議会出席	学芸研究班	國生知子
87	3月21日 (木)	粕屋町教育委員会	粕屋町史跡等整備検討委員会におけるオブザーバー	企画推進班	入佐友一郎
88	3月25日 (月)	豊前市教育委員会	第2回国指定史跡「求菩提山」整備指導委員会出席	学芸研究班	井形 進
89	3月26日 (火)	宗像市教育委員会	第2回宗像市文化財保護審議会出席	学芸研究班	國生知子
90	3月27日 (水)	那珂川市教育委員会	第3回那珂川市文化財専門委員会出席	学芸調査室	松川博一
91	3月28日 (木)	桂川町教育委員会	特別史跡王塚古墳石室内鋼管支柱取り替えに伴う現地指導	企画推進班	入佐友一郎
					加藤和歳
					進村真之

(11) 刊行物一覧

No.	書名	刊行月
1	『九州歴史資料館研究論集49』	3月
2	『九歴だよりN0. 57』	4月
3	『九歴だよりNo. 58』	11月
4	『特別展 船原古墳とかがやく馬具の精華』	10月
5	『企画展 重要文化財が語る古代大宰府』	12月
6	『九州歴史資料館解説シート88 筑紫・豊(前)の四つの窓(後編)』	6月
7	『九州歴史資料館解説シート89 酸化炎焼成と還元炎焼成』	7月
8	『九州歴史資料館解説シート90 釉薬の基本』	7月
9	『九州歴史資料館解説シート91 昭和の大宰府再置』	8月
10	『九州歴史資料館解説シート92 福岡鉄道遺産ものがたり9－筑前・筑後・車両編』	9月
11	『九州歴史資料館解説シート93 船原古墳遺物埋納坑調査の最前線2023－2024』	3月
12	『福岡県文化財調査報告書第284集 福岡県の近世窯業関係遺跡』	3月
13	『大宰府政庁周辺官衙跡XIV(上・下)』	3月
14	『大宰府史跡発掘調査報告書XII』	3月
15	『大宰府史跡蔵司地区の発掘調査報告会』 予稿集	2月
16	『西新町遺跡』再整理事業リーフレット「土器が語る。多文化交流の町、西新町遺跡」	12月
17	『アジア太平洋戦争末期における地方内政・軍政機関の一元的研究』	3月
18	『狩野派の地方展開黎明期の実態についての研究－福岡藩御抱え絵師・尾形家を中心に－』	3月



特別展「船原古墳とかがやく馬具の精華」図録



企画展「重要文化財が語る古代大宰府」図録



『大宰府史跡蔵司地区の発掘調査報告会』予稿集

(12) 交流事業

◎日韓学術文化交流事業

福岡県教育委員会では、百済・新羅の調査研究を行っている韓国国立文化財研究院との間で、職員相互派遣による学術交流事業を行っている。

5年度は、今後韓国側の窓口となる国立羅州文化財研究所と相互に訪問し、協議を行った上で、令和6年2月7日（水）に「日・韓文化交流史に関する共同研究」についての覚書を取り交わした。

(13) 協議会等

◎九州歴史資料館協議会

令和5年7月31日（月）に木川会長ほか10名の委員が出席して協議会を開催した。

○協議・報告事項

- 1 報告事項 4年度事業報告 5年度九州歴史資料館自己評価表（実施段階）
- 2 協議事項 5年度事業計画、5年度九州歴史資料館自己評価表（計画段階）

九州歴史資料館協議会委員名簿

5年6月1日現在

	氏名	所属
(会長)	木川 りか	九州国立博物館博物館科学課長
(副会長)	黒田 修三	前宇美町立図書館長
委員	石田 智子	鹿児島大学准教授
	河上 麻由子	大阪大学大学院准教授
	富岡 優子	北九州市立自然史・歴史博物館学芸員
	中野 等	九州大学大学院教授
	井上 和信	太宰府市教育委員会教育長
	岩切 優子	筑紫野市立筑山中学校長
	秋永 晃生	小郡市教育委員会教育長
	植野 かおり	公益財団法人立花財団 立花家史料館長
	岩城 一磨	小郡市立のぞみが丘小学校長
	山野 善郎	有限会社建築史塾Archist代表取締役
	金田 明大	奈良文化財研究所埋蔵文化財センター長
川述 昭人	前八女市岩戸山歴史文化交流館長	

2 九州歴史資料館概要

(1) 沿革

昭和43年7月1日	大宰府史跡発掘調査指導委員会が発足し、第1回委員会が開催される。
昭和44年9月5日	福岡県が、九州歴史資料館設置計画の基本構想を発表
昭和46年3月8日	太宰府天満宮が九州歴史資料館・国立博物館用地として社有地約14万㎡を寄贈 福岡県は九州歴史資料館を建設することとし、建設工事に着手
昭和47年3月	建設工事竣工（落成式）
昭和47年4月	「福岡県公の施設及び管理に関する条例」に基づき九州歴史資料館設置 「九州歴史資料館組織規則」制定 副館長以下19名発令
昭和47年5月	鏡山猛、初代館長に就任
昭和47年11月	「九州歴史資料館協議会規則」制定（委員15名を委嘱）
昭和48年2月	「九州歴史資料館の利用に関する規則」制定
2月24日	九州歴史資料館開館（展示室一般公開始まる）
昭和49年8月	求菩提資料館開館
昭和50年9月4日	博物館相当施設（相当施設第9号）
昭和53年10月	大宰府史跡発掘調査10周年記念特別展「一甦る遠の朝廷—大宰府」開催
昭和56年4月	田村圓澄、第二代館長に就任
昭和59年2月	開館10周年記念特別展「国宝観世音寺鐘・妙心寺鐘とその時代」開催 開館10周年記念シンポジウム「古代の西海道と大宰府」開催
昭和60年4月1日	「九州歴史資料館条例」施行 求菩提資料館・甘木歴史資料館・柳川古文書館を分館とする
昭和60年5月25日	甘木歴史資料館開館
昭和60年10月1日	柳川古文書館開館
昭和63年9月	大宰府史跡発掘調査20周年記念特別展「発掘が語る遠の朝廷—大宰府」開催
平成2年9月	「とびうめ国体」の本県開催に並行し、特別展「古代の福岡」開催（～11月）
平成5年4月	吉久勝美、第三代館長に就任
平成5年10月	開館20周年記念特別展「日本の鬼瓦」開催
平成8年4月	高橋良平、第四代館長に就任
平成8年12月26日	公開承認施設（第51号）
平成9年6月	福岡県教育委員会教育長 光安常喜、九州歴史資料館長に兼務発令
平成10年10月	大宰府史跡発掘調査30周年記念特別展「大宰府復元」開催
平成14年4月	福岡県教育委員会教育長 森山良一、九州歴史資料館長に兼務発令
平成15年1月	開館30周年企画展示「大宰府へ、こころが動き、ものが動く」開催
平成15年8月	特別展「大宰府へ、ひとが動き、ものが動く」開催
平成16年4月	特別展「大宰府へ、くになが動き、ものが動く」開催
平成18年11月	特別展「観世音寺」開催
平成20年4月	西谷 正、第七代館長に就任 組織規則の一部改正；課制を廃止し、室・班制とする 小郡市三沢に新九州歴史資料館建設工事着手
平成20年10月	大宰府史跡発掘調査40周年記念事業開催（～12月） 『都府楼』刊行記念講演会、シンポジウム、企画展示など
平成21年6月	新九州歴史資料館建設工事竣工
平成22年3月	特集展示「九歴の歩み」開催
平成22年7月	組織移転（太宰府市→小郡市）

平成22年11月20日	開館記念式典・一般公開開始（21日～） 開館記念特別展「大宰府—その栄華と軌跡—」開催（～1月）
平成22年12月	開館記念シンポジウム「大宰府と西海道—古代の役所と人々の暮らし—」開催
平成23年2月	常設展公開開始
平成23年4月	文化財調査室（文化財調査班、保存管理班）設置
平成23年7月25日	登録博物館（第22号）
平成23年11月	特別展「発掘された日本列島2011」開催（～12月）
平成24年1月	移転開館1周年記念企画展「北部九州の霊山と経塚」開催（～2月）
平成24年10月	特別展「長崎街道—世界とつながった道—」開催（～12月）
平成25年1月	企画展「聖地四王寺山」開催（～3月）
平成25年4月	荒巻俊彦、第八代館長に就任 学芸調査室に広報普及班設置、学芸普及班は学芸研究班に名称変更、総務室に総務班設置
平成25年9月	開館40周年・移転開館3周年記念特別展 「戦国武将の誇りと祈り—九州の覇権のゆくえ—」開催（～11月）
平成25年10月	開館40周年・移転開館3周年記念イベント開催
平成26年1月	企画展「五卿と志士—維新前夜の太宰府—」開催（～2月）
平成26年4月	杉光 誠、第九代館長に就任
平成26年8月	企画展「黒田官兵衛と城」開催（～9月） 企画展「水城築堤1350年記念企画展「徹底解説!! 水城のすべて」」開催（～9月）
平成26年10月	特別展「福岡の神仏の世界—北部九州に華ひらいた信仰と造形—」開催（～11月）
平成26年11月	入館者10万人達成記念式典
平成27年9月	企画展「貝原益軒—大宰府研究の先賢たち—」開催（～10月）
平成27年10月	大野城築城1350年記念・移転開館5周年記念特別展 「四王寺山の1350年—大野城から祈りの山へ—」開催（～12月）
平成27年10月	移転開館5周年記念イベント開催
平成28年9月	特別展「八女の名宝」開催（～11月）
平成28年11月	企画展「大宰府の役人と文房具」開催（～1月）
平成29年8月	特別展「霊峰英彦山」開催（～9月）
平成29年10月	企画展「福岡県の城」開催（～12月） 企画展「大宰府を探るサイエンス」開催（～12月）
平成30年2月	企画展「堅粕薬師と東光院の古仏たち」開催（～4月）
平成30年4月	特別展「大宰府への道」開催（～6月）
平成30年6月	企画展「幕末の城—近世の沿岸警備と幕末期城郭—」開催（～8月）
令和元年10月	特別展「久留米—その歴史と文化—」（～12月）
令和2年1月	企画展「太宰府天満宮の境内絵図—さいふまいの江戸・明治—」（～2月）
令和2年2月	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため臨時休館（～5月）
令和2年4月	吉田法稔、第十代館長に就任
令和2年10月	移転開館10周年記念特別展「福岡の至宝に見る信仰と美」開催（～11月）
令和2年11月8日	移転開館10周年記念イベント開催（感染症拡大防止のため式典は縮小実施）
令和2年12月	企画展「朝鮮通信使と福岡—福岡県朝鮮通信使総合調査成果展—」開催（～2月）
令和3年4月	組織改編により文化財企画推進室を新設し、企画推進班を設置 保存管理班を学芸調査室から文化財企画推進室に移設 文化財調査室を埋蔵文化財調査室に名称変更
令和3年4月28日	城戸秀明、第十一代館長に就任
令和3年5月	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため臨時休館（～6月）
令和3年8月	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため臨時休館（～9月）

令和3年10月	特別展「九州山岳霊場遺宝―海を望む北西部の山々から―」（～12月）
令和4年4月	組織改編により、広報普及班を学芸調査室から文化財企画推進室へ移設 保存管理班を文化財科学班に名称変更し、文化財企画推進室から学芸調査室へ 移設、調査研究班を大宰府調査班へ名称変更
令和4年10月	特別展「京都平野と豊の国の古代」開催（～12月）
令和5年1月	企画展「尾形家三代―探幽に学んだ福岡藩お抱え絵師―」開催（～3月）
令和5年8月	開館50周年記念講演会「歴史の視点から九州 そして日本の未来を考える」開催
令和5年10月	特別展「船原古墳とかがやく馬具の精華」開催（～12月）
令和5年12月	企画展「重要文化財が語る古代大宰府」開催（～3月）

（2）施設概要

1) 本館棟	鉄筋コンクリート造・一部鉄骨造、地上2階 展示室、図書閲覧室、研修室、会議室、保存科学諸室、文化財整理諸室、 特別収蔵庫、図書収蔵庫、調査研究室、写真室、文化情報広場
2) 一般収蔵庫棟	鉄骨造、地上2階 木器保存処理室・一般収蔵庫
3) 新収蔵庫棟	軽量鉄骨造、地上1階 新収蔵庫
4) 敷地面積	43,438.62㎡
5) 延床面積	13,840.79㎡（本館：9,475.92㎡、一般収蔵庫：2,326.15㎡、新収蔵庫： 2,038.72㎡）
6) 建設費	約36億円（本館・一般収蔵庫）

（3）予算（5年度）

当館の事業費総額は276,092千円で、内訳別にみると次のとおりである。

1 九州歴史資料館費	249,786千円
九州歴史資料館運営費	154,437千円
歴史資料調査研究費	1,580千円
歴史資料等収集整備費	760千円
九州歴史資料館展示費	1,593千円
特別展示事業費	9,579千円
県史史料管理公開事業費	9,187千円
九州歴史資料館整備費	63,354千円
古代日本の「西の都」魅力発信費	9,296千円
2 文化財保護費	26,306千円
大宰府史跡発掘調査費	26,306千円

※受託・執行委任事業は除く

(4) 組織・職員 (令和5年4月1日現在)

①九州歴史資料館



所 属	職 名	氏 名	摘 要
館 長		城 戸 秀 明	
副館長		吉 村 靖 徳	
総務室	企画主幹		黒 岩 計 光 総務室長
	総務班	企画主査	岡 本 裕 子 総務班長
		事務主査	徳 永 裕 美
		主任主事	古 賀 知 香
	主事	原 口 美 紀	
学芸調査室	企画主幹		松 川 博 一 学芸調査室長
	学芸研究班	参事補佐	井 形 進 学芸研究班長
		参事補佐	酒 井 芳 司
		参事補佐	國 生 知 子
	文化財科学班	技術主査	遠 藤 啓 介
		参事補佐	加 藤 和 歳 文化財科学班長
	技術主査	小 林 啓	
文化財企画推進室	企画主幹		秦 憲 二 文化財企画推進室長
	企画推進班	参事補佐	入 佐 友 一 郎 企画推進班長
		主任技師	渡 部 邦 昭
		主任技師	日 野 綾 子
	広報普及班	指導主事兼企画主査	中 野 宏 人 広報普及班長
		指導主事兼事務主査	田 中 奨 俊
長期研修員		吉 浦 貴 則	
埋蔵文化財調査室	企画主幹		吉 田 東 明 埋蔵文化財調査室長
	文化財調査班	参事補佐	進 村 真 之 文化財調査班長
		参事補佐	岸 本 圭
		企画主査	坂 本 真 一
	大宰府調査班	技術主査	小 田 和 利
		参事補佐	宮 地 聡 一 郎 大宰府調査班長
技術主査		坂 元 雄 紀	
	技術主査	小 嶋 篤	

②九州歴史資料館研究論集編集委員会

委員長	副館長	吉村 靖徳	委 員	総務室長	黒 岩 計 光
委 員	学芸調査室長	松川 博一	委 員	埋蔵文化財調査室長	吉 田 東 明
委 員	文化財企画推進室長	秦 憲 二	事務局長	大宰府調査班長	宮 地 聡 一 郎

(5) 関係法規

○九州歴史資料館条例

昭和60年1月21日福岡県条例第4号)

最終改正 令和5年3月 福岡県条例第5号

(設置)

第1条 地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和31年法律第162号)第30条の規定に基づき、歴史資料の収集、保管、調査及び研究を行うとともに、併せてこれを展示し、もって文化財の保護と文化財愛護思想の普及に資するため、歴史資料館を設置する。

(名称及び位置並びに分館の設置)

第2条 歴史資料館の名称及び位置は、次のとおりとする。

名 称	位 置
九州歴史資料館	小郡市

2 九州歴史資料館に分館を置き、その名称及び位置は、次のとおりとする。

名 称	位 置
求菩提資料館	豊前市
甘木歴史資料館	朝倉市
柳川古文書館	柳川市

(利用の承認等)

第3条 福岡県公の施設の設置及び管理に関する条例(昭和39年福岡県条例第5号)第3条から第6条まで及び第9条の規定は、九州歴史資料館の利用の承認等について適用する。この場合において、第4条第1項中「知事若しくは委員会から公の施設の管理に関し委任を受けた者」とあるのは、「指定管理者」と読み替えるものとする。

(九州歴史資料館協議会)

第4条 博物館法(昭和26年法律第285号)第23条第1項の規定に基づき、九州歴史資料館協議会(次項及び第六項において「協議会」という。)を置く。

2 協議会の委員(以下この条において単に「委員」という。)は、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者の中から任命する。

3 委員の定数は、15人以内とする。

4 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

5 委員は、再任されることができる。

6 前各項に定めるもののほか、協議会に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

(使用料)

第5条 九州歴史資料館を利用する者は、別表第1各表の区分に応じ、当該各表に掲げる金額の使用料を納めなければならない。

2 前項の規定により納付した使用料は、還付しない。ただし、規則で定める場合に該当するときは、その全部又は一部を還付することができる。

(手数料)

第6条 資料の複写を依頼しようとする者は、別表第2の区分に応じ、同表に掲げる金額の手数料を納めなければならない。

(使用料又は手数料の減免)

第7条 知事は、規則で定める場合に該当するときは、使用料又は手数料を減額し、又は免除することができる。

(適用除外)

第8条 前3条の規定は、第2条第2項に規定する分館(以下単に「分館」という。)については、適用しない。

(指定管理者による管理)

第9条 分館の管理に関する業務のうち次に掲げるものは、地方自治法(昭和22年法律第67号)第244条の2第3項の規定により、法人その他の団体であって教育委員会が指定する者(以下「指定管理者」という。)に行わせるものとする。

- 一 分館の利用の許可に関する業務
- 二 分館の諸施設の維持及び保守に関する業務
- 三 前2号に掲げるもののほか、教育委員会が別に定める業務

(指定管理者の指定の手続)

第10条 指定管理者の指定を受けようとする者は、教育委員会規則で定める申請書に、次に掲げる書類を添えて、教育委員会に提出しなければならない。

- 一 事業計画書
- 二 前号に掲げるもののほか、教育委員会規則で定める書類

2 教育委員会は、前項の規定による申請があったときは、次の各号のいずれにも該当する者の中から最も適切に分館の管理を行うことができると認めたる者を指定管理者として指定するものとする。

- 一 事業計画の内容が、住民の平等な利用を確保することができるものであること。
- 二 事業計画の内容が、分館の効用を最大限に発揮させるとともに、効率的な管理ができるものであ

ること。

三 分館の管理を安定して行うために必要な人員及び財政的基盤を有しているものであること。

四 法令並びに関係条例及び規則の規定を遵守し、適正な管理ができるものであること。

五 その他教育委員会が分館の設置の目的を達成するために必要と認めるものとして別に定める事項

3 教育委員会は、指定管理者の指定をしたとき、及び指定を取り消したときは、遅滞なく、その旨を公示するものとする。

(秘密保持義務)

第11条 指定管理者及び分館の管理に関する業務に従事する者(以下「従事者」という。)は、個人情報適切に保護されるよう配慮するとともに、分館の管理に関し知り得た秘密を他に漏らし、又は自己の利益のために利用してはならない。指定管理者の指定の期間が満了し、又は指定を取り消され、及び従事者の職務を退いた後においても、同様とする。

(協議)

第12条 この条例に定めるもののほか、管理に要する経費その他必要な事項は、教育委員会と指定管理者が協議して定める。

(規則への委任)

第13条 この条例の施行に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

附 則(抄)

(施行期日)

この条例は、昭和60年4月1日から施行する。

附 則(令和5・3・24 福岡県条例第5号)

(施行期日)

この条例は、令和5年4月1日から施行する。

別表第1(第5条関係)

1 九州歴史資料館が主催して展示する歴史資料館の観覧料

区	分	金額 (1回につき)
個人で観覧する場合	一般	210円
	大学生・高校生	150円
20人以上の団体で観覧する場合	一般	150円
	大学生・高校生	100円

備考

1 この表において「大学生・高校生」とは、大学、高等専門学校、高等学校、中等教育学校の後期課程、特別支援学校の高等部、専修学校又はこれらに準ずるものに在学する者をいう。

2 この表において「一般」とは、大学生・高校生及び中学生(中学校、義務教育学校の後期課程、中等教育学校の前期課程、特別支援学校の中学部又はこれらに準ずるものに在学する者をいう。)以外の

者であって、15歳以上の者をいう。

2 展示室の使用料

区	分	金額 (1日につき)
入場料を徴収しない場合	第2展示室	3,510円
	第4展示室	8,500円
入場料を徴収する場合	第2展示室	5,260円
	第4展示室	12,750円

3 会議室及び研修室の使用料

区	分	金額(1時間につき)
	会議室	390円
	研修室1	390円
	研修室2	390円
	研修室3	390円

備考 使用時間に1時間に満たない端数があるときは、当該端数を1時間として計算する。

別表第2(第6条関係)

区	分	金額(1枚につき)
	電子式複写(白黒)	10円
	マイクロフィルムから	10円

○九州歴史資料館の利用、指定管理者の指定等に関する規則

(昭和48年2月20日教育委員会規則第4号)

最終改正 令和3年3月 教育委員会規則第4号

(目的)

第1条 この規則は、九州歴史資料館条例(昭和60年福岡県条例第4号。以下「条例」という。)第13条の規定に基づき、九州歴史資料館(以下「資料館」という。)の利用、指定管理者の指定等について定めることを目的とする。

(休館日)

第2条 資料館の休館日は、次のとおりとする。

一 月曜日。ただし、その日が国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日当たるときは、その日後においてその日に最も近い休日でない日

二 12月28日から翌年1月4日まで

2 前項の規定にかかわらず、九州歴史資料館長等(分館にあっては指定管理者。以下「館長等」という。)が必要と認めた場合は、臨時に休館又は開館することができる。ただし、この場合は、館長等がその都度あらかじめ日時を公示しなければならない。

- 3 前項の規定により、指定管理者が分館を臨時に休館又は開館しようとするときは、あらかじめ教育委員会の承認を受けるものとする。
(開館時間)
- 第3条 資料館の開館時間は、午前9時30分から午後4時30分までとする。ただし、入館は、午後4時までとする。
- 2 館長等は、特別の事情があるときは、前項に規定する開館時間を変更することができる。
- 3 前項の規定により、指定管理者が分館の開館時間を変更しようとするときは、あらかじめ教育委員会の承認を受けるものとする。
(利用の申込)
- 第4条 資料館(分館を除く。)の展示室、会議室及び研修室を利用しようとする者は、別に定める利用申込書を、事前に九州歴史資料館長に提出しなければならない。
(利用申込の取消又は変更)
- 第5条 前条の申込みをした者が、利用を中止し、又は利用内容を変更しようとするときは、直ちに九州歴史資料館長にその旨を通知しなければならない。
(利用の承認)
- 第6条 九州歴史資料館長は、第4条の使用申込が提出されたときは、速やかにこれを審査して使用の承認又は不承認を決定し、申込者に通知しなければならない。
(資料の複写)
- 第7条 資料の複写を必要とする場合は、九州歴史資料館長が別に定めるところにより、これを依頼することができる。ただし、次の各号の一に該当する場合は、九州歴史資料館長は、複写を認めないことがある。
- 一 著作権法(昭和45年法律第48号)に違反するおそれがあると認められるとき。
 - 二 資料館の管理上支障があると認められるとき。
 - 三 その他九州歴史資料館長が複写を不相当と認めたとき。
- 2 前項の複写は、九州歴史資料館に設置された複写機器により行うものとする。
(利用制限)
- 第8条 館長等は、次の各号の一に該当すると認められる者については、入館を禁じ、又は退館を命ずることができる。
- 一 他人に迷惑をかけ、展示品又は施設設備を損傷するおそれがあると認められる者
 - 二 その他係員の指示に従わない者
- (資料の館外貸出し)
- 第9条 資料の館外貸出しは、原則として行なわないものとする。ただし、博物館、図書館、学校、官公署、その他館長等が適当と認めたものに対しては、この限りでない。
- 2 前項ただし書に掲げるものが資料の館外貸出しを受けようとする場合は、別に定めるところにより、館長等の許可を受けなければならない。
- 3 資料の館外貸出しを受けたものは、館長等の指示するところにより、管理に当らなければならない。
- 4 館外貸出しを受けた資料は、これを他に転貸してはならない。
- 5 資料の貸出期間は、品目によって館長等がその都度定めるものとする。
(損害の賠償)
- 第10条 観覧者、利用者又は資料の館外貸出しを受けたものが、自己の責に帰すべき理由により、施設設備、展示品又は資料を損傷し、又は滅失したときは、館長等の指示を受けてこれを原形に復し、又は館長等が定める相当の代価をもって損害を賠償しなければならない。
(寄贈又は寄託)
- 第11条 資料館は、資料の寄贈又は寄託をうけることができる。
- 2 資料館に資料を寄贈又は寄託しようとする者は、別に定めるところにより、館長等にその旨申出るものとする。
- 3 館長等が寄贈又は寄託を受けることを決定した場合は、本人にこの旨を通知するものとする。
(寄贈資料の取扱い)
- 第12条 寄贈を受けた資料には、寄贈者の氏名及び寄贈年月日を標記し、永くその篤志を伝えるものとする。
(寄託資料の取扱い)
- 第13条 寄託を受けた資料(以下「寄託資料」という。)の寄託期間は、その都度館長等が寄託者と協議して定めるものとする。
- 2 寄託資料は、資料館所蔵の資料と同一の取扱いとする。
- 3 寄託資料は、寄託者の請求又は資料館の都合によりこれを返還することがある。
- 4 寄託資料が天災その他不可抗力によって滅失又は損傷したときは、資料館は損害賠償の責を負わない。
(申請書及び添付書類)
- 第14条 条例第10条第1項の教育委員会規則で定める申請書は、別記様式によるものとする。
- 2 条例第10条第1項第2号の教育委員会規則で定める書類は、次に掲げる書類とする。
- 一 同種の施設の管理及び運営に係る活動実績報告書
 - 二 前号に掲げるもののほか、教育委員会が特に必要なものとして別に定める書類
- (その他)
- 第15条 この規則に定めるもののほか、必要な事項は、館長等が別に定める。
附則(抄)

この規則は、昭和48年2月24日から施行する。
 附 則（平成22・6・30教育委員会規則第10号）
 この規則は、平成22年7月1日から施行する。
 附 則（令和3・3・16教育委員会規則第4号）
 この規則は、令和3年4月1日から施行する。

○九州歴史資料館組織規則

（昭和47年4月1日教育委員会規則第2号）

最終改正 令和5年3月 教育委員会規則第1号
 （趣旨）

第1条 この規則は、九州歴史資料館条例（昭和60年福岡県条例第4号）第3条の規定に基づき、九州歴史資料館（以下「資料館」という。）の組織その他必要な事項を定めるものとする。

（職員の職）

第2条 資料館職員の職として、次の表の上欄に掲げる職を置き、その職務は、それぞれ同表下欄に掲げるとおりとする。

館 長	教育長の命を受け、資料館の事務を掌理し、所属職員を指揮監督する。
副 理 事	上司の特命に係る事務を処理する。
副 館 長	館長を補佐し、館長が不在のとき又は館長が欠けたときは、その職務を代理する。
参 事	上司の命を受け、資料館の事務を分担処理する。
参事補佐	上司の命を受け、資料館の事務を分担処理する。
企画主幹	上司の命を受け、企画・調整等に関する事務に関し、館長又は副館長を補佐する。
主 幹	上司の命を受け、資料館の事務を処理するとともに、培われた知識、技術、経験を活かし、上司を補佐する。
指導主査	上司の命を受け、事務を処理するとともに、培われた知識、技術、経験を活かし、職員を指導する。
指導主事	上司の命を受け、学校教育に関する専門的事項の指導に関する事務に従事する。
社会教育主事	上司の命を受け、社会教育に関する専門的事項の指導に関する事務に従事する。
企画主査	上司の命を受け、調査、計画立案等の事務を処理する。
事務主査	上司の命を受け、企画主幹等を補佐し、事務を処理する。
技術主査	上司の命を受け、企画主幹等を補佐し、技術を処理する。 上司の命を受け、企画主幹等を補佐し、歴史資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これと関連する事業について専門的事項を処理する。

主任主事	上司の命を受け、複雑な事務をつかさどる。
主任技師	上司の命を受け、複雑な技術をつかさどる。
	上司の命を受け、歴史資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これと関連する事業について複雑な専門的事項をつかさどる。
主 事	上司の命を受け、事務をつかさどる。
技 師	上司の命を受け、技術をつかさどる。
	上司の命を受け、歴史資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これと関連する事業について専門的事項をつかさどる。
主任技能員	上司の命に従い、高度な技能を要する労務に従事する。
技 能 員	上司の命に従い、労務に従事する。

（所掌事務）

第3条 資料館の所掌事務は、次のとおりとする。

- 一 古文書、典籍等の収集、保管、調査及び研究に関すること。
- 二 美術工芸品、民俗資料等の収集、保管、調査及び研究に関すること。
- 三 古文書、典籍、美術工芸品、民俗資料等の展示及び文化財愛護思想の普及に関すること。
- 四 考古資料の収集、保管、調査及び研究に関すること。
- 五 考古資料の展示に関すること。
- 六 歴史資料の科学的保存処理に関すること。
- 七 史跡の発掘調査及び研究に関すること。
- 八 史跡に関する歴史資料の収集、保管、調査、研究、展示及び整備に関すること。
- 九 公印の管守並びに職員の身分及び服務並びに文書の收受、発送、編集及び保存、公文書の開示等に関すること。
- 十 予算並びに税外諸収入の収入並びに経費の支出並びに物品の出納及び保管並びに現金及び有価証券等の保管に関すること。
- 十一 九州歴史資料館協議会に関すること。
- 十二 職員の研修及び福利厚生に関すること。
- 十三 施設設備の管理に関すること。
- 十四 埋蔵文化財の発掘調査受託事業等の事務に関すること。
- 十五 埋蔵文化財の発掘調査に関すること。

（補則）

第4条 この規則に定めるもののほか、必要な事項は、教育長が別に定める。

附 則（抄）

この規則は、公布の日から施行する。

附 則（令和5・3・31教育委員会規則第1号）

この規則は、令和5年4月1日から施行する。

○九州歴史資料館協議会規則

(昭和60年3月30日教育委員会規則第4号)

最終改正 平成24年3月 教育委員会規則第1号

(趣旨)

第1条 この規則は、九州歴史資料館条例(昭和60年福岡県条例第4号)第4条第1項に規定する九州歴史資料館協議会(以下「協議会」という。)の運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(会長及び副会長)

第2条 協議会に、会長及び副会長各1名を置く。

2 会長及び副会長は、委員の互選によるものとし、任期は1年とする。ただし、再選することができる。

3 会長は、会務を総理する。

4 副会長は、会長が欠けたとき又は会長に事故があるときは、その職務を代理する。

(会議の招集)

第3条 協議会の会議は、必要に応じ、会長が招集する。

2 資料館の館長は、必要と認めるときは、会長に協議会の招集を求めることができる。

(議決)

第4条 協議会の会議は、委員の半数以上が出席しなければ、会議を開き議決することができない。

2 協議会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

(庶務)

第5条 協議会の庶務は、九州歴史資料館において処理する。

(補則)

第6条 この規則に定めるもののほか、協議会の運営及び会議に関し必要な事項は、会長が協議会にはかつて定める。

附 則(抄)

(施行期日等)

1 この規則は、昭和60年4月1日から施行する。

(経過措置)

2 この規則の施行の日の前日において九州歴史資料館協議会委員に任命されている者については、別に辞令が発せられない限り改正後の九州歴史資料館協議会規則(以下「改正後の規則」という。)第四条の規定により任命されたものとみなし、当該委員の期間は改正後の規則第五条の規定による委員の期間に通算する。

附則(平成24年3月28日教育委員会規則第1号)

(施行期日)

この規則は、平成24年4月1日から施行する。

○九州歴史資料館の使用料及び手数料に関する規則

(平成22年6月30日福岡県規則第30号)

最終改正 令和3年3月 県規則第26号

(趣旨)

第1条 この規則は、九州歴史資料館条例((昭和60年福岡県条例第4号。以下「条例」という。))に規定する九州歴史資料館(以下「資料館」という。)の使用料及び手数料に関し必要な事項を定めるものとする。

(使用料の徴収時期)

第2条 使用料(条例第5条第1項の使用料をいう。以下同じ。)は、資料館の利用の承認の際に徴収する。ただし、国又は地方公共団体が利用する場合にあっては、当該利用の後に徴収することができる。

(使用料の還付)

第3条 条例第5条第2項ただし書の規則で定める場合は、次の各号に掲げる場合とし、同項ただし書の規定により還付する使用料の額は、当該各号に掲げる場合の区分に応じ当該各号に定める額(その額に十円未満の端数があるときは、これを切り捨てた額)とする。

一 天災地変その他資料館の利用の承認を受けた者の責めに帰することができない理由で当該利用ができなくなった場合

当該利用に係る使用料の全額

二 前号に掲げる場合のほか、知事が特に必要と認める場合

知事が必要と認める額

(手数料の徴収時期)

第4条 手数料(条例第6条の手数をいう。以下同じ。)は、資料の複写の依頼を受けるときに徴収する。

(使用料及び手数料の減免)

第5条 条例第7条の規則で定める場合は、次の各号に掲げる場合とし、同条の規定により減額又は免除(「以下「減免」という。))をする使用料又は手数料の額は、当該各号に掲げる場合の区分に応じ当該各号に定める額(その額に十円未満の端数があるときは、これを切り捨てた額)とする。

一 学校教育法(昭和22年法律第26号)に規定する高等学校、中等教育学校の後期課程又は特別支援学校の高等部の生徒が教育上の目的のために教職員に引率されて観覧(資料館が主催して展示する歴史資料の観覧をいう。以下同じ。)をする場合 当該観覧に係る観覧料(条例別表第一の一の表の観覧料をいう。以下同じ。)の全額

二 学校教育法に規定する幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校又は特別支

- 援学校の幼児、児童又は生徒を教育上の目的のために引率する教職員が観覧をする場合 当該観覧に係る観覧料の全額
- 三 児童福祉施設（児童福祉法（昭和22年法律164号）第7条第1項に規定するものをいう。以下同じ。）に入所又は通所している少年（同法第4条第3号に規定する少年をいう。以下同じ。）が教育上の目的のために児童福祉施設の職員に引率されて観覧をする場合 当該観覧に係る観覧料の全額
- 四 児童福祉施設に入所又は通所している幼児（同法第4条第2号に規定する幼児をいう。）又は少年を教育上の目的のために引率する児童福祉施設の職員が観覧をする場合 当該観覧料に係る観覧料の全額
- 五 学校教育法に規定する高等学校、中等教育学校の後期課程若しくは特別支援学校の高等部の生徒又はこれに準ずる者が土曜日に観覧をする場合 当該観覧に係る観覧料の全額
- 六 身体障害者福祉法（昭和24年法律第283号）第15条に規定する身体障害者手帳の交付を受けている者が観覧をする場合 当該観覧に係る観覧料の全額
- 七 療育手帳制度要綱（昭和48年9月27日厚生省発児第156号）に規定する療育手帳（以下単に「療育手帳」という。）の交付を受けている者が観覧をする場合 当該観覧に係る観覧料の全額
- 八 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律（昭和25年法律第123号）第45条に規定する精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者が観覧をする場合 当該観覧に係る観覧料の全額
- 九 福岡県男女共同参画センター、福岡県人権啓発情報センター及び福岡県総合福祉センターの設置及び管理に関する条例施行規則（平成8年福岡県規則第55号）第9条第5号に規定する身体障害者若しくは身体障がいのある人、療育手帳の交付を受けている者又は精神保健及び精神障害者福祉に関する法律施行令（昭和25年政令第155号）第6条第3項に規定する1級若しくは2級の精神障害者（以下「障がいのある人」と総称する。）の介護人が当該障がいのある人とともに観覧をする場合 当該観覧に係る観覧料の全額
- 十 65歳以上の者が観覧をする場合 当該観覧に係る観覧料の全額
- 十一 県又は県教育委員会の主催する行事の用に供するため、入場料を徴収して展示室、会議室又は研修室（以下「展示室等」という。）の使用をする場合 当該使用に係る使用料の50パーセントに相当する額
- 十二 前号の用に供するため、入場料を徴収しないで展示室等の使用をする場合 当該使用に係る使用料の全額
- 十三 学校教育法第1条に規定する学校が資料館の設置の目的に適合する展示室等の使用をする場合 当該使用に係る使用料の全額
- 十四 地方公共団体が資料館の設置の目的に適合する展示室等の使用をする場合 当該使用に係る使用料の全額
- 十五 県の機関が資料の複写を依頼する場合 当該複写に係る手数料の全額
- 十六 前各号に掲げる場合のほか、知事が特に必要と認める場合 知事が必要と認める額
- 十七 中等教育学校の後期課程若しくは特別支援学校の高等部の生徒又はこれに準ずる者が土曜日に観覧する場合 当該（減免の申請）
- 第6条 前条第1号から第4号までのいずれかに該当する場合の観覧料の免除を受けようとする場合は、これらの号に規定する引率をする者は、九州歴史資料館観覧料免除申請書（様式第1号）を知事に提出しなければならない。
- 2 前条第5号から第10号までのいずれかに該当する場合の観覧料の免除を受けようとする場合は、これらの号に規定する者（前条第9号に該当する場合にあっては、障がいのある人）は、これらの号に該当することを証明することができる書類を資料館の職員に提示しなければならない。
- 3 前条第11号から第14号までのいずれかに該当する場合の使用料の減免を受けようとする者は、九州歴史資料館使用料減免申請書（様式第2号）を知事に提出しなければならない。
- 4 前条第15号に該当する場合の手数料の免除を受けようとする者は、九州歴史資料館複写手数料免除申請書（様式第3号）を知事に提出しなければならない。
- 5 前条第16号に該当する場合の使用料又は手数料の減免を受けようとする者は、別に指示する方法により申請しなければならない。
- 附 則(抄)
- この規則は、平成22年7月1日から施行する。
- 附 則（令和3・3・30県規則第26号）
- この規則は、公布の日から施行する。

3 諸 統 計

(1) 入館者状況

ア 5年度入館者状況

期 間	開館日数	入館者数	1日平均入館者数
令和5年4月1日から 令和6年3月31日まで	307日	40,269人	131人

イ 過去5年間の入館者推移

単位・人

年度区分	開館日数	合計入館者数	合計有料入館者数	合計入館者内訳			1日平均入館者数
				大人	高大生	中学生以下	
元年度	278	31,500	1,489	28,313	588	2,599	113
2年度	266	16,939	2,622	15,595	314	1,030	64
3年度	238	21,417	2,044	17,581	429	3,407	90
4年度	306	35,496	2,704	29,678	913	4,905	116
5年度	307	40,269	3,647	34,856	824	4,589	131

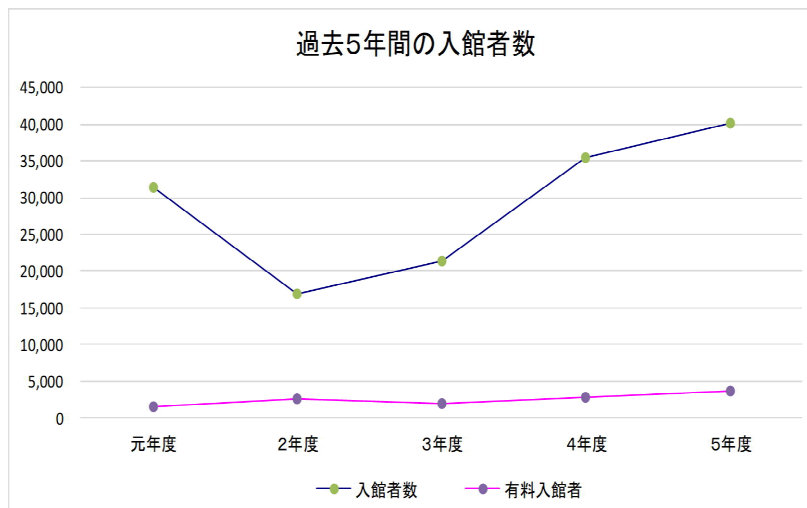
※つり天井工事実施のため、平成30年8月13日から令和元年10月11日まで、第1・3展示室（有料展示室）を閉室。

※新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、

令和2年は2月28日～5月18日、令和3年は5月11日～6月20日、8月6日～9月13日 臨時閉館

ウ 過去5年間の入館者推移

単位・人



(2) 収蔵資料・図書

< 寄贈等資料 >

考古資料 287,373点 歴史資料 129,371点

< 図 書 >

購 入 5,279 冊 寄 贈 181,878 冊

4 日誌抄（5年度）

年 月 日	内 容
令和5年	
4月 1日（土）	パネル展「保存科学成果展－船原古墳遺物埋納坑調査の最前線2022～2023－」（～6月4日（日））
4月 1日（土）	特集展示「きゅうおにとタイムトラベラー大昔のくらしと国づくり2023－」（～7月17日（月・祝））
4月 9日（日）	古代体験特別プログラム「竪穴住居づくり体験」
4月16日（日）	桜コンサート（共催：桜コンサート実行委員会）
4月18日（火）	私の成果展「県立糸島高等学校歴史部・県立朝倉高等学校史学部」（～6月18日（日））
4月23日（日）	ボランティアイベント「綿の種まき体験」
4月30日（日）	ボランティアイベント「おりがみカブトづくり&組ひも体験」
5月12日（金）	教員向けオンライン研修会「文化財とICTを活用した授業づくり」
5月21日（日）	古代体験特別プログラム「弓矢・投壺体験」
5月24日（水）	ボランティアイベント「大人組紐講座 基礎編」
5月27日（土）	ミュージアムナイト①
6月 3日（土）	キッズミュージアム「古代体験①」田植え体験・藍染め体験
6月 6日（火）	パネル展「筑紫・豊（前）の四つの窓（後編）」（～9月3日（日））
6月16日（金）	第1回埋蔵文化財発掘調査基礎研修
6月18日（日）	古代体験特別プログラム「組紐でミサンガづくり」
6月20日（火）	大宰府史跡調査研究指導委員会（～6月21日（水））
6月20日（火）	私の成果展「九歴ボランティア成果展」（～8月13日（日））
6月23日（金）	埋蔵文化財安全衛生講習会
7月 7日（金）	文化財基礎研修
7月19日（水）	特集展示「やきもの はじめの一步！②やきものの色」（～10月1日（日））
7月21日（金）	第2回埋蔵文化財発掘調査基礎研修
7月29日（土）	なるほど！親子歴史教室2023
7月31日（月）	九州歴史資料館協議会
8月 1日（火）	特集展示「昭和の大宰府再置～九州地方行政協議会と九州地方総監府」（～9月24日（日））
8月 6日（日）	きゅうれき絵画教室①
8月15日（火）	私の成果展「全国高等学校歴史学フォーラム2023県内参加校特集展」（～10月15日（日））
8月16日（水）	きゅうれき絵画教室②
8月18日（金）	教員のための博物館の日in九歴
8月21日（月）	博物館実習（～8月31日（木））
8月27日（日）	九州歴史資料館開館50周年記念講演会「歴史の視点から九州そして日本の未来を考える－近世の藩政改革から日本の近代化を語る－」
9月 2日（土）	ボランティアイベント「手織りコースターづくり」
9月 5日（火）	パネル展「福岡鉄道遺産ものがたり9～筑前・筑後・車両編～」（～12月3日（日））
9月13日（水）	ボランティアイベント「大人組紐講座 上級編」
9月22日（金）	第3回埋蔵文化財発掘調査基礎研修
9月29日（金）	民俗文化財基礎研修
10月 1日（日）	ボランティアイベント「白・茶綿のつみとり体験」

年 月 日	内 容
10月 7日 (土)	特別展「船原古墳とかがやく馬具の精華」(～12月 3日 (日))
10月17日 (火)	私の成果展「九歴絵画展～いろんな目でみてみたら～」(～12月10日 (日))
10月20日 (金)	第 4 回埋蔵文化財発掘調査基礎研修
10月21日 (土)	キッズミュージアム「古代体験②」稲刈り体験・石包丁づくり
10月21日 (土)	文化財めぐり「むなかた古墳日和」
10月29日 (日)	特別展開催記念茶会(共催:小郡市文化協会裏千家)
10月31日 (火)	教育センターキャリアアップ講座「歴史体験!～身近な文化財を通して地域の歴史や文化に親しむ～」
11月 3日 (金・祝)	古代史研究フォーラム「船原古墳の馬を語る」
11月 4日 (土)	ミュージアムナイト②
11月 8日 (水)	文化財安全パトロール
11月12日 (日)	アクロスミュージアムコンサートin九州歴史資料館
11月16日 (木)	「発見!九歴」健康ウォーク①
11月17日 (金)	第 5 回埋蔵文化財発掘調査基礎研修
11月23日 (木・祝)	古代体験まつり
12月 3日 (日)	キッズミュージアム「古代の生活体験」with 福岡県青少年科学館 科学工作体験
12月 5日 (火)	企画展 発掘成果展「西新町遺跡～古墳時代初頭、日本列島最大級の国際貿易拠点～」(～3月17日 (日))
12月 5日 (火)	パネル展「九州の航空機用掩体」(～3月10日 (日))
12月12日 (火)	私の成果展「高校生歴史研究成果展」(～2月 4日 (日))
12月15日 (金)	第 6 回埋蔵文化財発掘調査基礎研修
12月16日 (土)	企画展「重要文化財が語る古代大宰府」(～3月17日 (日))
12月17日 (日)	古代体験特別プログラム「古代衣装着付け体験」
令和 6 年	
1月16日 (火)	大宰府史跡調査研究指導委員会調査研究部会
1月17日 (水)	ボランティアイベント「大人組紐講座 初級編」
1月18日 (木)	「発見!九歴」健康ウォーク②
1月19日 (金)	第 7 回埋蔵文化財発掘調査基礎研修
1月21日 (日)	古代体験特別プログラム「VRで発掘体験」
2月 3日 (土)	企画展開催記念講演会「日本古代の都城と大宰府～遺構と出土品から考える～」
2月 6日 (火)	私の成果展「来館小学生の学びの成果展」(～8月12日 (月))
2月13日 (火)	有形文化財(美術工芸品)基礎研修(～2月14日 (水))
2月15日 (木)	「発見!九歴」健康ウォーク③
2月17日 (土)	大宰府史跡蔵司地区の発掘調査報告会
2月18日 (日)	古代体験特別プログラム「弓矢体験・たけとんぼづくり」
3月 3日 (日)	ボランティアイベント「折り雛づくり・オリジナルトートづくり」
3月12日 (火)	パネル展「筑紫地区文化財写真展ーちくし再発見～ちくしまいり～江戸時代のくらしと信仰～」(～3月24日 (日))
3月13日 (水)	記念物基礎研修
3月19日 (火)	特集展示「きゅうおにとタイムトラベラー大昔のくらしと国づくり2024ー」(～7月15日 (月・祝))
3月21日 (木)	「発見!九歴」健康ウォーク④
3月26日 (火)	パネル展「保存科学成果展ー船原古墳遺物埋納坑調査の最前線2023～2024ー」(～6月 4日 (日))

福岡県行政資料	
分類番号 JH	所属コード 2120261
登録年度 6	登録番号 0001

九州歴史資料館年報（令和5年度）

発行日 令和6年8月1日

編集・発行 九州歴史資料館

〒818-0068

福岡県小郡市三沢5208-3

T E L 0942-75-9575

F A X 0942-75-7834

ANNUAL BULLETIN

OF

KYUSHU HISTORICAL MUSEUM

2023

CONTENTS

Preface

1	2023 Report of Kyushu Historical Museum	
(1)	Survey and Research	4
(2)	Exhibition	17
(3)	Item Available	26
(4)	Study Support/Museum, school Cooperation	37
(5)	Volunteer	44
(6)	Dissemination/Utilization	47
(7)	Priority Measures	62
(8)	Public Relations Activities	64
(9)	Practice and Training Opportunities	68
(10)	Support for Municipalities	72
(11)	Published matter	78
(12)	Interchange	79
(13)	Conference and Meeting Facilities	79
2	Organization of Kyushu Historical Museum	
(1)	History	80
(2)	Building and Grounds	82
(3)	Budget	82
(4)	Organization Chart and Staff	83
(5)	Rules and Regulations	84
3	Statistics of Kyushu Historical Museum	
(1)	Museum Visitors	90
(2)	Total Materials and Books	90
4	Outline of 2023 Activities	91